最後のページのない地図

ウェブ読書版



Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityのオリジナル写真に着想を得た、挿絵付きの旅のフィクション。

80編の物語・368点の挿絵

目次

第1章	スロバキア
第2章	ポルトガル
第3章	スペインとジブラルタル
第4章	リヴィエラとモナコ
第5章	イタリアとバチカン市国
第6章	ベルギー
第7章	オランダ
第8章	クロアチア
第9章	モンテネグロ
第1話	振り向いてくれた街
第2話	風がめくったページ
第3話	私を導いた一本の線
第4話	それでも気持ちは通じた
第5話	日陰の特等席
第6話	あと五分だけ
第7話	ひと風、ください
第8話	自然な顔で、と言われても
第9話	たった一枚の絵はがきに
第10話	三人分のお茶
第11話	今日はここにいよう

目次

第12話 三つのまなざし、ひとつの旅
第13話 この街、私に似合う
第14話 ポケットいっぱいの空
第15話 あとひとつ、角を曲がれば
第16話 三人そろうと、黙っていられない
第17話 「ボンジュール」ひとつで
第18話 鍵はいりません
第19話 ゆがんだ線も、いいものだ
第20話 大きな計画、小さな喜び
第21話 旅のノートが黙るとき
第22話 まだ帰らないよ
第23話 予定を変えた雨
第24話 甘い取り決め
第25話 なんでもない日のワンピース
第26話 レンズの反対側で
第27話 ポケットいっぱいの日曜日
第28話 切符のいらない小さな演奏会
第29話 一色だけじゃ足りない
第30話 笑顔は隠せない
第31話 海に出なかった舟

目次

第32話 五分間だけ、わが家
第33話 帽子には帽子の行き先がある
第34話 一度かぎりのルール
第35話 うれしくて、ひとステップ
第36話 真顔でなんていられない
第37話 王冠は家でお留守番
第38話 切符のいらない劇場
第39話 手元に残す手紙
第40話 予約なしのピクニック
第41話 かばんに入らなかった色
第42話 今日はル・チアが決める
第43話 太陽に似合うイヤリング
第44話 アイスは待ってくれない
第45話 小さな赤いリボン
第46話 三人でレモンひとつ
第47話 寄り道するための切符
第48話 似顔絵、似てるかな
第49話 理由のいらない花
第50話 ドラゴンはお休み
第51話 ひとり席、お願いします

目次

第52話 片方だけの青い手袋の謎
第53話 扇子の小さなひと芝居
第54話 最後に決めるのはボール
第55話 街灯からの招待状
第56話 猫が私たちを選んだ
第57話 仮面と、私自身の笑顔
第58話 ワッフルひとつ、笑顔が三つ
第59話 靴にもひと休み
第60話 景色を眺めて、ひそひそ話
第61話 自転車と、のんびりした朝
第62話 私たち三人への絵はがき
第63話 数えずにのぼる階段
第64話 セルフタイマーの一枚
第65話 名前のない歌
第66話 傘と、気の合う仲間たち
第67話 私のかかとを追う影
第68話 ライオンは笑わない
第69話 こだまも仲間に加わった
第70話 今日の予報は笑顔三つ
第71話 もう一ページ

第1章

スロバキア

全9章の第1章・メアのノート

はじめの一ページ

ノートを買ったとき、行き先はまだ決まっていなかった。最初のページは三日間、白いままだった。何かを始めるには、思いのほか広い余白がいるらしい。

四日目の朝、青いワンピースを着てスカーフを結び、外へ出た。華々しい旅立ちなんかじゃない。路面電車に乗りそびれ、少し静かな通りに入り、何度も前を通った塔を見上げた。

川べりで、ようやくひとこと書けた。「よく知っているつもりの場所から始めよう。」

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

知っているつもりの街

ブラチスラヴァ





アーカイブの写真

塔はずっと前からここにあった。今日、私はようやく顔を上げた。

ブラチスラヴァ





アーカイブの写真

見慣れているのを、もうすっかり見たことと取り違えていた。

ブラチスラヴァ





アーカイブの写真

夕方には、いつもの通りまで気が変わったような顔をしていた。

デヴィーン





アーカイブの写真

川が矢印をくれた。こちらが用意したのは、履いてきたブーツが一足。

出かけるための、ほんの少しの勇気

トルナヴァ





アーカイブの写真

窓をひとつ、枝を一本、それから午後のひとかけらを拾い集めた。

バンスカー・シュティアヴニツァ





アーカイブの写真

丘に立つと、問いかけがどこまで遠くへ行けるか、よくわかる。

ハイ・タトラ山地





アーカイブの写真

ここまで上ると、ページには言葉より空のほうがたくさん要る。

バンスカー・シュティアヴニツァ





アーカイブの写真

私の心得、その一。準備ができたと思う前に始めること。

Travel2Cityでこの物語を読む

第2章

ポルトガル

全9章の第2章・メアのノート

海と陸の境目を知る

黄色い路面電車が真っ先にノートに現れた。まわりの通りを描くより先に。もっと行きたい場所があるみたいに、電車はそわそわして見えた。その気持ち、よくわかる。

ギンショでは、風に持っていかれないようにノートを押さえた。目の前には砂と、低い茂みがひと筋。それから、とてつもなく大きな空。身を隠せそうなものはほとんどない。私はページを埋めようとするのをやめた。

ポルトガルで、私のノートはいい習慣を二つ覚えた。描いたもののまわりに、余白を残すこと。それから、道が海に行き着いても、そこを終わりと呼ばなくていいこと。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

街と風

リスボン





アーカイブの写真

路面電車は自分の通る道を知っていた。私はまだ、自分の道をどうするか相談中だった。

ギンショ





アーカイブの写真

風が私の選んだのとは別のページを開いた。

ロカ岬





アーカイブの写真

陸の果てに立ったら、まだ先へ行ける余白が見つかった。

シントラ





アーカイブの写真

もうひと続きの階段のふりをして、答えが現れることもある。

耳を澄ますことを覚えたノート

シントラ





アーカイブの写真

木が白い壁に絵を描いていた。私のページも貸してあげた。

オビドス





アーカイブの写真

狭い通りを選んだ。計画をあれこれ持ち込まずにすみそうだったから。

バターリャ





アーカイブの写真

入口の飾りはずいぶん凝っていた。入るのは拍子抜けするほど簡単だった。

コインブラ





アーカイブの写真

タイルに描かれた庭は、家の中で暮らす術を覚えたらしい。

書きかけの一文と北へ

アルコバサ





アーカイブの写真

回廊では、せかせかしていた頭の中の考えまで、腰を下ろす場所を見つけた。

トマール





アーカイブの写真

石の線を目でたどっているうちに、さっきの一文から句点が消えた。

ドウロ渓谷





アーカイブの写真

丘の斜面には、几帳面な筆跡がそのまま残っていた。

ポルト





アーカイブの写真

見上げた。ページまで背が高くなった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第3章

スペインとジブラルタル

全9章の第3章・メアのノート

模様と寄り道

あちこちに模様が見えてきた。アーチを横切る縞、階段脇のタイル、それに、左の光がちょっと気になって、また左へ曲がる私の癖まで。

ノートの中はだんだん雑然としてきた。スケッチが二ページにまたがった。買い物リストには小さな大聖堂が加わった。余白に猿を描いて、時刻表の番を任せた。

海岸に着くころには、寄り道のひとつひとつに何かの役に立ったかと尋ねるのをやめていた。ただ楽しかった。それでいい寄り道もあった。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

こんな迷い方なら

グラナダ





アーカイブの写真

小さな四角い光を追って歩いたら、そこからずっと広い午後がひらけた。

コルドバ





アーカイブの写真

アーチは同じ形を繰り返す。私の頭はようやく、同じことを繰り返し考えるのをやめた。

セビリア





アーカイブの写真

タイルを見ていたら、遠回りを選ぶ理由としては申し分ない気がした。

トレド





アーカイブの写真

遠くから見ると、入り組んだ通りがこちらを招いているようだった。

地図の余白

バルセロナ





アーカイブの写真

計画の立てようもなかったもののために、余白は広く取っておいた。

ジブラルタル





アーカイブの写真

地元の見回り役は、私の旅程にはまるで興味がないらしい。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ





アーカイブの写真

次の戸口ではノートをしまって、ただ、そこに着いた。

マヨルカ島





アーカイブの写真

一日は予定表にお伺いも立てずに暮れていった。じつに上手な幕引きだった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第4章

リヴィエラとモナコ

全9章の第4章・メアのノート

用事のない午後

何かを見つけるのが、われながらずいぶん手際よくなっていた。これはいけない兆候だ、と私は思った。そこで新しい予定を立てた。何も証明しなくていい午後にしよう。

路地があり、舟が浮かび、噴水があった。ベンチからはいい景色が見えた。切符を見せろとも言わない。そこに座って、座ったことをどう書こうかと考えなくなるまで過ごした。

その晩ノートに書いたのは、一行だけ。「楽しかった。」ノートは、その一行を立派な報告として受け取ってくれた。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

ひと休みの作法

ニース





アーカイブの写真

海に説明は要らなかった。それでも私は、ひとこと書き添えた。

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス





アーカイブの写真

噴水はたった一つのことを、それはみごとにやっていて忙しそうだった。

アンティーブ





アーカイブの写真

長くそこにいれば、窓ひとつだって行き先になる。

フェラ岬





アーカイブの写真

家の壁の色をちょっと拝借して、ページに思いきりぜいたくな縁取りをした。

急ぎの用はひとつもない

モナコ





アーカイブの写真

大砲まで、午後はお休みにしたらしい。

ヴァンス





アーカイブの写真

庭の向こうで、街は私がいなくてもちゃんとやっていた。

イエール





アーカイブの写真

椅子ならいくつもある。夕暮れはいくらでもゆっくりしていける。

サントロペ





アーカイブの写真

舟が画面の外へ出ていくのを見送った。そのほうが気持ちよく旅を続けられるものもある。

Travel2Cityでこの物語を読む

第5章

イタリアとバチカン市国

全9章の第5章・メアのノート

映り込んだ街

ヴェネツィアの建物には、一軒ずつそっくりな相棒がいた。水がもう一度描いては、気を変えて、また描き始める。それを見てほっとした。最初に描いたとおりにしなくたって、いいらしい。

ほかの街へも、その思いを持っていった。石が重さをなくしたように見えることがある。部屋が天井の向こうまで続いて見えることもある。よく知っている言葉さえ、人の手で書かれると、見たこともない形になる。

ノートには、水に映る姿と、描き直した跡と、逆さにしたほうが好きなページが一枚増えた。どれも、そのまま取っておいた。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

もう一つの世界の描き方

ヴェネツィア





アーカイブの写真

水が街の二稿目を描いていた。

ヴェネツィア





アーカイブの写真

描き直した跡を、もう少し恥ずかしがらずにいようと思った。

フィレンツェ





アーカイブの写真

顔を上げるのが、なかなかいい習慣になってきた。

フィレンツェ





アーカイブの写真

二度、三度と見直すたび、また何か見つかる壁がある。

もう一つの眺めが入る余地

ローマ





アーカイブの写真

柱と柱の間には、空も入り込めるだけの場所があった。

ローマ





アーカイブの写真

階段にいた人は、誰ひとり同じ午後を過ごしてはいなかった。

バチカン





アーカイブの写真

私は声を落とした。天井のほうは、ずいぶん話したいことがありそうだったけれど。

ガルダ湖





アーカイブの写真

湖がもっと素朴な一ページを差し出してくれた。今の私には、ちょうどよかった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第6章

ベルギー

全9章の第6章・メアのノート

大きな旅の小さな部屋

立派な建物の正面をいくつも見たあとで、もっと小さなものを集め始めた。水面すれすれの戸口。二枚のれんが塀にはさまれた小道。名所になるつもりなんて、これっぽっちもない窓。

ノートはもう半分近く埋まっていた。どうしてだろう、不思議だった。残しておきたかったのに、絵には見えないものがこんなにある。立ち止まろうと決めたこと。空気がほんの少し変わったこと。静かな通りを見つけて、ほっとしたこと。

何ページかは、白いまま残しておいた。じっとしてくれないものは、そこに入るかもしれない。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

通りがしまっているもの

ブルージュ





アーカイブの写真

小さな戸口は、どこからが水の領分か、ちゃんと知っていた。

ブルージュ





アーカイブの写真

屋根が昔なじみみたいに肩を並べていた。

ゲント





アーカイブの写真

しっかりした壁があっても、そこで話が途切れるとはかぎらない。

ルーヴェン





アーカイブの写真

狭い路地には、もうひとつ考えごとをするだけの余地があった。

白いページの使いみち

ブリュッセル





アーカイブの写真

今日を歩く道はいくつもあった。私はこの道を選んだ。

アントワープ





アーカイブの写真

着いたそばからそこがどんな場所か説明しなくてもいい。そう思えるようになった。

ボクレイク





アーカイブの写真

小さな戸口が一つ。小道が一本。急ぐ理由は見当たらない。

ベルギーの海岸





アーカイブの写真

この音のために、白いページを一枚取っておいた。

Travel2Cityでこの物語を読む

第7章

オランダ

全9章の第7章・メアのノート

もっと広くのびる線

前へ進んでこそ旅だと、昔は思っていた。運河はどうやらそうは思っていない。渡ってみたら、引き返してみたら、同じ角を向こう側から眺めたら、と誘ってくる。

浜辺で、いつまでたってもこちらには届かない一本の線を眺めた。私の予定なんかよりずっと遠くに、ただ、そこにある。境界線にしてしまわないように、それを描いてみた。

線は少し曲がったままだった。何度か描いたなかで、初めてこれなら信じられると思った。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

もう一度、向こう岸へ

アムステルダム





アーカイブの写真

運河はずっと先まで見通していた。私は橋を二度渡った。

アムステルダム





アーカイブの写真

家は水に浮かんでいても、ちゃんと帰る場所になれる。

アムステルダム





アーカイブの写真

水に沿って歩くうちに、時間を確かめるのを忘れていた。

ミデルブルフ





アーカイブの写真

通りは曲がっていった。それを素直に心地よいと思えるようになった。

地平線は閉じない

ミデルブルフ





アーカイブの写真

赤い雨戸。淡い色の石。立ち止まる理由はそれだけで十分だった。

ミデルブルフ





アーカイブの写真

絵は描きかけのまま残して、この気持ちを持って帰った。

ザントフォールト





アーカイブの写真

水平線は、境界線になることをきっぱり断っていた。

ザントフォールト





アーカイブの写真

その線には、ページの端からそのまま外へ続いてもらった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第8章

クロアチア

全9章の第8章・メアのノート

石と日陰と、みんなの広場

海がまた現れた。今度は少し違う青だった。自分の癖がわかってきた。階段を探し、壁に沿って歩き、日陰にひとり分の場所があれば立ち止まる。

古い町では、どんな構図にも、もう誰かの午後が入り込んでいた。絵の中の自分を少し小さく描くようにした。そのぶん、この場所そのものをたっぷり描けた。

島が見えるあたりまで来ると、ノートはもう、私が見つけたもののコレクションという感じではなかった。ひととき私に居場所をくれた土地の記録のように思えた。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

壁に沿って

ドゥブロヴニク





アーカイブの写真

壁はずっと同じ形を保っていた。光のほうは、何度も話を書き換えた。

ドゥブロヴニク





アーカイブの写真

行く先が見える前に、ふっと姿を消す階段を選んだ。

ストン





アーカイブの写真

細い通りは、両側の壁が交わすおしゃべりだ。

トルステノ





アーカイブの写真

庭は木陰の言葉で答えてくれた。

広場は決して空っぽじゃない

スプリト





アーカイブの写真

アーチが、街の中に空の居場所をつくっていた。

トロギル





アーカイブの写真

水の向こうの町は、水に映った自分の姿と見まがうほど、よく似ていた。

シベニク





アーカイブの写真

鳥たちにまで、大事な行き先があるらしい。

イストリア半島





アーカイブの写真

夕暮れを横切って、帆柱が静かな楽譜を描いていた。

ノートの中の島々

フヴァル





アーカイブの写真

上から見ると、町じゅうが見開きの二ページに収まりそうだった。

コルチュラ





アーカイブの写真

島とはちょうどいい距離を保った。絵を描くのはあとでもいい。

ロクルム島





アーカイブの写真

ここでいちばん堂々とした旅人は、立派な羽衣を自前で身につけていた。

ペリェシャツ半島





アーカイブの写真

取っておこうと思っていた色を、空が残らず使ってしまった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第9章

モンテネグロ

全9章の第9章・メアのノート

開いたままのページ

ノートにはまだ余白があった。でも、持ち歩くときの気持ちは前と違っていた。どこかへ行った証拠というより、黙って一緒にいられる旅の連れに近かった。

山は高くそびえ、湖は広がり、嵐が海の上に暗い一文を引いた。私は雨風の当たらないところから眺めた。もっとそばに来てと誘う景色もあれば、ちゃんと距離を取って眺めるのがいい景色もある。

道の終わりで、最初のページに戻った。あのひとことは、まだそこにあった。「よく知っているつもりの場所から始めよう。」今度は私に宛てて書いてあるようだった。

Travel2Cityのオリジナル写真から想像を広げて綴った旅日記です。メアの言葉や場面は創作で、実際の出来事を記録したものではありません。

山と水のあいだ

コトル





アーカイブの写真

門は城壁のもの。けれど私を誘っていたのは、その日そのものだった。

ペラスト





アーカイブの写真

島へ渡れなくても、島はちゃんと旅の一部になった。

ロヴチェン





アーカイブの写真

山を見ていると、頭の中にも少し広い場所ができた。

オストログ





アーカイブの写真

私はノートをしまった。まずは静かに、と言いたくなる場所がある。

空模様にも声がある

シュコダル湖





アーカイブの写真

湖は山々をそっと抱いていた。私も、まねしてみた。

リエカ・ツルノイェヴィチャ





アーカイブの写真

橋は、両岸に似てくれなんて頼まずに、岸と岸を結んでいた。

タラ川





アーカイブの写真

渓谷の上で私は手すりを握った。旅をする役は景色にゆずった。

ウルツィニの海岸





アーカイブの写真

雨宿りしながら、海が自分の言葉で一文を書くのを眺めていた。

最後のページはない

バール





アーカイブの写真

老木は、まっすぐな線などなくても、ずっと育ってこられた。

ポドゴリツァ





アーカイブの写真

川のそばでは、ありふれた午後がそれだけで十分になった。

ヴィルパザル





アーカイブの写真

私が集めていたのは、いろいろな場所。ノートが集めていたのは、ものの見方だった。

スヴェティ・ステファン





アーカイブの写真

ノートを閉じた。旅はまだ開いたままだった。

Travel2Cityでこの物語を読む

第1話

振り向いてくれた街

ブラチスラヴァ&デビアン・メアのノート

ブラチスラヴァとデヴィーン・メア・ゼンと過ごす四つのひととき

飛行機のチケット一枚から始まる旅もある。この旅の始まりは、真っ白なページと青いワンピース、それから「今日は急がない」と決めたことだった。メア・ゼンは、よく知っているつもりの街へ出かけていった。けれど街のほうにも、ちょっとした考えがあった。

作者がTravel2Cityのために撮った写真から生まれた、創作の旅です。場面の出来事、一日の順序、そこに登場する人物は、想像をもとに描きました。

見上げてみる





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ・ミハエル門

ミハエル門の下で、私は歩みをゆるめた。スカーフが首もとをかすめる。直そうとするより先に、そよ風がその端をさらった。私はそのままにしておいた。その朝初めて、片づけなければいけないことが何もなかった。ただ、顔を上げればよかった。塔の時計は、自分の速さで時を刻んでいた。私の足も、ようやく自分の歩調を見つけた。ノートは閉じたままだった。きれいなものを、何もかもその場でとらえておかなくていい。

> **塔はずっと前からここにあった。今日、私はようやく顔を上げた。**

小さなひと幕





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ・歴史ある劇場

劇場の前で腰を下ろし、ノートを開いた。紙の上に窓ができ、その次にアーチができ、最後に、どうにもあやしい曲がった線が一本できた。思わず笑ってしまった。完璧に描けるまで待っていたら、そのあいだに街でもうひと芝居できてしまう。足首を軽く交差させ、ワンピースを整えて、肩越しに振り返った。まだここにいたかった。建物の名前の代わりに、こう書いた。「もう少しだけ」

> **劇場にはちゃんと舞台がある。今日の私には、ベンチがひとつあれば十分だった。**

風の通り道





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

デヴィーン・城と川の風景

デヴィーンに着くと、不意に、言葉より空のほうが大きくなった。木の手すりに手を乗せ、石壁の向こうの川を眺めた。髪がひと房、頬にかかった。今度はすぐには払いのけなかった。陽はあたたかく、風はひんやりして、どちらも好きだった。開いていたページが、ひとりでにめくれた。それもいい、と私は思った。この先のことは、旅のほうから教えてくれることもある。

> **どんな予定表にも収まらないもののために、風が余白をつくってくれた。**

もう一本だけ、歩いていこう





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ・夕暮れの旧市街

夕方には、通りははちみつ色に染まっていた。戸口の灯りが石畳に小さな光の島をつくり、そのあいだを渡る私の足どりは、いっそうゆっくりになった気がした。スカーフは肩にふわりとかけたままにした。振り返るのはもう、何かを見逃すのが怖いからではなかった。ただ、この眺めが好きだった。ノートにはようやく物語がひとつできた。夕暮れの時間はまだたっぷり残っていた。最後の一行にこう書き添えた。「明日も、急がなくていい」

> **街は、さよならを言っているのではなかった。もう一本だけ歩いていって、と私を誘っていた。**

もう一本だけ、歩いていこう。

最初のページは埋まった。次のページには、まだ余白がある。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第2話

風がめくったページ

ポルトガル・メア、コロンビーヌ&ル・チア

3人の女性。ノートは一冊。ライン間の滞在を拒否したポルトガル。

最初のページでは、メア は自分が望む場所をリストしました。コロンビーヌは、それらの間に小さな青い花を描きました。ル・チアは、次のページを空白に残しました。途中で起きたものは何でも、彼女は言った。そして、その共有旅行計画は形を取った:部分的な意図、部分の不断。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日ではなく4つの思い出した瞬間。

マルギンの客室





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・旅の三人組

リスボン・イエロートラム

黄色の路面電車は、メアが文を始めるのに至ったように教会を渡しました。その鐘は、最初にそこに持ってきました。コロンビーヌはオープンノートの上に曲げ、1ストロークでウィンドウを描き、3つのヘッドを追加しました。「まだ搭乗していない」と、メアは反対しました。「デッサンのメリット」コロンビーヌが笑顔に。ル・チアは、肩が触れるまで近づいてきました。「で、どこに向かってるの？」 リストで見つかるメアは、ウィンドウの3つの面で。一度は、場所名の空紙を全て気にせず、。

> **「余白に余裕のある部屋。まだそこに収まるかもしれない」**

リーチ内の手





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・旅の三人組

シントラ・ストーンのステップと戦い

Sintraの手順では、ノートブックは突然、それよりも多くの重量を量りました。メアは彼女の側にそれを叩き、次の石のステップと見なしました。「このプランはロマンチック・ワンダリングと言った」と彼女は息を呑む。「これは縦版です」とル・チアは言いました、彼女の手を提供します。後ろに、コロンビーヌが笑い、その3人が止まらなかった。しばらくの間は、写真や書き下ろしに何もありませんでした。暖かい石、もう片手で、コロンビーヌの青い花が耳の後ろに覆われて滑ります。メアは彼女の自由な手とそれをまっすぐにしました。それから、彼らはいくつかのステップを登りました。

> **「まだロマンチックなワンダリングです。少し上り坂」**

予期しないエディタ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・旅の三人組

ギンショ・砂丘の風

Guincho では、メア はノートブックを開き、最後の行をいくつか追加しました。風は一度に3ページを回しました。コロンビーヌは、彼女の手のひらで1つをキャッチし、ル・チアは反対の角を下に保持し、メアは彼女がすでに忘れていた文章を救助しようとしました。小さな不規則な旗のように、その間を踊ったスカーフ。「海は私たちを編集していると思う」と彼女は言いました。「切口を切る?」とコロンビーヌさんに尋ねました。ル・チアは「物事を回復」と決めました。紙の上に3つ、風に絡み合った髪の毛、その肩が閉じます。青花のみのオープンページ。突然、十分だった。

> 「**すぐに空白のページを埋める必要はありません。**」

最後の句点は打たずに





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・旅の三人組

ロカ岬・夜の光で灯台

崖の上にある灯台は、最後の暖かい光を巻き込み、コロンビーヌはついに彼女の鉛筆を置きました。「これで起きるつもりだ」と彼女は言いました。メアはノートブックを閉じながら、ページの間に指を飼っていた。ル・チアは、小さな動きに気づき、笑顔にしました。「あなたの場所を失うのは?」「もっと恐れて、それは終わりのように見えるかもしれません。」海岸沿いを眺めながら、しばらくの間一緒に立っていた。その後、コロンビーヌはメアと腕をつなぎ、ル・チアはそれらに加えて一歩に落ちました。ノートは閉じたままだった。あとで開いてみると、新しいページの最初の文が読み込まれます。まだすべては見ていません。

> **「まだ見たことがない」**

まだまだ見つかりません。

次回は3名様分のお部屋です。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第3話

私を導いた一本の線

イタリア・メアのノート

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガーダ。メア・ゼンと1つのわずかに無縁の描画で4つの瞬間。

イタリアにノートブックを持参し、美しく描くのがとても楽観的なアイデアを思い浮かべました。最初の行が間違っていた。そこには、まず怠惰から出て、そして好奇心から残します。自分がどうなるか見たかったんです。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日ではなく、異なる場所で4つの瞬間。

ボートは他の考えを隠しました





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア・狭い運河のゴンドラ

ゴンドラの黄金の張りが予想以上に柔らかかった。シートに落ち着いて、膝の上にドレスをスムースにし、ノートブックを開けました。レンガ造りの壁にアーチが立ち上がる。紙に貼っていうのは全部。それから、船が移動し、ペンが移動しました。アーチの代わりに、自分の乗りたいと思える波動線を制作しました。しばらくは、とても真剣に考えていました。笑った。私の袖を渡る反射水がちらつき、シートの上に吊り下げた私のスカーフの端。図面を固定するには、ステージボートが必要です。でも、こんな

感じでした。

> 「ペンは私の。筆跡はゴンドラが借りていったみたい」

空気のアーチ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

フィレンツェ・大理石の玄関口

フィレンツェでは、玄関前に立ち止まったので、ノートが突然変わらずに控えめに見えたことを精巧に感じました。それぞれのアーチは、小さな数字、装飾品、そしてそれらの間にタッキングされた影で、互いに保持しました。ペンを空気に上げて、ひとつのラインに辿り着きました。紙は今のところありません。私の手は意外にうまく管理しました。おそらく、それは、台無しに何もなかったことを助けました。髪のストランドが頬を越えて落ちました。そこで残して動きを終えました。その後、ノートをヴェネツィアページに開けました。ほんの少しの線が少しだけ見えました。

> 「マークを残さないと、最も気持ちが良くなる」

Gaps Belong Too(ガプス・ベロン・トオ)





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ローマ・コラムと空

ローマでは、そこにはなかった私の図面に物事を追加することに自分自身を巻き込みました。念頭に置いて、私は柱の後ろの壁を建てて屋根を上に配置しましたが、完全な建物なしで管理できませんでした。しかし、石の間は空がありました。雲が動かされ、全体像がゆっくりと変化します。ノートブックを閉じて、パスに沿って少し遠くに歩き、肩を上回った。こういったのは、この方法がより良くなってみたいです。私は私の完璧な復興がどのようなものかを思いませんでした。目の前に広がる景色。

> **「ギャップを保ちばす価値があった」**

こんな感じで





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ガルダ湖・水の向こうに広がる山

ガーダでは、湖の何かを尋ねずに座る場所を見つけました。私は私の足首を横切って、スカーフは1つの肩の上に緩く休ませて、私の膝の上にノートブックを置きました。遠くに面した山々は、もうひとつの背後にある。小さな帆船は、忘れたフルストップのように見えました。初めてのドローイングを開いた。ヴェネチアンラインはクロッキングされたばかりでしたが、今ではフローレンテインのアーチ、コラムとこの水のギャップを見ることができます。私のペンは紙の上に注ぎました。私は何も加えませんでした。ノートブックを少し長く開けたので、今回は既にあったものが好きだったので。

> 「**まっすぐでなければならなかった。鉱山だったのは十分だった**」

こんな感じで残します。

ワンライン。4つの場所。そして、私は続けたいと思っていたこと。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第4話

それでも気持ちは通じた

オランダ・3人の仲間

アムステルダム、ミッドデルブルク、ザンドヴォルト。3人の女性、数え切れない言葉、笑顔の理由をたくさん。

オランダでは、私の言語が絡み合い始めた。 Slovakで文章を始めて、どの言葉も最初に到着したと終わります。コロンビーヌは、この娯楽を発見しました。ル・チアは、自分を修正しなくなったとき、彼女は最善を理解したと述べました。試験に入れることにした。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、異なる旅程から4つの瞬間を想像しました。

波は十分でした





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

アムステルダム・運河を渡る挨拶

長いガラス屋根のボートは、黒い柵を越えて渡っていました。橋について何かを言いたかったのですが、出て来て「ポズリ、橋、そうなんですね...」と文を終わらせなかったんです。船に乗った人達が手を上げて、思いもせずに振り返っていました。コロンビーヌが入社。ル・チアは、非常に技術的な会話を行なっていたにもかかわらず、笑顔で私たちを見ました。白橋の反射を打破する波が少ない船が移動しました。「優れた発音」、コロ

ンビーヌが注目。手を上げてみた。今回は、本当に正しいことは何もなかった。

> 「この挨拶は字幕を必要としなかった」

スロー、プロシム





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ミデルブルフ・古民家の通り

ミッドデルブルクの小さな通りでは、コロンビーヌは私よりも半分のステップを歩いていました。私は赤いランプ、窓、タワーを見て、そしてまだ私たちの会話に追いつくことを望んでいました。「Slow、prosím……ゆっくり、お願い」と思わず口走って、彼女の袖をそっとつかんだ。彼が2つの単語を完全に重大な顔で繰り返し、それを徹底的に遅くし、私は彼女に近づいた。ル・チアが最初に笑った。笑い声をあげて、みんな3人全員が笑いました。一緒に歩いたり、ペースが良くなります。決して文章を終わらせません。コロンビーヌは、とにかく待っていた。

> 「2つの単語。2つの言語。正しいペース」

笑いをしないでください





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ・赤いシャッターの前面

赤いシャッターの前で、コロンビーヌがスケッチブックを開いた。「しばらく待ってから」と聞かれました。ル・チアは両手を組み、金縁の額にそのまま収まりそうなほど厳かな顔で立っていた。コピーしてみました。3秒ほど続く。私の口の1角が逃げ、もう一方、頭を下げて、私のスカーフに笑うことができるまで。コロンビーヌはスケッチブックを上回る。「まさにそんな感じです。動かない」 当然のことながら、もちろん不可能なリクエストでした。ル・チアはまだ儀式を見ましたが、彼女の肩は彼女を離れて与えました。結局、私たちの従順なポーズよりもはるかに正確な何かをキャッチした図面。

> **「ポーズを止めた時にポートレートが働いた」**

翻訳不要





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ザントフォールト・裸足と北海

Zandvoortでは靴を脱いでいます。砂が冷え、私の最初のステップは、私の言語のどれにも属する音を生成しました。ル・チアは私を見ました。コロンビーヌは直面を続けようと試みませんでした。片手にブーツを運び、この細部を計画していた女性の尊厳を歩くようにしました。失敗しました。笑い、足跡を3本残し、それぞれ若干異なります。海は先を見据え、足の近くで靴がなかったり、手帳が袋に安全だった。今回は、正しい単語が見つからなかった。

> 「**わたしたちは、互いに理解し合います。**」

お互いに理解してもらいます。

わたしたちは、わたしたちの手で言ったこと。笑いのある休憩。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第5話

日陰の特等席

クロアチア・メアのノート

急ぎを止めた場合にのみ、一部の場所が現れます。

クロアチアの夏は、メモリの日付でそれ自体を手配しません。どんな滞在が石や葉の間の緑色の光、そして美しいことのために目論じない鳥の外観に対するヤシです。メアは、いくつかの旅から4つのそのような瞬間を集めました。それぞれに、彼女は彼女が行く場所をすぐに忘れました。

Travel2Cityアーカイブから4つのオリジナル写真に触発されたイラスト。ドゥブロブニク、Trsteno、Lokrum、Poreč は、一日の旅程ではなく、思い出のコラージュを形成します。メアはフィクションキャラクターであり、状況と内部のモノローグは創造的に想像されています。

1つのステップより高い





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ドゥブロヴニク・ストーンステップ

ここからは、ロマンチックなステップが見えていました。ハーフウェイアップは、メアのフィットネスについて意見を発案しました。彼女は彼女のスカーフを苦しめ、彼女の袖を巻き上げ、壁にヤシを休ませました。陰影石は冷えていました:小さな、完全に説得力のある理由はまだ滞在しました。どこか上からクロックリーが揺れる。窓から漂流した昼食の匂い。メアは、止まらずにトップに到達するために、彼女のオリジナルの計画で笑

顔。誰もそれについて知らなかった、それは非常に容易な優雅な修正をしました。先に進む前に、彼女は彼女の指先が壁を渡るもう一度旅行を聞かせてください。ここは、そのステップを思い出させるものでした。

> 「**もう一瞬。ルートの一部です**」

ノートブックのもう1つの使用





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

トルステノ・竹の色合い

竹の中では、光が緑色に変わります。メアは、数歩先で行き、イカを止めました。彼女はノートブックを取り出しました:最後に、彼女は何かを書き留めるだろう。それからファンとして利用し始めた。特に閉幕した間、美しく、とても綺麗に働いた。彼女はバッグストラップに彼女のスカーフを縛り、彼女の首の後ろに少し移動した色合いが落ちるようにしました。何も説明するように義務付けられて感じないで錆びた頭を残します。当日の清掃ページに何も追加されませんでした。ノートを置いていると、葉の間に太陽の小さなフラッシュに気づいたし、しばらくの間見ていた。スケジュールもかなり満員でした。

> 「**ノートブックは実用的すぎる**」

より良いドレスをしたゲスト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ロクルム島 · 水の孔雀

彼がそれを予約していたように、岩の上に立っている孔雀は、含まビュー。青の首、緑の羽根、激しい回復に不可解な影響。メアは、礼儀正しい距離で止まりました。朝のドレスに満足していたのですが、大会が準備されました。彼女は彼女の耳の後ろに髪のストランドを叩いた。孔雀は、彼女を認めるのに十分な彼の頭を回し、水に彼の注意を返しました。羽根の広がりがなく、要求のパフォーマンスはありません。メアは静かに笑いました。スペースのパッチを埋めながら、少し長く残っている。歩いていたとき、肩が少しまっすぐに見えました。

> 「**はいはい。今日はあなたの勝ち**」

水に浮かぶ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポレチュ・夕暮れの港

港では、マストは水に優しく曲がりながら空に近づいてきました。メアは、彼女の視線の1つに対して休むようにします。ノートブックは、彼女の腕の下に閉じたままに滞在しました。スカーフは、彼女の敵全体に緩やかに置きます。空気はもはや彼女から何かを望んでいません。笑いの瞬間がバラに入ったカップルが、また船の横に水しかなかった。涼しげな壁、竹と孔雀を断ち切って、自信の余地に感じました。それぞれの旅は、買ったことがないものを残しました。一番近い反射をさざ波に捨てて再び集めるのを待っていた。とりあえず歩いていた。

> 「**まだ行ってはいけない**」

色合いはまさに彼女のサイズでした。

夕方に起きると、急いで必要な場所はなかった。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第6話

あと五分だけ

モンテネグロ・3人の仲間

女性3名、女性4名、滞在中は話せる時間。

コロンビーヌは「5分」と言った。メアはうなずき、ル・チアは「前にも聞いたような」と言いたげに笑った。モンテネグロでは、小さなポーズが自分自身を収集しました。水のほかに、橋で、古い木の陰で。接続を逃さない。すべてが素敵な計画に収まることができるという唯一のアイデア。

4つのオリジナル・トラベル2Cityの写真に触発されたメア・ゼン、Colombine MichelangeLove、ル・チアとのコラボレーションの旅を想像してみてください。コトル、リジェカ・クリノヘビッチャ、バー、スヴェティ・ステファンは、一つの旅や一日の旅程のリテラルレコードではなく、ゆるやかなストーリーコラージュを形成します。

壁による合意



コトル・水辺の壁



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

メアは彼女の時計をチェックしました。忍耐強くない; 彼女は単にデバイスが彼らの停止について何を考えていたのか不思議だった。コロンビーヌのスケッチブックは、まだ閉鎖されていましたが、彼女の目はすでに石の壁に沿って途中に旅行していた。「描き始めてから5分」と明らかにした。ル・チアは、柵に立ち向かう。「じゃあ、まだ時間はあるね」 壁の下で緑の影が揺れた。光がまたたくたびに、もう少しここにいてもいい理由

がひとつずつ増えた。メアは彼女の手首を下げ、それらに参加しました。「すべて右。でも、次の停留所で決める」 コロンビーヌが笑顔で笑顔に。彼らは両方とも、それが抜け出す方法の公平な考えを持っていた。

> 「**とりあえずから5分**」

メアの決定





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

リジェカ・クリノヘビッチャ・ストーンブリッジ

橋は短く、。メアが川岸に立ち止まり、水を見つめていなかったら、一瞬に渡りました。アーチは表面の下に続く;水の動きが小さい部分に他の半分を壊しました。「どう？」 コロンビーヌさんにお願いしました。メアは、石の寄生虫に手を休ませました。「まだ行ってないと決めました。」 ル・チアは、すでに一歩先を踏み出した人、完全に深刻な顔で戻りました。「大胆な決断。あなたは私のサポートを持っています」 笑い声をあげる3人全員。ノートは閉じたままだった。今回は、同じことを見るのに十分だったんです。それぞれが少しずつ見ているんです。

> 「**今回、私の決定を下します。私たちは滞在しています。**」

植木への再利用





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

バール・古いオリーブの木

「肘がある」とル・チアは、トランクの折目を指すと言いました。メアは小首をかしげた。見すぎました。鼻が少ない、または影だけだったり、木が開いたままにしていたりする。コロンビーヌは彼女のスケッチブックを抱き、笑った。「もし、それを正確に書き込むと、自分が作ったといっても、その人達が言っている」 しばらくの間、彼らは、同じ数字が絡み合った樹皮で見つけようとしました。これらは同意できませんでした。そして、それらが気に入らなかったのです。三人は道の上を並んだまま、その服の上をまだらな光がすべっていった。メアが去る時、ル・チアは指を上げました。「待って、他の肘を見つけました。」

> **「まっすぐに立つようにモデルを尋ねることはできません」**

数えずに





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

スヴェティ・ステファン・湾を渡る眺め

Sveti Stefan のビューでは、誰もが時間制限を提案したわけではありません。屋根は水の上に覆われ、湾は海岸に向かって曲がり、風は時々コロンビーヌに向かってメアのスカーフを運んだ。1本の指で軽く握り、肩のブラシのメアさんを聞かせてください。ル・チアはそれらを見ました。「今は写真を使うことができました。」と「お持ち帰りしてもらえますか?」メアは尋ねました。簡単なサイレンスがあり、笑いをしました。別の優れた理由で滞在します。カメラに辿り着くものはありません。そこで、水が変化し、その会話の光が次の旅へと向かうように残っている。

> **「カウントダウンしなくても、きっと覚えてるよ」**

「もっともっともっと、そして」

今回は、その3つが言ったんです。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第7話

ひと風、ください

スペインとジブラルタル・メアのノート

メアの髪をイメージした4つのファンと4つのストップ、そして風。

メアは、快適な靴、ノート、ファンの暖かい日のための簡単な計画を持っていた。靴は協力しました。ノートブックは患者様を待たせました。ファンは、特に彼女がそれほど多く期待していなかったとき、優れた会社であることが判明しました。

4つのオリジナル・Travel2City写真に触発されたメア・ゼンと想像してみてください。グラナダ、セビリア、ジブラルタル、マヨルカは、一日の旅程ではなく、別のストップの緩やかなコラージュを形成します。

自分だけの小さな夏





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ・通路を越えるライト

狭い通路はクーラーでした。メアは弓のすぐ前で休憩し、石の上に光が流れ、ファンを開けた。初めてのフリックは、彼女の頬から髪のストランドを送った。2 番目はまっすぐ戻ります。「優れたシステムを持っています。」 彼女は笑い、開いたファンを腰で休むようにしましょう。隅々の人に耳を傾けながら、ゆっくりと光に向かって一歩踏み出しました。誰も待

っていた。彼女はまだ彼女が素敵な会議に彼女の道にあったかどうかのように見えるように感じました。

> 「**優れたシステムを持っています。**」

フィットしないパターン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

セビリア・タイルの中で

セビリアのタイルの横に、ファンはすぐに彼女の注意のためにコンテストを失いました。青色は黄色に覆われ、一方の飾りが互いに導かれ、メアは少なくとも彼女のノートにそれの小さな部分を持参することを決めた。ベンチの自由端に座り、ファンを折り、三線を描きます。目の前に何も見えないように見えました。しばらく眺めてから、彼女はこう付け加えた。「わざと自由に解釈したの」 彼女は満足そうにうなずいた。その記述は、人生で他の試みのために有用であることも証明するかもしれません。

> 「**自由解釈**」

ワードレスレビュー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ジブラルタル・ユニプレスオーディエンス

マカクは、観光客やそのアイデアを十分に見ていた人の表情で木製の柵に座っています。メアはパスに沿って遠くに止まった。横に扇風機を折りたたんに保ち、バッグを閉じて、最高の笑顔を心ゆくまで提供してくれました。サルは見かけました。「私は理解しています。午後1時過ぎに多くの魅力を。」 今回は笑い声で笑いました。何かを描くか、パフォーマンスに置く必要はありませんでした。動物は、自分の日に落ち着いて、その道を続けた。

> **「午後1時過ぎに大好きな魅力」**

ファンは夕方を離れて得ます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

マヨルカ島・海の夕べ

海でファンを必要としなくなった。風は、自分のスカーフの端をかき混ぜて、頼らずに髪を並べ替えました。今回は、正しいことはしなかった。低い壁に囲まれ、青灰色の雲の下の暖かい色の狭いバンドを見ました。マスツは、左の港の上をバラバラにしました。水は、独自の安静な動きを運びました。折りたんだ扇風機は、手元にゆるかに休む。彼がそれを持ち上げた瞬間のために、トーストを提案するのと同じくらい。「良い仕事。夕方から降りる」 その後、彼女は空気に彼女の顔を回し、彼女の目を閉じました。

> **「良い仕事。夕方から降りる」**

「今は頑張ります」とファンに語ったんです。

風を送ろう。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第8話

自然な顔で、と言われても

リビエラとモナコ・3人の仲間

女性3人、スケッチブック1人、そして手を置く場所について多くの考えをはるかに超えています。

コロンビーヌは、リビエラから家を捨てないポートレートで持ちたいと思っていました。「大いなるものはない、私たちだけ、私たちがいるように」 メアはすぐに彼女のスカーフを調整しました。ル・チアは彼女を見ました, その後、コロンビーヌで。「少し時間がかかりそうだね」

メア・ゼン、Colombine MichelangeLove、ル・チアとオリジナル・トラベル2市写真に触発された旅のイメージ。サンポール・デ・ヴァンス、キャップ・フェラート、モナコ、ニースは、1日の旅程ではなく、別のストップの緩やかなコラージュを形成します。

自分の手で何をすべきか





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス・石の噴水のそば

噴水のそばに、メアは彼女のスポットを発見し、背中をまっすぐにして手を折りました。それからそれらを展開しました。バッグに入ったもの。もう片方はクリアな代入がなかった。コロンビーヌが鉛筆を上げました。「自然な顔して」 メアはよりまっすぐに立っていました。ル・チアは一瞬の変革を目の当たりにし、頭を傾けました。「コーヒーを待っている間に立

ち向かうのは?」 水を石造りの盆地に浸し続けた。メアは、より深刻な秒を管理しました。その後、肩が落ち、笑顔がもう止まらない。

> 「コーヒーを待っている間に立ち向かうのは?」

Hostess の役割を試す





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

フェラ岬・ピンクの別荘の外

ピンクヴィラの外には、メアは新しい理論を持っていました。自然を探し、正しい背景が必要でした。彼女は横向きに変わり、壮大な、歓迎されたジェスチャーを提供しました。「お持ち帰りの際は、お持ち帰りください。」 コロンビーヌは彼女のスケッチブックを下げ、一致する繁栄と彼女の全体のバルコニーを提供しました。ル・チアは笑顔を覆いました。「どうしても窓を掃除するのか?」 メアは上階を見下ろしました。すると、下がる。ホステスを弾くと、突然その魅力を失いました。「今日はお客さんになろう」 道中を過ごし、笑いながら、とても簡単な新しいキャリアで過ごしました。

> 「今日はお客さんになろう」

ほとんど公式の肖像画





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

モナコ・歴史ある大砲のそば

モナコでは、ル・チアはより認知された試みを提案しました。彼女は表示された大砲の横に立っていた、彼女の背中の後ろに手を締めて、重要なニュースを受け取るために適している式を採用しました。メアは彼女に加わりました。コロンビーヌが彼女の胸に閉じたスケッチブックを握っている間、彼らは沈黙の中で先立っていた。「どうなるか」 メアは、彼女の唇を移動せずに尋ねました。「リラックスしたお探しの会」 コロンビーヌが最初に笑いました。ル・チアはすぐに頭を下げ、メアは彼女の表情を完全に失いました。歴史ある大砲は、唯一無二のものだった。

> **「リラックスしたお探しの会」**

ポーズを止めたとき





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ニース・海のスケッチブック

Nice では、コロンビーヌ は指示を与えを停止しました。壁にスケッチブックを開き、海岸の曲線を描き、その上に3つの小さな数字を追加しました。メアは近づいてきた。風は彼女の髪を頬の向こうに掃除する。ル・チアは彼女のそばに立ち寄り、ラインで指摘しました。「俺は?」 「ここまで、腕だ」 メアは笑い、コロンビーヌは別のストロークを追加し、それらがどのように見えるかを思い出す瞬間のために。紙にはほとんどなかった。海岸線、女性3人、そしてついに見つけた手はどこかに所属する。

> **「今のところ見えてるの、あなたの腕だよ」**

「今、私たちは自分自身のように見える」メアは言いました。

一度も、何か改善を試みなかった。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第9話

たった一枚の絵はがきに

ベルギー・Mea Zen

4つの停止、1枚のポストカード、および到着する急いで文。

ベルギーでは、メアは野心的な計画でポストカードを買った。今回は「ここの美しい」よりも良いものを書こうとする。鉛筆を持っていました。スタンプも。彼女が欠けているのは、最も簡単なことだった — 彼女が実際に言っていたのは何か。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたメア・ゼンとのソロの旅を想像してみてください。ブルージュ、ブリュッセル、ルーヴン、ベルギーの海岸は、別々の停留所のコラージュを形成します。イベントや対話はフィクションです。これは一日の旅程ではありません。

あまりにも多くの適応症





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ブルージュ・段付きガブルの列

四角に、彼女は寓話を見ました。屋根が終わるべきかについて、それぞれ独自の意見を持つ別の赤、別の淡い。「ピクチャースク」とメアが試した。それから「待ち合わせ」。誰かのパンフレットから借りた言葉は両方とも言われています。絵葉書の角に鉛筆を掛け、日除けの下の人を見守った。5つのファサード、3色、クラウドを記述できます。しかし、カードの反対側はすでに絵を持っていました。「すべて正しい」と彼女は彼女に言いました。「家が自分で紹介できる」 文章を使わずにカードを捨てる。

> **「家が自分で紹介できる」**

最初のマーク





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブリュッセル・アーケードのガラス屋根の下

ブリュッセルのアーケードでは、彼女は最終的にアイデアを持っていた。一方、ペンシルは両方に所属しようとしたが、はがき、もうひとつのチョコを握った。「光について何か書いてみよう」と彼女はガラス屋根を見上げることにしました。最後の部分を抜いた時、紙の角に小さな茶色の汚れが現れました。メアはそれを見ました。それを拭き取って、その成分を完全に溶かした部分にそれを宣伝しようとしました。それから彼女は笑顔にし、ナプキンを離れて置きます。「このポストカードで少なくとも1つが正確です」

> 「今、もっとも正確なもの。」

誰が私が書くか





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ルーヴェン · 狭いレンガレーン

レウヴェンで、彼女は急いでいない道を見つけた。窓の横に、閉められたノートにポストカードを置きました。「今日は見ました...」と彼女は書いた、それから止まった。いつか、彼女は自分の肩に立っている人、紙を脱いで、チョコレートで静かに笑いながら想像していた。彼がそれらを見せたら、一度に知っていた:アーチの下の影、不均等な小石、車線の端にある小さな窓。すべてではありません。お問い合わせ。静かに彼女の開口部を横断しました。突然、鉛筆はあまり働かなかった。

> **すべてではありません。お問い合わせ。**

海の風景





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ベルギーの海岸・北海に面した

海岸では、風は彼女の髪の毛をつまみにし、彼女は彼女の鉛筆を見つけることができる。砂浜に足跡をゆっくりと移し、その想いを毎回変えました。メアは1つの短い文章を終えました。修正せずに、もう一度読んでください。汚泥、彼女の名前とキスのポストカードに部屋がありました。彼女は紙を胸に押し付けたので、風はそれを取って水を見つめなかった。住宅、アーケード、車線を5線に絞らなければならなくなった。その文章は、それらすべてにドアを開けた。

> 「これを見せてほしい」

「これを見せてほしい」

突然、部屋は全部ありました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第10話

三人分のお茶

スロバキア・3人の仲間

フラスコ、カップ3杯、眺望も最高です。

彼らの小さなスラブアウトのために、彼らは簡単なルールに定着しました。メアは停止を選ぶだろう、コロンビーヌは彼女のスケッチブックを持参し、ル・チアは彼らが左前にフラスコを満たします。「だから、私はサプライズを請求していますか?」と彼女は尋ねました。メアは彼女を訂正しました。「ただの技術的な用語は、ただのところにある」

メア・ゼン、Colombine MichelangeLove、ル・チアのオリジナル・トラベル2市写真にインスパイアされた物語。 Trnava、Banská ŠtiavnicaとHigh Tatrasの2つの停留所は、クーラーの天候で別のアウトイングのコラージュを形成します。

最も重要な荷物





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

トルナヴァ・黄色のファサードと石の彫像の横

ル・チアは、トルナヴァの枝の下に、重要なニュースを配信する人の重力でフラスコを生産しました。コロンビーヌは、手のひらに3杯のカップをバランスよくしました。メアは彼女のスカーフを調整し、色を検査しました。「青は鉱山です」と「クリームは鉱山です」とコロンビーヌが付け加えました。ル・チアは最後のカップを見ました。「だから、私のターンだ

ったまでは自由選択でした」 笑いを破る。灯籠の上の石の姿は、目立たない尊厳で見られます。メアが目覚めました。「彼女はおそらく彼女自身のフラスコを持って来た」

> 「私のターンまでは自由選択でした」

A 茶室 眺望あり





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

バンスカ・シュティヴェニカ・屋上に広がるタワー

シュティヴェニカでは、樹皮の上の塔を見渡せました。ル・チアはお茶を注ぎ、メアは蒸気の最初のリボンに向かって傾いた。コロンビーヌは上り坂を指しました。「一番上の窓にあるお茶室を想像してみてください。」メアは、テーブル、3つのアームチェアと屋根の無限の海を描いていました。ル・チアは坂を眺めました。「水を運ぶ者は?」 コロンビーヌはゆっくりと手を下げました。「今のポップアップを残すべきのは間違い」 コップは、低い壁にとどまりました。3つが同じビューを持っていたし、サービスは例外的に個人的だった。

> 「水が運ぶのは?」

風のための指示





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

バンスカ・シュティヴェニカ・草の丘を渡る道

開放的な丘陵地に、風が加わることにしました。メアは彼女のカップの周りに彼女の手を包んだ、コロンビーヌは彼女の顔から髪をプッシュし、ル・チアは少し近づいた。「テラスは、今日のエアコンを活発に備えています」と彼女は観察しました。彼らは、この方法で、彼らは非常に珍しい時計の上に3つの手のような平和なシップの角度を発見するまで、それを回しました。肩を肩に立って肩に立ってしまい、楽になりました。コロンビーヌは、先ほどまっすぐな道を眺めました。「今日はスケッチブックを閉めたままにする」 メアはうなずいた。「お茶を飲みながらも手を出さない」

> **「テラスは、今日のエアコンが整っています。」**

お茶がその言うとき





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ハイ・タトラ山地・岩、水と霧

タトラでは、上面の風景がミストに消えました。岩の間には狭い流れが残っており、暗い小松と白のいくつかのパッチが並んでいます。大きく、道の水平なストレッチを止めました。今回は、お茶室の名前を発明した人はいません。メアは手を温め、コロンビーヌは肩に軽く手を休ませ、ル・チアは冷気に蒸気を溶かした。「しばらくの間何も言わないと気づいただけに気付いたんです」 メアはムルビー。ル・チアは彼女のカップを持ち上げました。「お茶にも、ちゃんと言い分があったね」 コロンビーヌが笑顔に。もう少し話してみるといい。

> 「**お茶にも、ちゃんと言い分があったね**」

3カップ。突然、物語全体に十分な暖かさ。

次の旅行の前に再びフラスコを埋めます。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第11話

今日はここにいよう

ポルトガル・メアのノート

ポルトガルで4駅、明日に何かを残す小さな芸術。

メアはまだ彼女のノートブックと彼女の計画であまりにも多くの矢印の部屋の多くを持っていた。ポルトガルは、ストップの間、ベンチ、柵、テーブルを1つ提供し続けました。最初は休憩として考えていました。そこで、旅の好きな部分がよくあることに気づくようになりました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたメア・ゼンと想像した物語。 Alcobaça、Tomar、Douro Valley、Portoは別の停留所のモンタージュを形成します。ポルトの夜の光は、昼間の写真の芸術的な解釈です。

計画なしのベンチ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アルコバサ・アーケードと庭の間

ルイスターの中庭では、メアはバッグストラップを調節するだけに座っています。とにかく、その説明でした。アーケードを超えて小さな木を立たせ、影はゆっくりと道を渡って移動しました。ノートブックは、彼女のラップに閉じたまま。しばらく経つと、ストラップがとても快適に過ごせました。まだまだ諦めない。笑顔で笑顔を浴びる「テクニカルストップ」。確かな技術力で、確かな技術で、。

> 「**テクニカルストップ**」

ステップでも待つことができます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

トマール・石段の足で

トマールでは、石の階段は説得力のあるジェスチャーで彼女を迎えました: この方法。メアは、彼女のブーツを見上げる。提案のコメントはありません。彼女は彼女のヒップの上に手を置き、彼女は壁、タワー、そして寛大な招待全体を見ることができる場所、下に別の瞬間を与えました。「私は一緒になる」と彼女は手順を語った。半身はノートブックを閉じました。今回は、登り直後にしかカウントされていないという観点から、誰も見守らなかった。

> **「すぐ追いつくよ」**

箇条書きのない風景





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ドウロ渓谷・丘を渡るカーブ

ドウロ渓谷の上、メアは低い石の壁に彼女のノートを置きました。先の斜面はカーブで覆われていました。続いて1つ、それを失い、別のものを見つけました。目はリストに好まれた整頓された順序でそれらを追跡できませんでした。風は、彼女のスカーフの端を持ち上げました。エルボの下でピン留めし、ラインで少なくとも1つのことを保つために彼女の試みで笑顔にしました。その後、彼女は彼女の視線をさまよう。ノートブックは、異議を提起しませんでした。休診後、終日休診。

> **少なくとも、スカーフはラインにとどまりました。**

今日はここにいよう





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポルト・今日の旅の最後のテーブル

ポルトでは、背の高い塔を眺めながら少しのテーブルを見つけました。青色に染み込ませ、窓から光が降り注ぐ。メアは、コーヒーを完成させ、その鍋にコップを置き、リボンでノートブックを結びました。別の通りに変身することができました。別のビューが見つかりませんでした。代わりに、彼女は彼女の顎を手元に残しました。「今日のところ、もうありません。」 地図から欠落した場所を発見したばかりの人に満足して言った。

> 「**今日のところ、もうありません。**」

明日は別のページに収まります。

今日は追いつくために残ったものはありません。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第12話

三つのまなざし、ひとつの旅

スペイン・旅する三人

スペインのメア、コロンビーヌとル・チア。それぞれが異なることに気づきます。一緒に見るともっと見られます。

彼らはこの旅に役割を果たさなかった。しかし、ル・チアは最初から道のり、コロンビーヌ何かを描き、メアはリンガーの理由を指摘しました。同じスポットを占有する3つの可能性がすべてあるとき。そこで、一番難しい部分は、その様子をよく理解しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発された、トリオと想像した物語。 Córdoba、トレド、バルセロナ、サンティアゴ・デ・コンポステーラは、1日ではなく、別のストップのモンタージュを形成します。キャラクター、行動、照明は芸術的な解釈です。

最初に見る場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

コルドバ・縞模様のアーチの下に

Córdobaでは、メアは歩いていたとすぐに忘れました。ル・チアは彼女の横に止まり、遠くに列の列の行に従います。コロンビーヌは彼女の胸に彼女のスケッチブックを開催しました。1ページであまり見かけませんでした。「アーチを隠すか?」と、彼女を嫌う。「次なる者」とメアは言いました。ル・チアが笑顔に。「すべてのアーチについて」と言います。3つす

べては、その3つが正しい。そのため、彼らは単にしばらくの間立っていた、赤と淡いバンドが彼らの目が従うことができる限り、持ち運びます。

> 「**次のやつ**」

地図はより小さい眺めを持っています





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

トレド・折り畳まれた地図を超えた街

Toledo を上回る視点で、メア は地図を折りました。ル・チアは、紙の上にそれを配置する前に、市内の塔を発見しました。一方、コロンビーヌは屋根のカラーを選ばせていましたが、彼女は彼女の鉛筆ケースで午後全体を運んだからです。「さて、どっちへ行く？」 メアは尋ねました。先を指摘した。もう一方は、パノラマに向かって傾いた。地図の角を持ち上げ、その3つすべてをキャッチしようとした風。笑い声で笑う。少なくとも、彼らは1方向に合意しました:紙に向かって手, 街に戻って目。

> **地図は、周りを見渡せるのが大好きでした。**

直線線は一日を離れて取る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

バルセロナ・モザイクカーブの横

バルセロナでは、コロンビーヌはモザイクの横に彼女のスケッチブックを開いた。単純に、一直線で始めることを意味しました。それから彼女は周りを見ました。ル・チアは、最後の利用可能な標本を提供しているかのように、鉛筆の直立性を保持しました。メアは、熟したエッジに耳を傾けて、未使用の眉毛を上げました。「ここに所属しているとは思いません」コロンビーヌが曲線を描きました。それからもう一つ。そよ風がスカートの裾を揺らし、メアはスカーフをそっと整えた。しばらくの間、同じ流れ線の部分にあるように見える3つ。

> 「**ここに所属しているとは思いません**」

全室3部屋





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

サンティアゴ・デ・コンポステーラ・共有ページ上の部屋

サンティアゴの大聖堂の正面に、ついに一緒に座った。メアはノートブックを開き、それぞれの記憶をまとめてみました。ル・チア: アーチとそれらの間の方法。コロンビーヌ: スケッチブックに収まらない色。メア: 彼らが歩いてあまりにも多く笑っていたので、止まらなければならなかった瞬間。このページでは3ストロークを短くしました。「それが今日の作戦？」 コロンビーヌは、彼女の肩に手を休むように求めた。「今のところ、キャスト」とメアは言いました。ル・チアは近いところにleaned。十分な部屋がありました。

> 「今のキャスト」

それぞれが違う写真を撮りました。

同じ笑いを家で3人全員が帰ってきた。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第13話

この街、私に似合う

イタリアとバチカン・メア・ゼン（Mea Zen）

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、バチカンのメア・ゼン。4つのストップ、リハーサルできない笑顔。

メアは快適なブーツ、彼女のお気に入りのスカーフと彼女が歩くと少し揺れたドレスを詰めました。去る前に、彼女はまだそれを立ち向かう方法を実践していた。イタリアでは、彼女は徐々に忘れてしまいました。あまりにも多くの水、色、あまりにも多くの手順と天井をペイント、すべてが自分自身から彼女の注意を引く。自分が一番好きな瞬間になるように、その人達が目覚めました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたメア・ゼンと想像した物語。ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、バチカンは別々の停留所のモンタージュを形成します。アクション、キャラクター、照明は、ソース画像の芸術的解釈です。

キャナルによるヘアスタイル





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア・小さな運河のそば

ヴェネツィアの小さな橋で、メアはパラペットの上に傾いた。肌のハリは、水に金色のパッチを打ち込み、その朝よりも髪の毛がもっと見つかりませんでした。彼女は彼女の耳の後ろにロックを叩いた。どこかで、その反射がすぐに動かされた。「すべての権利。あなたの道」と彼女は運河に

語った。銀行の横にシフトしたボートで、全てを波及させる小さな鏡が流れます。メアは笑いました。最後は、物事がどのように見えるべきかを知らなかった美容師。

> 「わかった。そっちのやり方でいこう」

フィレンツェにマッチするスカーフ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

フィレンツェ・大聖堂の外側の色

フィレンツェの大聖堂の外に、メアは彼女のスカーフの端を持ち上げ、彼女の前に色とそれを比較しました。淡石、グリーンバンド、暖かいドーム。彼女は彼女のドレスを見下ろし、その後、再びアップしました。「今日はよくコーディネートしました。」 街をすっきりと滑らせるために、静かに言った。手のひらからスカーフを引っ張り、完全に普通のノットに落ち着かせました。とにかく好きでした。数歩後、彼女は店の窓に彼女の反射をチェックしなくなったことに気づいた。

> 「今日はよくコーディネートしました。」

未発表のステップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ローマ・スペイン語のステップの下の広場で

スペインのステップの下、長いポーズを保持するために、あまりにも多くの動きがありました。メアはベビーカーに道を譲り、人の集まりをよけて広場を横切った。服を着て、バッグを軽く叩いてヒップに。突然、彼女は、旅行前に鏡の前で練習しながら感じたことを望んでいた正確に、これを実現しました。今までは全く試していなかった。コーヒーの香りをキャッチし、歩いていたら、彼女のチンを持ち上げました。写真家は見ない。とても良かったです。

> **写真家は見ない。とても良かったです。**

ルーム オブ ミートオ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

バチカン・塗装されたボルトの下

長いバチカンのギャラリーでは、メアは遅くなりました。絵画は、ピアーズを超えて、そして彼女がもはや詳細を出すことができない距離に、上方に続く。手の手が傷跡に自動的に入り、ゆるかに足を踏み入れました。ここで調整する必要はありません。しばらくの間、彼女は見上げる立っていた, 小さな笑顔を身に着けて、彼女はおそらくミラーで再作成することはできません。その後、彼女は自分のノートブックに1つのラインを書いています。そして、下の小文字で「ポーズをしなくても」。

> 「**ポーズをとらなくていいときね**」

街は私に合う。

私はポーズする必要はありません。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第14話

ポケットいっぱいの空

オランダ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

アムステルダム、ミッドデルブルク、ザンドヴォルト。メア、コロンビーヌ、ル・チアは、旅の全体を保持するのに十分な大きさのお土産を探しています。

「今回は、小さなものを持ち帰ってみたい」と発表し、空のコイン財布を抱き立てました。コロンビーヌは、誇大な敬意でそれを検査しました。ル・チアは運河を眺め、そして空を見ました。自分のセンシブルな計画がグループゲームになっただけだったことを実感しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、会話、照明は芸術的な解釈です。

このWon'tフィット





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

アムステルダム・運河の上

橋の下の空が浮かび上がっていました。船が銀を切るまでは、少なくとも少しの船がそれを分裂します。「ああ、」と言いました。「その家を連れてみたい」 ル・チアは、私のオープンコイン財布を見ました。「それ、折り畳まないとね」 コロンビーヌはクラウドを1つだけ取ることを提案しま

した。私たちは、彼らがすべての移動を選択したように長く過ごしました, 誰が私たちが選んだものでした。財布のシャットをスナップしました。初めてのお土産はエスケープされていましたが、数分間柵に泊まりました。誰も気にしない。

> **「空を包み込むことは意外に難しい」**

キッチン付のお土産





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

アムステルダム・水のホーム

すでに空を抱いた窓が家船でした。ル・チアは、一度に通知しました。「これで取ります」と「キッチンは含まれますか?」 コロンビーヌさんにお願いしました。小さな土産物だけを取り戻した家で説明したところ、どこかに刈りが必要でした。パッサーバイターンを作るのに十分な大声で笑った。黄色の木材は水に浸され、その上に少しのdinghyロック。自分で運ぶことができるものを選ぶことを約束しました。ル・チアは、かなりの寛容で、この新しい条件を受け入れました。

> **「お荷物を預ける。眺めとキッチンで」**

ハンドル付き空





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ・1つの傘の下

ミッドデルブルグでは、空はより簡単に選択し、落ち始めたことにしました。大型のタータン傘を開けました。コロンビーヌは彼女のスケッチブックを離れて、ル・チアは他のエッジの下に滑りました。緑のシャッターの前には、突然、小さな屋根を自分で持っていました。コロンビーヌは言った。「既に持ち運び中です」 目覚めして、彼女の熱心な表情をキャッチしました。ル・チアは、環境に配慮した機能で、折りたたみ版がより実用的だったことを追加しました。生地にドラムを塗った雨。しばらくの間、どこにも行けなくてはならず、その3つすべてがその下に収まっているのは十分でした。

> 「1つの空。3つの幸せな旅行者」

ルーム のための 笑い





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ザントフォールト・ウォーターラインで

海で小さな空のシェルを拾い上げました。計画が許された大きさでした。手のひらにバランスをとった。「1つの資格がある」ル・チアは承認しました。風は、私の顔をまっすぐにスカーフの端を漂う。コロンビーヌは笑いを破り、再び海を見ることができた前に参加しました。貝を砂に入れます。左から、ポケットに数粒、頭の中では笑いが残っている。働いた。小さなものがあったから、私たち全員に部屋が入っていました。

> 「**最高のお土産は、私たちへ。**」

空にふさわしい空間。

そして、それ自体を詰めた小さな砂。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第15話

あとひとつ、角を曲がれば

クロアチア・Mea Zen

シベニク、スプリット、トロギール、フヴァル。メア・ゼンは最短ルートを試します。— 乗算を抑える小さな迂回。

「散歩はしない」と私はちょうど快適な靴を置いた女性の信念で自分自身に言いました。ノートブックの手帳で、短くて直線を描きました。とても敬意ある計画でした。最初の角まで続く。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、イベント、照明は芸術的な解釈です。

ピジョンズ委員会





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

シベニク・ピジョンの空の下

シベニクでは、翼の急激な突が止まりました。ピジョンズは狭い車線の上に散らばり、青空全体を簡潔に再編成しました。見上げた。「じゃあ、どっち？」 騒々しい委員会にお願いしました。角を丸くしたのがほとんど。屋根に2泊2日、想定通りに分かれます。空気が落ち着いて、その後は冷やしてしまった。ノートブックでは、大半の投票で受けた決定として最初の迂回を録音しました。確かに私は散歩の非常にスタートで民主主義と議論するつもりではなかった。

> **「羽根の大部分が承認した迂回」**

天井のないお部屋





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

スプリト・開いた窓の下で

スプリットでは、私は古い壁の間にステップアップし、旅の最愛の部屋が天井が全くないことを発見しました。窓高の窓から青みがかった。必要以上に少しゆっくり石を削ってみました。それぞれのステップで、自分のドレスが動かされた。一瞬、自分だけの小さなファッションショーでゲストだけになろう。それから、私のソールと儀式的に地球に戻って私を連れて行ったと、小石の覆われた。「感謝の気持ちで」と私は気づいた。ノートブックの直線は、第二のエレガントな曲を手に入れました。

> **「服装の決まりは、自分が心地いいこと」**

ツアーの右側





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

トロギル・反対のクワッドに

トロギールでは、私が計画していたものの反対方向に正確に歩いていた自分自身をキャッチしました。戻ってきた。それから水は、家、屋根、そしてそれを超えるタワーの列全体で、私の前に現れました。計画を迷ったのですが、今では店の窓に自分の十字式を眺めているのでしょう。代わりに、私は私の前に、町全体でクイを立っていました。私はノートブックを閉じました。走行距離を正当化する必要はありませんでした。しばらくの間、石造りの壁が水の中にはっきりと見えない線になるのを見かけました。

> **「間違ったターン。優れたスポット」**

プラン・グリュー・カーズ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

フヴァル・屋上の上

Hvar の上、ついに座った。屋根、港、海が敷き詰められていて、私のラップの上には、長い日後に髪のロックに似ているラインを持つノートブックでした。町を眺めて下がりました。ここからは、その迂回がほぼセンシブルに見えます。「最短ルート」を横断して「マイルート」を書きました。それ以外にも少し矢印を追加しました。見方から何も見つからなかったためではなく、。ちなみに、途中で、もう1レーンに気づいたんです。そして、それは本当に1つの角だけだった。

> 「**最短ルートが短い**」

片方からもう片方まで。

靴は好まれていました。誰も計画を尋ねなかった。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第16話

三人そろうと、黙っていられない

モンテネグロ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

乾杯、ロヴッケン、スケーダー湖、タラ湖。メア、コロンビーヌ、ル・チアは、ひとことも口を挟まずに、ただしばらく眺めてみる。

「ちょっとしばらく見てみよう」 コロンビーヌが提案しました。「おしゃべりなしでね」 ル・チアはうなずいた。私はすでに2つの質問を持っていたが、私は、私は、私がやった。3人の女性、広大な風景、そして少しの沈黙が素敵な計画でした。誰も、私たちを守ってもらえるだろうと言いました。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、会話、照明は芸術的な解釈です。

ルールはシンプルです



ペラスト・2つの島々が私たち前に



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ペルストの前の水に2つの小さな島々が立ち並びます。暗いシロネ、他の淡いドームがありました。コロンビーヌは、会議全体を最後まで引き出すのに、ノートブックを閉じました。「今からね」 しばらくの間、私たち全員が非常に勤勉に見かけました。息を吐く。「わたしたちの一人が美しい

ものを見たら?」 ル・チアは私を回しました。「私たちが見ているのは、メア」 コロンビーヌ は、言葉を使わずに眉毛を上げました。第一回は、技術的性に終わりました。規則は明らかに修正が必要でした。島々は、平和に残る場所。かなり練習をしました。

> 「**最終質問の後に沈黙が始まります。**」

小さな注目でもない。





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ロヴッチェン・山の層の中で

ロヴッチェンでは、先輩の背後にある山々に面しています。こんな感じがする。ラップ、ノートブックは閉まり、口も手元に。頑張ってよく動いていく気持ちを出すために、十分な時間を管理しました。コロンビーヌは、私に少し耳を傾けました。「作りこないコメントの数々を想像してみてください」 私は一緒に私の唇を押しました。ル・チアはスタントを探しようとしましたが、彼女の口の角は彼女を離れて与えました。笑い声をあげる3人全員。短いオーディオサプリメントで共有された山の観察として2番目の試みを録画しました。

> 「**それはコメントではありませんでした。オーディオサプリメントだけ**」

誰かがルールに署名しなかった





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

湖スケーダー・小さな休憩

スカダー湖では、山々に向かって水上植物のバンドを巡り、目を引く。最後は、自然に静かにやってきた。圧迫された唇、秘密のカウント無し。それから柔らかくなったが、非常に決定されたランブルを来ました。ル・チアは私たちを見て、静かに言った。「それは私にはなかった。私の胃は規則に署名しなかった」。コロンビーヌはパンロールの紙袋を開けました。自分を手渡して、正式な免除として受け入れました。リフレッシュの3回目の試みを中断しました。眺めは、時差で、私たちの場所を保ちました。

> **「ハンガーは話してもカウントしません」**

3つの声を聴く





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

タラ川・橋の向こう側

Taraの橋の横に、もう4回目の試みは初めての栄光を生き延ばさないと知っていた。木を重ねた深さの上に伸びるアーチ、それぞれが異なることに気付いた。コロンビーヌは橋のリズムを見ました。ル・チアは斜面の色を見ました。その間に感じた気持ちがいいのに気付きました。「もう一度やってみる？」 コロンビーヌは、ノートブックを開くことなく、尋ねました。「私は、自分が見ることができることを私に言ったんです」と私は提案しました。一度に答えた。笑いが一人から次の一人へとうつり、勝負は勝者のないまま終わった。旅の余韻を救って、必要としていたら、戻って旅のサイレンスを保存しました。

> **「風景が見えてきた。そこには、お互いがいた」**

静かに保たれません。

しかし、私たちは非常に良い会社でした。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第17話

「ボンジュール」ひとつで

コート・ダジュール · Mea Zen

アンティブ、ヴァンス、ハイレス、サントロペ。メア・ゼンは、いつまでも普通の挨拶が彼女を連れて行くことができるかを発見しました。

この旅行では、ボンジュールという信頼できる言葉を1つ用意しました。会話、ドア、笑顔が少ないという話を開くことになっていた。あとは言っても、私は状況に残った。荷物に、とても印象的に光る言葉のキットでした。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、会話、照明は芸術的な解釈です。

静かでリハーサル





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

アンティーブ · 窓を通した海

アンティーブでは、海は自分のフレームを持っていました。青空と青空を併せた高さのアーチ型の窓。ヤシを石の敷きにし、静かに試してみると「ボンジュール」。海は無事に取りませんでした。小さな帆はそれぞれの方へ進み、頬に日の光がすべった。最初の会話としては理想的だった。誰に

も間違いを直されず、返事を聞くのに辞書もいらなかった。もう少し大胆に挨拶を繰り返しました。そこで、笑顔で笑顔に。時々、旅行するときは、窓にhelloを言うことによって始める必要があります。

> 「**海は私の発音を受け入れました。**」

町の回答





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴァンス・屋根とヤシの上に

ヴァンスでは、家々は互いに積み重なっていましたが、それぞれの人が絵の中にいたいと思っていました。ヤシは屋根の間にバラを上げ、見上げると、誰が私に聞こえるかどうかを完全に忘れました。「ボンジュール」と言ったんですが、ただその喜びのために。視界のどこかから「ボンジュール、マダム!」と答えた。私は頭を回したが、誰も見つかりませんでした。住宅間の挨拶。自分が誰に所属しているのかわからないのですが、その瞬間は鉱山だったんです。突然、町全体から離れて立ち向かう訪問者みたいな感じがなくなった。

> 「**町の帰りは、ハローを言うとき**」

会話は速度をピックアップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ハイレレス · コーヒー1杯

ハイレスのカフェでは、ボンジュールを届けて、その中を急激な文脈で伝えました。システムの弱点を発見しました。会話の開き方を知ったのですが、まだ続けても指示がなかったです。笑い、コーヒーを指し、ゆっくりペースを求める丁寧な試みをしました。笑顔の答えは、すべてがうまくいったと言いました。先日は、小さなカップが立っていました。私のフランス語はあまり成長していませんでした。しかしながら、自分の勇気が椅子を引き出しました。

> **「コーヒーを経営しました。一緒に会話を管理しました」**

バッグに滞在した辞書





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

サントロペ・水の挨拶

サントロペの近くで、小さな漁船が青い海を渡しました。真っ白な色合いに仕上げた薄赤のストライプ。背後にある淡い目覚め。デッキに誰かが手を上げました。おそらく、彼らは私に背後にある誰かに挨拶をしていた。私は、ちょうどチェックする、しかし、誰もそこにいたいない、後ろに目隠し。そこで、私は鉱山を調達しました。第二の挨拶は無事だったし、笑った。ひとつの単語を言う必要はなかった。船が移り変わり、笑顔が保たれました。ボンジュールを丁寧に準備し、結局必要ない会話に全力を尽くしました。

> 「**この挨拶は、翻訳を必要としません。**」

ボンジュールは十分です。

笑顔は休憩を言うことができます。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第18話

鍵はいりません

ベルギー・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ブルージュ、ゲント、アントワープ、ボクリン。メア・ゼン、コロンビーヌ、ル・チアが正しいドアを探して、何かより良いものを見つける。

「もし、どのドアを選ぶことができるのだろうか?」 コロンビーヌさんにお願いしました。ル・チアはノートブックを近づけました。しかし、私たちはただ深刻な課題を与えられたからです。バッグを見ました。「すべて正しい。しかし、私たちが部屋のために持っている唯一の鍵」 新しいゲームを止めることは何もしなかった。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、会話、照明は芸術的な解釈です。

水の訪問者





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ブルージュ・水の上のドア

ブルージュでは、背の高い壁に絞られた小さな青いドアが見つかりました。以下は、いくつかの手順で、水でした。反対の銀行から、コロンビーヌは彼女の最初の選択を宣言しました。「お客さん達がボートに到着」 ル・チアは、より良い外観のために、パラペットの上にleaned.「鍵を忘れ

てしまったら?」 コロンビーヌは、悲しい瞬間のために考えました。「良いアイデアの潮を待ちます」 ブーツを見て、自分がいた場所からそれを賞賛することを決めた。ドアは、その秘密を保持することができます。わたしたちの笑いは、水を渡っても、水を渡って来た。

> 「**このドアはパドルも必要です。**」

素晴らしい期待





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ゲント・見上げてみる

ゲントでは、私たちの目は、塔のすべての方法に石の正面に登りました。上記の丸い窓からは、目視で3人の好奇心のある訪問者を調べています。コロンビーヌは彼女の顎を少し高く持ち上げました。「今、これは適切なアドレスのように見えます」 肩から滑り落ちるのは怖い感じができましたが、見下ろすのは止まりませんでした。ル・チアが笑顔で笑顔を。「身長が選ばれる方法であれば、頭を夜に回すことはできません」 顎をほぼ同時に下げました。皆様のお越しをお待ちしております。

> 「**常に首に優しいわけではない**」

重要来場者への入場





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

アントワープ・予約なし

アントワープの彫刻されたポータルの前で、コロンビーヌは彼女の首輪を調節しました。上記の石の数字は、私たちの普通のリンダリングでさえも儀式を感じ始めたので、非常に尊厳を運びました。「私たちを期待しているの?」 お問い合わせ。「Of コース」と彼女は直面して答えた。「3人の女性。予約なし」 ル・チアは笑いを破って、何も書き込める前に笑い声を上げます。重い木のドアは閉鎖したまま。そこでは、そのアーチの下に立ち、重要な会議のために到着したことを立たせようとしなかった。実は、すでに1人でいったんです。

> **「3人の女性。予約なし」**

受賞者不要





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ボクレイク・チャペルを過ぎた道

バクリジクでは、道の横に緑色のドアの立方のある小さな白いチャペル。草は木製の塀の後ろに育ち、ほこりのトラックは家の間に消えました。「で、どれが優勝？」 ル・チアが尋ねた。少しの扉を眺めながら、前方にはオープンパス。「これだと思う」と言いました。コロンビーヌは、私が指摘していた場所を見ました。「しかし、そこにはドアがない」と「事実上」 ル・チアは、結果を発表することなくノートブックを閉じました。しばらくの間は、横に歩いていくだけです。その後、コロンビーヌは、もう一方の側にコーヒーを飲みながらも見つけるかもしれないかどうか尋ねました。

> **「私たち全員が一緒に行くことができる」**

必要なキー無し。

パスが開いていました。そこで3つありました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第19話

ゆがんだ線も、いいものだ

ポルトガル・Mea Zen

シントラ、オビドス、バタルハ、コインブラ。メア・ゼンは、ポルトガルの素敵なスケッチを家に持ち帰ってみたいです。ペンシルは、自分の考えを持たせています。

ノートブックを少し買って、ポルトガルを引くことにしました。それだけではありません、明らかに。1つの枝、1つの通り、少数の美しい細部。繊細なラインとエレガンスをイメージ。私の右手は、明らかにアレンジについて語らなかった。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。この4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、インシデント、照明は芸術的な解釈です。

いまだにいらないブランチ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

シントラ・白壁に支柱

白の宮殿の壁に反対して、木は大きくて少し変わった手書きのような枝を広げます。一番シンプルなものを選びました。紙の上には、フォークとスタートしたスパーの間にすぐに何かになりました。ツリーを見ました。ノートブックで。ツリーは完全に満足しているようです。私はラインを修正

しようとしました, これは、スイダー別の足を与えました。笑いながら、笑った。周りのすべてがとても楽に美しいので、その真ん中に壮大なスクリブルを作ることは、むしろ解放感を感じました。

> 「**木はよく切りました。足が少なすぎる**」

消しゴムのないブリーズ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

オビドス・青色で縁づく車線

オビドスでは少し通りを選んだ。白壁、青いエッジ、植木鉢、小石の下足: 確かにいくつかのラインは、この時間を行うだろう。私は脇に踏み入れ、ノートブックを開き、私のスカーフの端を持ち上げた風。遠くに描かれたものよりも、空気を綺麗に巻き上げました。筆がスリップして、新しいスケッチを渡るカーブを送っています。私はレーンが同じように曲げることに気付いたとき、私は消しゴムのために到達していた。そこを左にしました。風はすぐに働いたし、リビジョン無し。

> 「**その線を引いた風。不満を取らない**」

今日は宿題なし





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

バターリャ・石でレース

バタルハのポータルの前に、私は自分の鉛筆を習慣から引き上げました。アーチは分岐し、カールし、そしてまだ小さい装飾に消えます。ノートブックは、おやつに部屋を持っていながら、さらに10種類をご用意しました。しばらくの間、どこから始めるか決めてみました。あとは閉じました。腰から休むと、頭を傾けて、単に見かけました。このページには石が収まらなかった。何かを手伝っていなかったんです。私の鉛筆は休憩を取ることができます。私の目はちょうど全シフトを与えられました。

> 「**今日は美にテストはありません**」

スクリブルの下の署名





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

コインブラ・フラワーズ に滞在

コイムブラでは、壁が咲きはじめました。茎、小さな木や装飾品はタイルを覆い、スイントラの定規を振り返ってもらいました。今はオープンノートの横にスカーフの端を握った。生地の青い花、壁に花が咲き乱れる枝は、もう一つ理解してみると突然思える。いくつかの葉を追加しました。こうして解決した: スパイダーは今、植物だった。それを再び修正する代わりに、私は図面の下に署名しました。正確にはなかったが、温かみのある石、風、そして自分の笑いを持ち帰った。こんな小さな紙の紙をたくさん入れます。

> 「**それは、正確なコピーではありません。それは私の記憶です。**」

美しい刻印。自分を惹きつける。

ポルトガルから4つの瞬間を持ち帰り、最初のラインだけを離れるのを衝動しました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第20話

大きな計画、小さな喜び

クロアチア・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ドゥブロブニク、トリステノ、コルチュラ、ペルチェサック。3つの旅行者は、壮大な景色の間にどれだけの喜びが合うかを発見します。

コロンビーヌは、今回、私たちは偉大な事柄に注意を払うことを発表しました。市の壁、歴史、風情。ル・チアがあんまりまじめな顔でうなずくので、私はかえって嫌な予感がした。私は私のスカーフを調節し、私たちが家に帰ったとき、私たちは経験のサイズを測定することができたと決めました。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップを一緒に持ちます。キャラクター、対話、視点は芸術的解釈です。

今、それは計画です





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ドゥブロヴニク・壮大な始まり

ドゥブロブニクの壁は、コロンビーヌが手を伸ばし、個人的にそれらを委託していたように見えるようになった前に、非常に高い上昇しました。「見て、本当に心に抱かれたこと」 太陽に輝く石、タワーの上に青い空が伸び、しばらくの間、私は私が何を言っていたか忘れていました。ル・チア

は彼女のノートブックを彼女の胸に保持しました。「新しいページを始めたのは?」とコロンビーヌは言いました。笑顔に。旅は大きく始まったばかりで、紙の必要がなくなりました。

> 「**大きなものを見つけました。今はノートに収まるようになりました**」

一日の最も小さい魅力





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

トルステノ・緑のお土産

トルステノでは、高い竹の茎が私たちを囲んでいました。頭を傾けて、頭を傾けてカノピーにすべての方法を確認します。コロンビーヌは「まだ冷えている」と述べた。髪の毛から小さな葉をしっかり持ち上げ、指先で見せました。ル・チアは笑いました。「おみやげを見つけたね」「あっちが私を見つけたの」と私は言い直した。コロンビーヌは、別のドゥブロブニクの塔だったので、儀式的に葉を提示しました。「一日の一番小さい魅力」 竹の背が高い3つの成長した女性が1つの完全に普通の葉を賞賛している。しばらくの間、私たちも動かすような感じがなかった。

> 「**今回は、お土産が選んだんです**」

全室客室





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

コルチュラ・水を渡る屋根

水から、コルチュラの屋根は静かに絵を描いています。樹木の上にはベルタワーがバラ色になり、石垣が家の中に潜り、私たちとの間に垣間見える。小さな船のレールに寄り添います。「どう？」 コロンビーヌさんにお願いしました。「この葉に反しておきましょうか?」 ル・チアは2つの作品を比較したのに、一眼を閉じました。「全く違うカテゴリ」 タワーに、ノートに置いてある。「ひとつずつ、一ページ使おう」 コロンビーヌは満足そうにうなずいた。髪の毛が大好きだったか、広い視野や小さなものが大好きだったか決める必要はなかった。旅の場は、両方とも部屋を構えていました。

> **「パノラマと葉。それぞれのページ」**

スカイは最後の言葉を隠しました





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ペルチェシャック・順位をつけない夕べ

Pelješacでは、空はオレンジとピンクをぼやかしました。腰に座って、ル・チアは膝の上に閉じた彼女のノートを残しました。コロンビーヌは、先に耳を傾けました。「すべて正しい。これは本当に壮大です」 しばらくの間は、暗い丘の上に色が変化するのを見ただけでした。ル・チアは静かに注目しました。「そして、葉はノートブックの中で最高の場所を持っています。私はそれを描画するために待つ必要はありません。」 昔の友人のように、私たちの笑いが返されました。身近なスカーフを描いて、両方見ました。1日は、ストップの注文をマードルする場合があります。夕方、またはその文章がおそらくない。

> **「最少の土産物は、そのページを持たせました」**

グランプラン。小さな喜び。私たちの旅。

壁にはノートのお部屋と、ちょっとした葉が1つありました。笑いは荷物を必要としません。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第21話

旅のノートが黙るとき

モンテネグロ · Mea Zen

Ulcinj、Podgorica、Virpazar近くの海、Ostrog。メア・ゼンは正しい言葉を検索します。— 瞬間を単に滞在できる瞬間を見つけます。

ノートブックに置いてある場所のリストは、それぞれに少しスペースがある。私は私が見たこと、私が感じたこと、忘れたくないもの、私は私が行ったようにそれを埋めるだろうと思った。モンテネグロは別の考えを持っていた。まずは開口部の文を離れました。それから2秒間見えるように私の衝動を奪いました。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。4つのシーンは、一日の旅程ではなく、別々のストップと季節を一緒に持ちます。嵐のキャラクター、インシデント、屋内視点は芸術的解釈です。

ファースト・センテンスは待つことができます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

オストログ · 崖の下の白い壁

Ostrogでは、よく調べてみる前にノートを開いた。岩から抜ける白い壁、そして歩道の下の谷は霧に消えました。日付を書きました。それから私は自分の呼吸に気づいたので、紙の上に鉛筆を置いていました。人々は静かに渡しました。誰かがコートを調節しました、誰かが壁に注ぎました。帰

り道から一歩足を踏み入れ、胸にノートを握った。開口部文を必要としませんでした。最後まで見てみる必要がありました。

> 「**私はデートをしました。残りはまだ起こっています。**」

海はそれ自体を書きます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

Ulcinj 近くの海岸・窓を越える嵐

海で、ノートの「快晴風」という言葉が悪い冗談のように見えるようになったので、空はすぐに暗くなりました。クローズド・ウィンドウの後ろにあるドライ・ルームから、水上暗いファネルを見ました。コップは、ガラスに小さな滴が長いラインに入ったときに手を温めました。一度は、自然を美しく表現する衝動がなかった。見てみると十分でした。私のノートブックは、私の隣に閉じました, そのすべてのドラマの真ん中にほとんどコミカルを見て、その落ち着きのベージュカバー。外側は、空が床を持っていた。今は、Sipを取った。

> 「**今日の番組を書いている空**」

普通の午後





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポドゴリツァ・樹木の中の石橋

ポドゴリカでは小さな石橋が止まった。樹木の中ではややや光が見え、その下の岩に凹凸のないパッチで落ちました。乾燥石の上に片側に座っていきます。私は私のサッチェルからノートを取った。私の心を変え、代わりにリンゴを取り出しました。ほんの少し傷がついたが、素晴らしかった。嵐のパフォーマンスの後、この小さな午後は予期しない貴重な感じでした。壮大な見出しのために呼び出されたことは何も起こらない。足もとで葉がかさこそ鳴り、枝は水の上へとせり出していた。私は傷んだほうの半分も食べた。

> 「**今日は、橋、リンゴと私だけ。十分に引用します。**」

証拠を必要としないページ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴィルパザル・反射中のボート

Virpazarでは、ボートは、自分の反射がそれらを所定の位置に保持するように見えるように、まだ敷設されています。枝が落ち着きのある水に横に繰り返され、冷気や湿った葉の匂いがする。肩の周りにコートを引っ張り、手帳を開けました。予定していたよりも、予定していた日付のあとはスペースが多かったです。一度、それは私を失望している可能性があります。今、私は文章を追加することなく、ページの間に鉛筆をスリップし、それを閉じました。しばらくの間は、一番近い船を静かに岩で眺めました。自分がどこにいたのかを正確に知った。今回は、紙がそれを証明する必要はありませんでした。

> **「覚えてるよ。メモがなくても」**

一部のページは空に留まっています。旅はなかった。

ノートを閉じた。お湯に浸かっていて、放置してもらった。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第22話

まだ帰らないよ

ブラチスラヴァ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

マイケルの門、劇場、そして1つの暖かさのある車線。メア、コロンビーヌ、ル・チアは、親しみやすい街でさえ、より長い夕方に値するということを発見します。

旅を終えて、目指すのは、帰宅し、解凍し、落ち着かなければならないだろう。代わりに、Davinで会いました。コロンビーヌは計画をしていた、ル・チアはどこかで行くように感じ、私の家のキーは私のバッグの非常に底にあった。誰が、私はそれらを探して始めることを提案しません。

アーカイブ旅行2市写真に触発された想像力のある物語。 Familiar Bratislava リファレンスは、新しいイラストでトライオをフィーチャーしました。昼過ぎから夕方にかけての対話、インシデント、進行は、現在の会場ガイドや正確な旅程ではなく、芸術的な解釈です。

ホーム 道のりになることができます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

デビアン・川の上を風に

コロンビーヌは、すべてを整理することを意図した女性の表情でマップを折り畳みました。風はすぐに半分に折りました。ル・チアは1角を握り、指で城下を下ろした。「その方向に長い道に行くことができる」と言いました。「そしてこの1で夕食に」コロンビーヌは、他の場所で完全に指摘

した。笑いながら、どのオプションが勝つかはっきりしなかったが。古き良き壁の中では、シンプルな計画に着目しました。少し長く一緒に過ごし、世界の残りの部分について何をすべきかを決めます。

> **「今日は計画を立てています。今は半分に折りたまれています。」**

時計は提案のみです





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

マイケルズゲート・少しのツアーのための時間

マイケルのゲートの下には、時計に目隠しをし、今でも頭を向けることができると注目しました。街を閉じたことを提案していたら、両方とも私を見ました。ル・チアが認めた「あなたもできる」 「でも、無理にそうしなくてもいいんだよ」 コロンビーヌが私の手を取り、もう一歩先へと引いてくれた。こんなコブツ、このタワー、そしてその独特の感じで、馴染みの街を眺めるのに残らないと感じました。とはいえ、突然の気分が良くなってみたい。少し車線。おいしいもの。止まりに向かない理由はまだ。

> **「時計は時刻を教えてくれる。夜をどう過ごすかは、私たちが決めるの」**

3つのロール、リハーサルなし





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

歴史あるSlovak国立劇場・少しのパフォーマンス

劇場の前で、コロンビーヌは、彼女のバッグが彼女の肩を滑り去ったような儀式的な弓を作った。ル・チアはすぐに賞賛されました。「役割の秘め:どこかで私たちを取り続ける女性」と発表しました。「役割を支える:家に行くことを望んでいる女性」コロンビーヌは答えました、まっすぐに。ル・チアは、彼女の心の上に手を置く。「空腹を弾く」 それに答えがなかった。イブニングライトはファサードを柔らかくし、セットの一部のように噴水が立っていたり、テーブルを見つけるために私たちの小さなパフォーマンスは非アニマルな決定で終わっ。

> 「**拍手は素敵でした。今は夕食が好きです**」

3つのテーブル





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

旧市街・暖かい光の脇に

狭い車線では、窓は金を輝き、小石の上に私たちの人たちと抱き合わせた植木の影を描きます。壁面に少しテーブルがありました。コロンビーヌは椅子を動かし、ル・チアはノートを置き、ついにバッグを開いた。鍵は使用できません。ペンを探していたので、新しいリストが紙ナプキンに形状をとっていたので、次の場所に行きます。「最初に注文」とコロンビーヌは言いました。「私は経営に賛同する」とル・チアが付け加えました。ペンを下ろします。夕方は、それ以上の計画を必要としません。温かみのあるカップが3つ、何かをニブルにし、終わる意思のない会話が現れました。

> **「まだお家を出さない」**

待ちます。夕方は私たちです。

バッグの底に鍵が残っています。弊社では、別のストーリーをお部屋にしました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第23話

予定を変えた雨

ベルギー・Mea Zen

ブルージュ、ルーベン、ブリュッセル、海岸。メア・ゼンは、いくつかの壮大な計画を詰めた - と1つの赤い傘。

傘を袋に入れ、最後の分に押しました。計画通りに赤く、少し目覚めて、完全に不必要でした。素敵なドレス、快適なブーツ、太陽の光を浴びるルートができました。ベルギーは明らかに私の計画を読んでいなかった。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。これら4つのストップは、一日の旅程ではなく、別の旅程のコラージュを形成します。雨、湿った表面、天候、メア・ゼンの体験は、ソース写真の芸術的追加です。

未要求のアクセサリー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブルージュ・段落したガブルの下に

ブルージュでは、雨が始まったばかりで、楽に構成されているのを見てみることにしました。最初のひと粒は鼻の頭、次は襟元に落ちた。あとの雨粒は、どうぞと言うひまもなく降ってきた。私は自分自身を始めたので、突然傘を開けました。湿った舗装の上に咲いた赤い丸。そもそも、乾燥のプライベートパッチと、色鮮やかな家の意外と良い眺めができました。彼らのステップされた寓話は、パドルに横たわって続いた。私は私のスカー

フをまっすぐにし、私のチンを持ち上げて、私のペースを遅くしました。新しいアクセサリーは、私の好みでした。

> 「**すべて正しい。赤はすべてのものに行く**」

少し長持ちするだけ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ルーヴェン・レンガの車線と石のアーチ

ルーベンでは、石のアーチの下に避難した。ブーツの横に折り畳まれた傘が、レンガの車線が静かで赤みのあるトンネルになりました。シャワーを待ちたいという想いが込められています。すると、水の流れが薄くなり、各々のコブの周りの異なるルートを取ることに気づいた。壁の横に小さじに目を向けました。窓と小さな灰色の空を一枚保持しました。雨は徐々に楽々でしたが、アーチの下に泊まりました。突然、急いで、非常に良い言い回しは思えなかった。

> 「**今は残せません。なかなかやりたくない**」

雨の屋根





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ブリュッセル・ガラス屋根の下に

私はブリュッセルのアーケード感覚の勝利を入力しました: 天気はここに到達できませんでした。傘を折り、髪を滑らかにし、店の窓の反射をチェックして、まだ女性のように休日に見えているかどうかを確認します。髪の毛が雨が降っていた休日に女性みたいな感じでした。その後、ソフトなドラムが頭を上回りました。ガラスの屋根、軽く柔らかく、アーチの下に渡された人々を渡る低下。笑いながら、見上げる。雨から隠れるようになったので、今は聞いてみるのが一番の席でした。

> 「**結局のところ、途中で道を見つけました**。」

ワン ブーツ トー ファー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ベルギーの海岸 · 退去水横

海岸では雨が降った。雨傘を折りたたんで歩くと、天候に適応する方法を知っている女性の真剣な表情を身に着けています。私は1匹の子孫を避け、別のものを避けました。3つ目は考えずに一歩一歩踏み出そうと小さかったです。スプラッシュ。私は私のブーツを見ました, その後、海で, 謝罪を期待するような。どれも来た。風が半分の音を放つと大声で笑いました。次のパドルの周りをきちんと行ってみました。特に、ドライソックスの1組しか持たない場合、大きな個人的な変換には限界があります。

> 「**この計画ではなかった。笑いはあった。**」

傘は浴室で乾燥を終わらせました。

翌朝はブーツを掃除しました。海岸の笑いは、長く滞在しました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第24話

甘い取り決め

イタリア・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガルダ湖。3人の友達が、その決定は、共有テーブルの周りにより簡単に来ることを発見しました。

メア・ファンシード・ピスタチオ。コロンビーヌはチョコレートを望んでいた。ル・チアはまだ決めていませんでしたが、彼女は間違いなく他の人を試してみたいです。イタリア語の合意が始まりました。地図でやることは少しありましたが、続いて止まった時に、かなりの便利さを証明しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたトリオのストーリーをイメージしました。ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガルダ湖は、1日の旅程ではなく、別の旅程のコラージュを形成します。湖畔の対話、事件、共有テーブル、夕方の光が芸術的追加です。

3 非常に深刻なオピニオン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ヴェネツィア・狭い運河の上

ヴェネツィアの小さな橋で、氷の叫びは予想外に長く走った。メアは、将来の家を選ぶ人の信念とピスタチオを防衛しました。コロンビーヌは単なる眉毛を上げました。「チョコレートは守らない」 一方、ル・チアは運河に映し出された家を見ました。「私たち一人ひとりが自分のことを借り

て、少し借りてもらえませんか?」 議論の真剣さを与えられた、それはほとんど挑発的だったので、とても落ち着きのあることを示唆しました。メアは笑いました。コロンビーヌは、ル・チアの手がパラペットの側に揺れるよう、至りました。合意に達しました。船を降りて、船が止まってしまっていたので、船が止まり、船が止まり過ぎてしまった。

> **「私たち自身が選ぶ。誰もが味をあげる」**

甘い約束が溶けていく





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

フィレンツェ・ドームの下に

フィレンツェでは、それぞれ独自のコーンを持っていました。ドームは私たちを上回る。そして、メアはこれを正確に距離に壮大な視線のための瞬間に決めました。ピスタチオアイスクリームは他のプランでした。「あなたの尊厳は、あなたの手を動かしています」コロンビーヌが指摘しました。ル・チアはさっとナプキンを差し出し、そのあとで自分の鼻の頭にもピンクの点がついているのに気づいた。メアは笑いすぎました。一瞬、建築を賞賛し、デザートを洗練するのを心待ちにしております。デザートが勝ちました。ドームは急いでいませんでした。私たちの3つのスクープは、完全に異なるスケジュールを持っていました。

> **「アイスクリームを最初に保存。アートは待つことができます」**

小さい改正





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ローマ・古い列の横にあるパス

ローマでは、私たちのブーツは、非常に十分な歩くことができました。古い列の反対のパスで、コロンビーヌはマップを止めて開いた。「この分だけね」 メアは彼女の腕を折りました。「前の地図が言ったんです」 ル・チアは彼女のスケッチブックを閉鎖し、ベネチアン協定の改正を提案しました。私たちのそれぞれは、他の人からアピールすることなく、1つの休憩を選ぶことができます。メアは椅子、コロンビーヌを眺め、ル・チアに甘いもののために投票しました。しばらくお待ちください。その後、コロンビーヌはマップを折りました。午後1時以降は、矢印を使わずに探していたことを正確に知しました。

> 「**椅子、眺め、デザート。最後にはっきりと。**」

3つのスプーンはやる





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ガルダ湖・水の夕暮れテーブル

ガーダ湖では、水面に少しテーブルを置いています。羽毛で軟らかい山々や、三味の入った一枚のボウルが、その間に入荷しました。3つのスプーンで。「これは疑わしく整理されている」コロンビーヌが認めた。メアは、独立した品質検査器の式でチョコレートを味わった。ル・チアは静かにセンターに向かってボウルを汚しました。最後のスプーンフルが残っているとき、私たちは彼女のためにそれを取ることを約束しました。「恐らく?」彼女はチェックした。「今日はね」とメアが答えた。「合意書を解約すると、再び交渉が進んでいます。」

> **「明日は、少なくとも1つの言い訳を保存しましょう。」**

ル・チアは最後のスプーンフルを獲得しました。請求書は3つすべて見つかりました。

ガルダ湖を一望する夕暮れ。3つのスプーンとテーブルの上に置いた空のボウル、たくさんの部屋が会話のために残っています。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第25話

なんでもない日のワンピース

スペイン・Mea Zen

セビリア、コルドバ、トレド、グラナダの夕方。メア・ゼンは、お気に入りのドレスが特別な機会を必要としないことを発見しました。

メアは、いくつかの特別な何かのためにドレスを保存しました。実用的なものの間で、ほとんど密かに詰め込まれた。朝は、青い花、彼女の快適なブーツ、そして外で完全に普通の日を見ました。今回は、その機会が最初に到着しなければならなかったと決めました。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。これらは、一日の旅程ではなく、別の旅程と日を成し遂げることを阻止する。キャラクター、対話、衣服、活動、照明など、芸術的追加です。

招待不要 必須





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

セビリア・淡いボルトの下に

セビリアでは、メアは彼女の頭を後ろに浸したので、彼女は彼女のスカーフを着ていなかった。鉄のグリルの上に、石、装飾、そして光が層にバラ。しばらくの間、彼女は朝の鏡に尋ねた質問を忘れていました:彼女は普通の散歩のためにあまりにもうまく服を着ていましたか? 悪党は明らかに

そのような懸念を持っていませんでした。彼女は笑顔で、彼女の袖は彼女の手首に戻って目を覚ませて、見続けました。スーツケースにはたくさんの実用的なものがありました。今日は、喜びも実用的である可能性があります。

> 「**私は招待状がない。でも、ここにいる**」

モーションの花





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

コルドバ・静かな通路の光

Córdobaでは、どんな言葉がやった前に、光がメアに達しました。高窓を渡り、床を横切って、最後に彼女のドレスの上に花に触れました。小さな一歩を踏み入れ、パターンが変化するように見えた。ステップバックの半分:再び異なる。確かに、あるイベントの並べ替えは、適切な旅程に入れることができましたが、その2分を充分に与えました。ノートブックは閉館しました。それらを記述する時間がないとき、いくつかの瞬間は覚えやすくなります。

> 「**光のほんの少しのパッチをつかむ**」

小さな回転





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

トレド・ストーンファサードの前に

Toledoの石造りの正面の前に、メアは完全にまだ立ち向かうように意図しました。そこへ風が吹き、スカーフが片方の肩にすべった。スカートにも、どうやら言いたいことがあったらしい。ポーズではなく、好奇心から少しずつ回っていました。笑いながら。写真家、聴衆、または防御可能な理由は必要ありません。傷跡をまっすぐにし、刻まれた石を眺めながら少し軽く歩いた。幸いにも、ブーツは目指す。

> 「**予定を離れるのはちょっとしたターンです。**」

パーフェクトな日常的な夕べ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ・アルハンブラの夜景

グラナダの壁が輝き始めたとき、メアはパレードに立ち寄り、彼女の肩の周りのスカーフを描きました。今夜は何の準備もしていませんでした。見栄えのない、約束はなく、正確な時間を返すことはありません。黄金の塔を見ると、彼女は彼女がドレスを完全にチェックしなくなった日にどこかにいることを明らかにしました。身に着けているだけでした。しばらくの間、彼女は彼女の後ろの会話を聞きました。そこで、説明がなくても微笑みのある笑顔を笑顔にしました。

> **「明日は保存しない」**

ドレスは、もはや機会を待っていませんでした。朝は、スーツケースから取り出しました。

ノートブックに足を踏み入れるのは、好きなものも普通の日に値する。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第26話

レンズの反対側で

リビエラとモナコ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

モナコ、アンティブ、キャップフェラートとニース。今回は、普段は絵を撮る女性もその中に所属しています。

コロンビーヌのコレクションにはたくさんのビュー、たくさんの詳細、そして疑わしい少数の写真が含まれている。写真を見ながら、メアは気付きました。ル・チアは、まるでその言葉を待っていたように、間を置かずうなずいた。次回の停止は、新しい目的地を必要としません。役割の小さな変化だけ。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。これらは、一日の旅程ではなく、別の旅程と日を成し遂げることを阻止する。キャラクター、対話、衣服、活動、照明など、芸術的追加です。

わたしたちのそばにある場所



モナコ・港の上



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

コロンビーヌは、メアがル・チアの隣の空き空間を指摘したとき、すでにその景色を選んだ。「ほら、そこ」 コロンビーヌは、他の人がそこに立っていたかどうかを見るために彼女を後ろに見かけました。「あなた、」メアは明らかにしました。カメラは腰に残り、彼女の顔は、アミューズメン

トと不確実性の好奇心旺盛な混合物を浴びて、他の人の笑顔を描くために予約しました。ル・チアは一歩足を踏み入れました。背後にある港は、数十隻の船の客室でした。確かに、彼らは1つの友人のための部屋を見つけることができました。

> 「**わたしたちは見守っています。私たちはまだあなたを欠かせません。**」

真剣に立ち向かわない





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

アンティーブ・石造りの壁によって

アンティーブの石垣では、最終的にはロールが変更されました。メアはカメラを構えた。コロンビーヌがあまりに一生懸命「自然な顔」をするものだから、ル・チアは笑いをこらえた。「自分の手で何をすべきか」 コロンビーヌさんにお願いしました。「誰が彼らを監視しないとき、彼らは何をするのか」メアは言いました。ポケットに手が入った。肩が下がります。ル・チアは、もはや自分自身を含まなかった、そして、それはメアがシャッターを押したときだった。最初の写真は少し刻まれていました。コロンビーヌは、それを保ちたいと望んでいた。

> 「**今日は、手を直さない**」

石の顔





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

フェラ岬・刻まれた救済のそば

キャップフェラートでは、コロンビーヌはついに完璧な静粛のモデルを発見しました。石の救済の顔。自分の表情を試しました。距離の目が若干高く、不要な感情はありません。ル・チアは、約1秒続く。メアはカメラを下げたので、笑いながらフレームを安定させることができなかった。ストーンフェイスは、問題が悪化するだけだった唯一の豆を残しました。「すべて右」コロンビーヌは「専門家にこの職業を残す」と降伏しました。次の写真では行わなかった。

> **「石が石に面したままにしましょう」**

この1つの滞在





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ニース・海のベンチ

ニースでは、横に座って写真を見つめ始めた。ル・チアはもう一つはぼやけて、別の話で話していましたが、第3のコロンビーヌでは、正しい表現を全く整理しませんでした。その1つで、すべてのパワッとした。「削除しない」とコロンビーヌは言いました。メアはカメラの上に彼女を見ました。「そのつもりはなかったよ」 海壁を越えて、海に静かに水が移り、海と奥へ。小さな画面では、誰かが彼女の写真を撮っていたことを簡単に忘れていた友人でした。

> **「俺は、わたしです。それを守ろう」**

最高の写真では、コロンビーヌは試してみるのを止めていました。

しばらくの間、メアの手元に滞在したカメラ。コロンビーヌは、それを返すために急いでいませんでした。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第27話

ポケットいっぱいの日曜日

スロバキア・Mea Zen

トルナヴァ、シュティヴェニカ・ヒルサイド、タトラ・フットヒルズ、ブラチスラヴァ。メアは、エランズのリストに収まることを拒む瞬間を収集します。

コートポケットに、メアは紙の折りたたたたたみを発見しました。古くから受け継がれてきたもののリストをまとめました。しばらく前に終了していた人もいます。他の人のために、彼女はもはや緊急事態を覚えていない可能性がありました。紙をブランク側に変えました。少しの旅に適していたのがいいですね。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。これらは、一日の旅程ではなく、別の旅程と日を成し遂げることを阻止する。キャラクター、対話、衣服、活動、照明など、芸術的追加です。

空白の側面



トルナヴァ・黄色のファサードの前に



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

トルナヴァの舗装石では、地図だったかのように、メアは紙を折りました。ではなかった。この午後の形状を決定しなければならなかったので、最も有用な品質だったリストでした。黄色のファサードの前にパユースし、どこに行ってきたのかを知った人たちに知らせる。それから彼女は空

白の側を外側に折り畳み、それを置きました。散歩に小さな仕事を続けた: 彼女がそうでなければ、まっすぐな過去を歩く何かに気づく。

> 「**この辺には、まだ何もない**」

ヒル・カン・ウェイト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

バンスカ・シュティヴェニカ · 丘の上を下る広い道に

シュティヴェニカの近く、淡い道はまっすぐな上り坂を導きました。距離から、とても簡潔な計画のように見えます。しかしながら、メアは、草の色、丘のライン、そして風に自信を持って髪を追い戻すために、彼女の時間を要するいくつかの理由を発見しました。ポケットに手をつないで止まった。丘の上は、どこにも行っていません。ここから持ち帰るのがこの眺めだけだったとしても、来たときより持ちものは増えている。

> 「**お散歩に所属する**」

フィニッシュラインのないビュー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ハイ・タトラ山地 · フットヒルズからの眺め

タトラは森のバンドの上に現れたので、メアは彼女のノートブックを開くために忘れたことを明らかにしました。彼女のコートに包まれ、彼女は麓のベンチに座って、暗い木の上に白いラインを見ました。登りは計画されていませんでした。今日は、山が景色の中でどのように収まるかを見て、まだそれを完全に満たすのに十分でした。ノートブックは、彼女のラップに滞在しました。指を閉じた表紙に沿って動かし、その日を過ぎてもらったことを知らせる。

> **「今日は、山々を眺めるだけでは良い」**

月曜日が少し





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ・橋のピロンの下

ブラチスラヴァの橋の下にあるメアは、かつてこの街が何時だったのかを正確に知ったと感じました。トラム、足踏み車、遠い車は、自分のペースを持たせました。しかし、彼女のポケットでは、Trnavaの光、Stiavnicaの風とタトラの静けさを運んだ。紙の部分もありました。その後、自宅で、空白の側に1つの文を書いています。何かを行わずに出て行くことは可能でしょう。それから彼女はペンを置き、茶を作った。日曜日は、月曜日が過ぎて、日曜日が少し残っていた。

> 「ポケットに泊まる」

同じ紙は、まだ彼女のポケットにありました。指示を与えなくなりました。

毎週日曜日はカレンダーにきちんと収まるわけではありません。月曜日は少し保存できます。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第28話

切符のいらない小さな演奏会

オランダ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

アムステルダム運河、ミッドデルブルグとザンドヴォルトの海に2つの停留所。トリオは、プリントプログラムなしで旅行コンサートを組み立てます。

ル・チアは、写真に見えないオランダから何かをもたらすことを提案しました。コロンビーヌは疑わしい見かけました。「もうひとつのマグカップをつけると、部屋が残らない」 メアは笑いました。ル・チアは、通りに向かって頭を傾けました。鐘の鳴き声が響く瞬間。曲紹介もないまま、一曲目が始まった。

オリジナルのTravel2Cityの写真をモチーフにした、想像力のあるストーリー。これらは、一日の旅程ではなく、別の旅程と日を成し遂げることを阻止する。キャラクター、対話、衣服、活動、照明など、芸術的追加です。

オープニングリング





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

アムステルダム・運河や駐車自転車の横に

アムステルダム運河のそばにある自転車の鐘が鳴ります。歩行者側に滞在したトリオは、ほぼ一緒に頭を回しました。「開口部のテーマ」コロンビーヌ観察。メアはスカーフを押さえ、ル・チアは水辺を指した。水が小舟の横腹をやわらかくたたく音が、ちいさな響きに加わった。普通の通り

は、一枚の写真よりも、突然レイヤーを持たせました。しばらくは何も言わなかった。その後、コロンビーヌは、非常に静かに、作曲家があまりにも一時停止で明らかに信じていると付け加えました。

> 「**シングルリングで始まりました。**」

リズムアンダーフット





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ・レンガ通り

Middelburgでは、運河のそばに、舗装の足跡が異なる音を鳴らしました。メアは屋根を見上げる, ル・チアは、ストリートに耳を傾け、コロンビーヌは彼女のクローズドスケッチブックに対して1本の指をタップし始めました。最初は静かに。友達同士が聞き取れるのに、目覚めに十分です。「これでリズム隊がそろったね」とメアが言った。コロンビーヌはまじめな顔でうなずくと、とたんに拍子を外した。作品の一番の部分でした。通りはまだ続き、三人も歩き続けた。次の見どころを見逃さないよう、さっきより少しゆっくりと。

> 「**私たちはバーをカウントしません。またはステップ**」

サイレンスのためのソロ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ・イルカの宿

ル・チアは、暗いドアウェイの上に石のイルカを発見しました。指を上げて3つすべて止まった。「この人は確かに歌うだろう」とメアは言いました。厳密な重さで、コロンビーヌは、アーティストを邪魔してはならないと伝えました。イルカは静かに残っています。これまでのところ、その日の最も信頼できるパフォーマーでした。ル・チアは、その石のプロファイルで笑顔になり、彼らはそれを簡単に、完全な沈黙を与えました。拍手もなしに、三人はまた歩き出した。戸口はふさがず、イルカはもとの場所に。

> 「**Quiet, Please. イルカはソロを持っています。**」

私たちは、エンコアのために滞在しています





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ザントフォールト・海辺の砂の上に

Zandvoortでは、プログラムは最終的に都市の親友になるために終わることを止めました。海が音楽を引き受け、そよ風が布のさらさらいう音を添えた。コロンビーヌは砂に靴の中まで押しかけられないよう、靴を片手に提げていた。乾燥砂に立って、毎回少し違った波に耳を傾けました。「もう一つ」とメアは提案した。ル・チアはうなずいた。コロンビーヌは、次のアプローチの波を見ました。「インコアが問題になるとは思えない」 そこで、彼らは滞在しました。

> **「もうひとつの波が出て、決める」**

このコンサートのチケットはなかった。しかし、海が座っていた場所を思い出しました。

ノートに4ヶ所と白の空間が残っています。線の間は少しサーフする部屋がいつもあります。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第29話

一色だけじゃ足りない

ポルトガル・Mea Zen

リスボン、コインブラ、ギマレス、ポルト。メアは、旅を思い出させるために一つの色を探し、ポルトガルは素晴らしく困難を選ぶようにします。

メアは、彼女のノートブックの最初のページに小さな空の正方形を残しました。その後、彼女はポルトガルの彼女を思い出させるために一つの色を与えるだろう。ちょうど1。3つの鉛筆だけを詰めた人にとっては、気持ちよく簡単な作業でした。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

青は鉛を取ります





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

リスボン・アーチ間の空

リスボンの石のアーチの下に、メアは屋根を検索し、簡単に停止しました。代わりに空を見つけた。以前のエッジの青は、あらかじめスペースを測定していたため、塗りつぶしします。彼女はスカーフを押さえ、うれしそうにうなずいた。青、それから。タスクは始まったばかりの頃に終了したようです。それでも、ノートブックに何も描かなかった。もう1つ見栄えをしました。

> **「ここを自宅で撮れる」**

同じ、しかし別の





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

コインブラ・白いタイルの青

コイムブラでは、青色が再び現れ、今度は白のタイルに。より細かく、より正確で、少しカールがいっぱいでした。メアは、装飾全体を見るために脇を踏み入れました。空は、これらのようなカールを着用していないと確信しました。多分彼女は2つの正方形を必要とします。腰に閉じた手帳を握り、これもルールへの最初の変更ではありませんでした。意外な可能性を秘めた色を1つ選び抜いた。

> 「**ブルーは明らかにいくつかのバージョンで来ています。**」

グリーンは、そのケースを作る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ギマランイス · 通りの上の庭

ギマレスのオープンウィンドウの下に、メアは植物のために止まった。鍋と柵の間を絞ることができるほど緑色の狭いバルコニーが保持されます。彼女は彼女の耳の後ろに髪のストランドを叩き、より高い見ました。葉が異なる色合いでした。1つの緑色は、彼らに正義をすることはほとんどありません。笑い声で笑う。色を選ばせようとしていたし、ノートブックの場所に置いているだけだった。

> 「**すべて、あなたも一緒に来ることができる**」

一緒に滞在しよう





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポルト・川を渡る色

ポルトの川のそばに、メアはノートブックを開いた。淡い壁、色とりどりの正面と、水に囲まれたダークな屋根は、それらを少し混ぜました。四角に青い線を置き、その上に緑の1つを置き、それからカッコの接触。答えよりも最初のように見えます。もはや気にしない。ノートブックを閉じると、小さめの不一致企業を握った。まさに家を連れてみたいと思っていた人。

> 「**あなたがたは、あなたがたのうちのすべてに、あなたがたを少しずつ動かす。**」

スクエアは小さいまま。ポルトガルは、単一の色に収まることを拒否しました。

結局、メアは次のページも少し色付けしました。ノートブックは、異議を提起しませんでした。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第30話

笑顔は隠せない

イタリア・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガーダ。1枚のマスクは手から手へ渡しますが、笑顔は完全に回復できるままです。

コロンビーヌは、ヴェネツィアで神秘的なものであることを意図したと発表しました。決断を支えるためには、小さなクリームとゴールドのマスクを手に入れました。メアは、彼女の非常に深刻な外観を提供しました。ル・チアは、コロンビーヌが顔に上げていた前に笑い始めた。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

誰ができるか?



ヴェネツィア・運河の横にある謎



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

マスクはコロンビーヌの目を覆いながら、笑顔を完全に放つ。メアは誇張集中力で彼女を勉強しました。「難しいケース」と彼女は言いました。ル・チアは、馴染みのある髪、心身の毛、神秘的な女性が立ち寄る方法を指摘しました。コロンビーヌは少しの協力を求めました。銀行のそばにゴンドラがシフトした。それだけでは、その秘密を保ちながらも、まっすぐな顔を保ちました。

> 「**笑顔で判断して、もう一つは推測しています。**」

グラン・エントランス





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

フィレンツェ・店の日除の下

フィレンツェでは、マスクを運ぶメアがいました。コロンビーヌは、両方の手が必要で、真の壮大な人がどのように歩いているのかを説明しました。店の窓を点検しないで、より少し高く、測定されたステップ。次の店まで続く。ル・チアは、彼女が自分のルールを忘れた正確な瞬間に彼女の目を引きました。ぬれた舗装で点滅するライト。メアはマスクを下げ、この値に値する笑顔を隠すことはできませんでした。

> 「**お待たせできます。その窓はお立ち寄りできません。**」

深刻な競争





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ローマ・Pantheon カラムの前に

パンテオンの前に、コロンビーヌは、さらに大使の講義を行わないことにしました。競争が強すぎる。メアは、ル・チアがノートブックの前でマスクを置いた間、柱を見上げた。しばらくの間、すべてが3つ見つかりました。その後、コロンビーヌは、彼女は姿勢に関するこの建物のアドバイスをすることを躊躇することを観察しました。メアは笑いました。ル・チアはうなずいて、仮面を返した。一日に十分な作業をしました。

> 「**このコンテストに出場しないと、ストレートの肩が入らない**」

私たちは、とにかくあなたを知っています





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ガーダ・公演終了後

ガーダでは、コロンビーヌのバッグから作られたマスクのゴールドエッジだけ。メアは木製の柵に立ち寄り、ル・チアは彼女のノートブックを閉じました。それらの前に湖は、パンチラインを必要としません。コロンビーヌは「私は少なくとも少し神秘的だったのか」と尋ねました。メアは彼女を見ました。「あなたがしゃべり始めるまではね」 ル・チアは笑いに加わり、最終的にはコロンビーヌもやった。マスクは置かれます。こういった見解のない風景が欲しかった。

> 「後ろからあなたを認める」

袋の中に入ったマスク。笑いは外にとどまります。

コロンビーヌは別の機会のためにそれを維持しました。二人とも、自分が管理できたら、彼女を認識しないように約束しました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第31話

海に出なかった舟

クロアチア・Mea Zen

キャプタット、ストン、マカルスカ、プリモシェテン。メアは、乾燥した土地で優れた会社であることが判明紙のボートを折ります。

メアは、古い紙のきれいな側面にノートを書くことを意図しました。代わりに、彼女は半分にそれを折りたんだ、そして再び、そして最終的にそれを指した弓を与えました。船のすぐそばに、船を漕ぐ。小さい頃から、少しずつ作っていて、全く計画がなかった。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

サウジアラビアへ行かない準備





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

キャビタット・自分の手で小さなクルー

キャプタットの港で、メアはボートを実際のものと比較しました。それはより簡単な船員、より少ない装置およびロープを持っていません。彼女の手には快適に置かれてしまいました。しばらくの間、彼女はそれを保持し、それが横にあるかもしれない容器を検討しました。そこで、笑顔で、どこまでも残した。ドライセーリングは紙を適しました。実際の船は、小さな決断にコメントする必要はありませんので、静かに揺れました。

> **「今日は、わたしたちの手のもとで救われます」**

紙の訪問者





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ストン・港タワーのそば

Stonでは、メアの前に丸い石の塔が現れました。小さな玄関口、丈夫な壁や、たくさんの観光客を眺めていた人の空気がありました。メアは、その紹介のように、彼女の手にボートを持ち上げました。四重の横に待たれた本物の船。紙は、その横に非常に控えめな荷物のように見えます。笑顔で、乾燥した土地を旅していきましょう。こういったような港で、しばらく滞在してみると十分でした。

> 「**こんな小さなお客さんのためのお部屋がある**」

最少の灯台





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

マカルスカ・虹彩の横に止まる

マカルスカの近くで、メアは淡い石の中で紫色の花に気付いた。船を手帳に置いてから少しずつ座り、船を置きます。海は広々で、花の小さな小さな海でしたが、彼らはかなり彼女の注意を分かれました。小さな船にはこんな灯台が足りない。彼女が見つけた場所を正確に成長させてしまった。1本の指で紙の船を握り、青の水を観察し、地平線に進みます。

> 「**その所属する灯台を離れる**」

に戻る場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

プリモシェテン・ページ間の調和

プリモシェテンの前に、紙は少し疲れを見せるために始まりました。メアは、その側面を穏やかに押し、ノートブックのページの間にそれを滑ります。彼女は弓を突き出たまま、彼女は後でそれを見つけることができる。遠くから、水辺の町は、小さな船のどこかに見えます。ですが、今日は別のアドレスを受け取りました。メアは、彼女のショルダーバッグを調節し、歩く。小さなお供も静かについてきた。切符も持たずに。

> 「**あなたの港がここに来る**」

船は、船が船を航行したことがない。それも、メアで海岸のフェアストレッチを旅しました。

ノートブックの中には小さな紙の港が残っています。次回は開いて、弓が再び持ち上げた。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第32話

五分間だけ、わが家

モンテネグロ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ブドヴァ、セチネ、バイオグラデスコ湖、リジェカ・クリノヘビッチャ。トリオはキーを必要としない家を選びます。

3つのオープンウィンドウで始まりました。メアは1つ、ル・チアの別のものを選びました。そして、コロンビーヌはすぐにお茶がどこで作られるかを知りたかったのです。すぐに、彼らは決して入らなかったフラット家具だった。旅先では、驚くほどすんなり意見がまとまることもある。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

動かずに選択する





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ブドヴァ・各ウィンドウ

ブドヴァの石造りの正面の下、コロンビーヌは開いているシャッターを指しました。「テーブルはそこに行くだろう」 メアは、光のために隣接する窓を選び、彼女は言った。ル・チアは、もう少し見なければならないので、最も高いものを求めました。通りに3つあり、家具付きの客室は既にお気をつけています。その後、洗濯は、上記のどこかで錆びました。洗濯室は、その想像力が平らに見えました。コロンビーヌは、長期滞在に役立つことを認めた。

> **「窓を取りましょう。眺めてみるといいでしょう」**

茶室あり





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

セティネ・訪問者のための庭園

チェティネジェでは、家が庭を手に入れたという想いが生まれました。コロンビーヌは、白いファサードに向かって手を開いたし、ちょうど2人の訪問者を歓迎しました。メアは上品に、そっと会釈した。ル・チアは、彼らのホステスがまだティーポットを発見したかどうか尋ねました。彼女は持っていなかった。実際にテーブルを持っていなかった。いずれも5分の訪問で問題ありません。陰影した道に立っていて、座る場所を少しずつ想像してみてください。

> **「次のバージョンにティーポットを追加」**

シートが待っていた





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

バイオグラデスコ湖・壁のないお部屋

湖のそばに、彼らは単一のドアを開くことなく座るためにどこかを発見しました。森が水の中に繰り返された間、横に落ち着きました。メアは彼女のラップで彼女の手を休む。コロンビーヌは快適に眠り、ル・チアはノートブックを閉じました。「居室」と静かに言った。全員が合意しました。しばらくの間、彼らは前に選ばれた窓のどれも逃しました。ここから見るとかなり十分でした。

> 「**家具を守ってほしい**」

並んだ三つの窓





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

リジェカ・クリノヘビッチャ・ノートブックのアドレス

静かな川のそばで、メアはノートブックを開け、3つの窓をスケッチした。戸数や通りをしてもらったこともない。コロンビーヌはすぐに、カップを入れる場所が必要であることに気付きました。ル・チアは少し大きな景色を望む。メアはそれぞれの行を移動し、結果を見せました。実際の建物に続いていない。立ち寄り、座り、笑いを楽しんだすべての場所に属しています。5分間は、とても良い家でした。

> 「**アドレスを開いたままにする**」

シェアハウスはなかった。今のところ、ノートの3つの窓はかなり十分でした。

次回の停止では、別のビューを選ぶかもしれません。同じテーブルの周りの場所は、既に合意されています。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第33話

帽子には帽子の行き先がある

オランダ・Mea Zen

アムステルダム、ミッドデルブルク、ザンドヴォルトのビーチ。メアは彼女の旅行に帽子をとり、徐々に別の旅行仲間を発見します:風。

メアがパッキングしていた間に茶色の帽子は完全に目に見えるように見えました。バッグにマッチし、形状を保ち、質問をしません。荷物の上に置いておくと、旅の1つがクリアなプランだったことを嬉しく思います。その印象は、最初の適切なガストまで続く。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

そういう約束だったよね





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム・赤い扉の横にある合意

アムステルダムの赤いドアの横に、メアは縁を調節しました。帽子は、彼女が想像していたように正確に座っています:少し前方、少し自信を持って。窓の向こうに笑顔を浴びて、内容的に設定した。その後、通りの上の葉がかき混ぜた。帽子は控えめに傾いた。メアは一本の指でそれを返したが、今は文句を言わなかった。旅の仲間は、少しずつ落ち着きに値します。

> 「そこに滞在してみると、探してみる」

タワーは壊れなかった。





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ミデルブルフ・縁の下のビュー

ミディデルブルクでは、メアはタワーの頂上を見たいと思った。帽子は、最初に自分の内側の縁のビューを提供しました。彼女はそれを持ち上げ、再び調べました。レンガワーク、背の高い窓、屋根、もう少し空。よくなる。次回は、彼女の指の両端をすでに持っていた。華やかな、エレガントなジェスチャーのように見えます。メアは、彼女がイベントのそのバージョンを受け入れることを完全に喜んでいたことを決めた。

> **「もう少し高かったです。タワーを見たい」**

エレガントなパートナーシップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム・義務の1つの手

彼らが任務を分けた運河の横にある。目は水を渡る家を、彼女の足は道に続いて、帽子に出席した1つの手に従った。メアは、以下の赤の寓話に笑顔で笑顔にしました。ノートブックを開けるのに、メモをつけたいけれど、フリーハンドが足りない。バッグに入れた。最後に、新しいアクセサリーの利点:時々それは彼女のノートを服用し、彼女を単に見てみましょう停止しました。

> **「今日は絵を描くのに十分な手がない」**

パーティで新しい場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ザントフォールト・彼女の腕に旅する

Zandvoortのビーチでは、メアは交渉を中止しました。帽子を脱いで、両手で彼女に会った。髪の毛は自由で、とても見栄えがありました。毎回頭の上部を点検することなく、砂の上に歩くと楽に感じました。茶色の縁を振り下ろして笑いをした。帽子はついに美しくふるまいしました。パーティでは、異なるポジションしか必要とされていました。

> **「すべて、その道の残りの部分に運ばれます」**

旅の終わりまでに、帽子はまだ服に属しています。単純に動いた。

メアは荷物の一番上にその場所を保存しました。小さな意見を持たせるために、良い会社が罰すべきではありません。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第34話

一度かぎりのルール

スロバキア・メア、コロンビーヌ、ル・チア

トルナバとブラチスラヴァ。コロンビーヌは、余暇なアウトイングのためのルールを提案します。メアとル・チアは、例外が必要な理由を徐々に実証します。

コロンビーヌは、ノートブックを非日常の正式な表現で開いた。実際にどこかに持って行くように、彼女は3つの簡単なルールを提案しました。すべての細部で指摘し、すべてのコーナーで図面を探しず、時計を見ていない。メアは、特に最後の1つを承認しました。ル・チアはペンシルを準備しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

提案されたアジェンダ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

トルナヴァ・タワーの下の会議

トルナバの歩行者通りに、コロンビーヌは指を上げ、アイテム1で始まりました。メアは、窓の反対が彼女の興味をキャッチしていたが、気配りを見ました。ル・チアは、長い人生を規制しないと約束した笑顔で耳を傾けました。コロンビーヌが読書を終わらせたとき、タワーに立ち向かうと、

移動時間だったか確認する。メアは沈黙の中で眉毛を上げました。ルール3は、投票前にトラブルにあった。

> 「**時計のルールでタワーがカウントされるの?**」

最初の例外





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ブラチスラヴァ・細部は優先します

ブラチスラヴァでは、メアはルールを覚える前に手を上げました。建物の反対側の装飾は、この角度からかなり異なっています。「これだけは、」と説明した。コロンビーヌは指の指を指で見、そして建物で、そして最終的に彼女自身の頭を傾けました。ル・チアが笑顔に。例外は共有停止になりました。ノートブックは閉館しました。プログラムの小さな変更は、ほとんど必要とされていません。

> 「**これはカウントされません。気づく必要があります。**」

第2の例外





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ブラチスラヴァ・ペンシルは合意の先を行く

ル・チアは、白い玄関口のそばに、ノートブックを借りました。1行だけ、彼女は言った。しかし、ドアの上の曲線は続けられ、もう一方の形状は横に待たせました。コロンビーヌ は彼女の肩を上回りました。「それ、少なくとも三つあるよ」 ル・チアは落ち着いてうなずき、小さなアーチを描き終えた。メアは、コントロールの下で笑顔を維持しようとしました。ルール2は、かなり素敵な絵を描くように回っていたし、誰もそれを救助したいと思いませんでした。

> **「1行目が続行しているとき」**

ルールなしで合格





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ブラチスラヴァ・ダヌブの横にある分

ドナウブのそばに、メアがノートブックを開いた。デッサンの下は3つの短いラインを、寛大な修正のための準備が整いました置きます。コロンビーヌは、規制が未成年の欠陥を持っていたことを認めた。ル・チアは、次の外出前にテストすることを提案しました。メアは、最後のアイテムと二人の友人を笑いました。銀行の横にある船は、急いでいるようです。しばらくの間、その例を4つのルールに変えずに追った。

> 「**ルールはキャンセルされました。廃止が続きます。**」

3つのルールは、すべてのアウトアウトを終わらなかった。それがなくても、旅はまったく困らず続いた。

ページの一番下にあるのは、たった一つだけ追加しました。そのうちの1つが止まると、もうしばらく待っています。修正せずに受け継がれた提案。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第35話

うれしくて、ひとステップ

コート・ダジュール · Mea Zen

サンポール・デ・ヴァンス、サン・トロペス、ハイレス、キャップ・フェラート。メアは、肩とスカートとありふれた一日を、思わず踊らせたくなる小さなきっかけを見つける。

メアは旅の振り返りを一切行わなかった。歩いて、いくつかの場所を見て、おそらく何かを書き留めることを意味しました。その後、彼女は猫に会い、日光のパッチを渡し、彼女の手順は一日中同じに見える必要はありません実現しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ウォームアップ、猫スタイル





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス · ステージの恐れのない猫

灰色の猫は石造りのドアステップに座って、それについて何も改善を必要としないことを完全に確信しました。メアはしばらく待ってから、彼女の肩をリラックスさせました。小さなストレッチに1本の腕がバラをつけます。猫が動かなかった。座るという単純な行為のそのような自信は、尊重する値します。メアは笑顔で、たくさんのスペースを与え、もっと軽く歩

いていました。最初のレッスンは無料で、シングルのミーウではなく必要でした。

> 「**明らかに、あなたはまったくウォームアップする必要はありません。**」

日光はキューをGave





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

サントロペ・日陰の一歩

聖トロペのアーチの下には、通路が日陰から光に変わります。メアは境界を越え、別のまっすぐなステップの代わりに、少しターンをしました。ひと呼吸おくれて、スカートの裾も揺れた。自分自身の小さな勇気の行動によって使用し、周りをこぼして見ました。何も起こらない。アーチはアーチ、正方形の正方形を残しました。旅程だけは、もっと楽しくなっていました。

> 「**この計画では、そのステップはなかった。私たちはそれを続けなさい**」

1つのステップ サイドウェイ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ハイレレス · 砂のリズム

ハイレスの近くのビーチでは、メアはたくさんの部屋を持っていた。一歩一歩先を踏み入れれば、もう片側へ。サンドは、彼女のノートブックよりも忠実に記録しました。腕をほんの少しだけ広げ、スカートの揺れるままにした。パフォーマンスもなかったり、グランドダンスの始まりもなかった。自分の体が少し喜びについて知っていたちょうど短い瞬間に、彼女はそれの名前を見つけました。

> 「**砂は少しずつ記憶する**」

拍手のないひと幕





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

フェラ岬・眺めの小さな弓

海の上にあるテラスでは、メアはクールな壁に片手を休ませました。もう片方を胸もとに添え、目の前の景色に向かって、うなずきと見分けがつかないほど小さなお辞儀をした。松の木々は、何も言わずにそれを受け入れた。湾が輝く中、彼女はもはや無事に感じられなかった。おそらく、ただ、楽しい気分にしました。彼女のノートブックは、彼女のバッグに滞在しました。どこかでこの瞬間を救った。

> **「ありがとうございます。それは、全公演でした」**

ノートにダンスがなかった。当日に1枚追加。

帰り道には、メアはもう1回をしました。今回は理由を探しませんでした。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第36話

真顔でなんていられない

スペイン・メア、コロンビーヌ、ル・チア

バルセロナ、サラゴサ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ、マヨルカ。3人の友人はまっすぐな顔を保つように試みます;競争にひれ、羽毛および驚くほどよいスタミナがあります。

「笑うことなく5分」コロンビーヌが提案しました。時計が始まったら、メアは尋ねました。ル・チアは、笑顔が許されたかどうかを知りたいと思った。これら2つの質問は、かなりの組織的課題を示唆しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ストレートフェイスチャンピオン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

バルセロナ・ガラスの背後にある専門家

水族館のガラスの裏側には、3つの好奇心のある訪問者が変容する表情で渡るサメ。コロンビーヌはそれを集中のモデルと宣言しました。メアは、彼女の唇を一緒に押しました。ル・チアは、彼女の横と複雑なすべてで一目見えます。友達同士の見晴らしさは、モデルを先取りして、その先を先取りします。魚は、その回路を継続しました。新しくスタートしたトリオが合意した時、サメは静かに動きました。

> **「まあ、わたしたちは、私たちが持っているよりも長く練習してきた」**

ウォーキングテスト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

サラゴサ・動きのディグニティ

Zaragozaでは、歩きやすくなると決めました。誰もが直進して見えます。横方向の輝きはありません。コロンビーヌは肩をまっすぐにし、メアが一度に気付いたことを徹底的に理解しました。ル・チアは口に手を上げました。「咳だけ」と説明しました。メアは店の窓に数秒の獲得を回しました。その反射では、彼女は両方の友人を見ることができます。その戦略は、同様に成功しなかったことを証明しました。

> 「**先に見てみる。そして、そこまで歩いて行くのを止めてください。**」

チャレンジャーが到着





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea · Colombine · Lu Cia

サンティアゴ・デ・コンポステーラ · 未登録の出場者

石の噴水の横に着陸したハト。2つのステップをとり、止まり、説得力のある真剣さでそれらを見なしました。コロンビーヌは、感謝の気持ちを込めた。「その他プロ」 メアは、彼女の笑顔を片手で覆いました, ル・チアは、存在感さえ放棄しながら、. 結果をチェックするとピジョンが頭を傾けました。その後、証明書や複雑なルールに関心を持たずに歩いていました。

> 「**この人は、入らないし、勝てる**」

誰も無資格





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

マヨルカ島・パラソルの下にある結果

マヨルカの傘の下で、彼らはついに競争力のない野心に座った。メアは笑い、ル・チアも笑い、コロンビーヌは5分間が不必要に高い目標だったと認めた。誰もまた始まりました。海の騒音がたっぷりで、少し笑いが自分のベンチにふさわしい。しばらく静かに落ちた時、笑顔は残っています。結果は3つすべてに決定しました。

> 「**全ての権利。私たちは、異なるイベントで勝ちます。**」

コンテストの優勝は無かったです。旅は3人で幸せでした。

コロンビーヌがリマッチを提案しました。メアとル・チアは、他の時間もそれを保持するために正式に投票しました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第37話

王冠は家でお留守番

ベルギー・Mea Zen

ゲント、ブルージュ、ルーベン、ベルギーの海岸。メアは、王宮の尊厳が普通の外出がどれだけ保持できるかを発見しました。

ジェントの城の前で、メアは彼女を後ろにまっすぐしました。石塔は、実際にそれを招待しました。王冠、奨励なし、注文を発行する理由はありません。歩きやすい靴に、お気に入りのワンピース。それに、何の予定もない午後があった。小さな私立の冠状のために、彼女はそうするだろうと思った。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

彼女の 女神 行く 歩く





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ゲント・ストーンタワーの下に

メアは彼女のチンを少し上げました:儀式を感じるのに十分ですが、舗装のバンプを逃すのに十分ではありません。タワーは平凡のままで、そのようにアイビーをしました。有望な始まり。彼女のバッグストラップに片手で、彼女は彼女の一時的な王国を調査した。好奇心、快適な散歩と笑顔のお部屋がありました。そのため、最初の法令はかなり短くてもよいです。

> 「**今日は誰も急いでいません。特に私**」

ランタンの聴衆





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブルージュ・裁判所のない路地

ブルージュのアーチの下で、メアは胸に手を当て、軽くうなずいた。客席は、路地の端に灯籠、石垣、光から成り立っています。誰が言おうと、彼女にふさわしいスピーチを期待しない。足を踏み出すとスカートが揺れた。セレモニーは、ほんの二秒足らずだった。それからまた歩き出した。何か特別な日でなくても、ちょっといい思いをしていい。そう自分に許すのがこんなに簡単だなんて、とおかしくなった。

> 「**お寄せいただきありがとうございます。今日のスピーチをスキップします。**」

指図をしない時計





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ルーヴェン・公式タイムキーパー

ルーベンでは、大時計の顔を見上げる。女王様が遅くなる可能性があるか迷った瞬間のために。時計は協同の印を提供していません。メアは彼女の腕を折り、眉毛を上げました。明らかに、王冠のないルーリングは一定の制限を伴って来た。それでも、次の10分の使用方法を選ぶことができます。正面を眺めながら、滞在してみることにしました。

> **「すべて正しい。ペースを保ち、鉱山を守ろう」**

最後は、適切な住宅





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ベルギーの海岸・浜の小屋の横にある骨

海岸では、彼女は最も快適な住居を見つけました。キャンバスのデッキチェアは、ライオンや金色のバックレストが刻まれていないが、座って良かった。メアは、彼女の足を砂に植えて、彼女の肩をリラックスさせました。白い浜辺の小屋が列をなし、風は黄色い風よけを押していた。海だけは儀礼など気にせず、いつもの海だった。このアレンジを承諾しました。最後に、誰も彼女の儀式を見て期待していなかった。

> 「**これを維持します。必要な王冠の宝石はありません。**」

王冠は家で滞在しました。荷物のお預かりに良い感じです。

次回は、彼女に決めました。彼女は熱心をもたらすかもしれません。コーヒーを見つける場所を知り、デッキチェアから逃げる場所はわからない。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第38話

切符のいらない劇場

イタリア・メア、コロンビーヌ、ル・チア

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガルダ湖。私たちのトライオは、景色を発見し、役割を分かち合い、非常に同じように繰り返されることはありませんパフォーマンスを与えます。

ベネチアレーンでは、コロンビーヌは、景色を準備し、女優が提示することを宣言しました。彼らが欠けているのはスクリプトでした。メアは疑わしい; ル・チアは喜んで見ました。彼らは短いパフォーマンスで合意しました, 明らかにし、説得力のある義務なし。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

部品を鋳造





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ヴェネツィア・舞台としてのショップフロント

店内のマスクは、コロンビーヌがディレクターのようにヤシを開いた。メアは神秘的な旅行者を割り当てられました。ル・チアは光を浴びて、すぐに笑顔にしました。「見たい?彼女は既に始まりました」とメアは観察しました。画面にマスクが残っています。自分の顔がかなり十分で、店は3つの新しい顧客をすべてのアイテムにしようとする必要はありませんでした。

> **「スクリプトがない。顔の表情をしている」**

ラインのない部分





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

フィレンツェ・石の同僚

フィレンツェでは、低い壁の上に石の鳥を発見しました。ル・チアは、その前に立っていた、彼女の手を折り、その唯一の式を採用しました。部分は優秀な労働条件を提供しました:記憶するライン無し。メアは彼女の濃度を認めた, コロンビーヌは、次の行為でそれを使用して考慮しながら、. ル・チアは数秒で持続しました。その後、彼女の口の角は、生きている女優はまだ彼女の鋳造についての意見を持っていたことを明らかにした。

> 「**この部分は私に合っています。少し笑顔になるかもしれませんが、?**」

壮大なスピーチ、小さなステップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ローマ・それらの上にアーチ

ローマのアーチの前に、メアのターンでした。手のひらを上向きにし、息を吐き出しました。コロンビーヌとル・チアは素晴らしいラインを待っていた。「座ってみるべきだと思う」とメアが発表した。一時停止は正確で、式を説得し、両方のリスナーはすぐに仕事を理解しました。コロンビーヌは、経済的に行動するという。ル・チアは、キャラクターのモチベーションが非常に明確であることを合意しました。

> 「**ひとつの文章で、全文を演じる。才能ある**」

Applauseは任意です





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ガルダ湖・シートカーテンコール

湖のそばにベンチが現れました。背後にある景色は、何も追加する必要がなかったので、とても良かったです。それぞれが異なるペースを選択していたため、すべての3人が少し座った弓を試み、すぐに笑った。聴衆はそれらを修正しませんでした。コロンビーヌはノートを閉じ、ル・チアはゆったりともたれ、メアは満足そうにスカートを整えた。パフォーマンスは、最高のスピーチが意図していた場所を正確に終了しました。

> 「**ありがとう。インターバルの後にエンコアが続きます。**」

チケットは販売しておりません。3人全員がメモリを持ち帰りました。

リードを演じた人は、全員に一度に答えました。その後、キャスト全体が同じサイズの文字でクレジットされるべきだと合意した。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第39話

手元に残す手紙

ポルトガル・Mea Zen

オビドス、ケルズ、ポルト、ギンチョ。メアは宛名のない手紙を書き始め、誰のために残したいのかを少しずつ見つけていく。

バッグに紙のきれいなシートが見つかりました。ショッピングリストではなく、次の転送に関する注意を払ってください。本当に空のページです。メアは、彼女が旅が好きだった何かを書き留めることにしました。しかし、彼女は最初の文の前に少し待っていた。こんな感じで音がしたいと思った。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

手紙が始まる方法





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

オビドス・ゲート横のブランクページ

オスビドースに白い壁に横たって、彼女は彼女の閉鎖したノートブックの上に紙を支えました。鉛筆は一瞬刻む。「あ...」と彼女は考えていましたが、名前は続いていません。門の後ろにダークサイプレスがバラをとり、雲の間を移した光。メアは完璧な挨拶を探すのを止めました。最初に、彼女の前にいたことを気付いたかった。今のところ、ページは1つの普通の印象のための部屋だけ必要です。

> **「綺麗に作らなくてはならず、鉱山だけ作らなければならない」**

言葉を使わずに





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

クエルツ・噴水の横にある文章

Queluzの庭では、彼女は噴水と宮殿の両方を見ることができる場所に座っています。紙に数少ない文章が現れました。顔に空気をかける。これらの靴がいかに快適に運ばれるかについて。ドレスを誰にでも説明したくないという思いから。ガイドブックやポストカードは言葉ではなく、。彼らを振り返ると、彼女は初めて自分の手書きで微笑んだ。

> 「**今日はここにあるのが好きです。そして、自分自身です。**」

普通の日のための部屋





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポルト・道路上の洗濯

ポルトではバルコニーを見上げる。シャツとシートは、古いタイルの上に吊り下げ、それぞれがわずかに異なる角度で。こういったのは、この宮として彼女の手紙に値するように思える。誰かが朝に窓を開け、洗濯をして一日を続けました。メアは、彼女の胸に紙を握った。いつも見栄えのない素敵な瞬間を思い出したい。通りを上回るだけで乾燥していることもあります。

> 「**これも守ってくれます。すべてがランドマークされるべきではありません。**」

手紙は、その方法を見つけます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ギンショ・受取人がすでにここにいます

銀座のビーチでは、紙を丁寧に折りたたんに折りました。もはやエンベロープに名前を逃さなかった。彼女は自分自身に書いていた:彼女の責任に戻り、おそらく彼女は今日呼吸していたどのように簡単に忘れてしまう女性。波は靴から離れてよく滞在し、風は髪のいくつかのストランドを持ち上げました。メアは、手紙を彼女の袋に入れました。配達は完了しましたり、郵便料金は丁度妥当でした。

> 「**私にとっては、あまりに急いでいる日は開いています。**」

手紙はスタンプを受け取りませんでした。メアが再び見つけた場所を受け取りました。

自宅の1日で開くと、正確なルートを覚える必要はありません。しばらくの間、彼女は自分自身のために時間を作っていることを知っているでしょう。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第40話

予約なしのピクニック

モンテネグロ・メア、コロンビーヌ、ル・チア

バイオグラデスコ湖、Rijeka Crnojevića、PerastとVelikaプラジェヤ。3人の友人、小さな布と、楽しくて幸せの控えめなアイデア。

コロンビーヌは袋から点検された布を取られた。ル・チアが何か食用を持たれたかどうかチェックしながら、メアは明るくなります。彼らは持っていました。残っているのは、適切なスポットを見つけることでした。それは3つの観察者と聞こえるよりも簡単です。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

3名様分のご予約





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

バイオグラデスコ湖・スポットを選ぶ

湖のそばに3つ止まった。メアは、海岸の静かなストレッチに向かって指摘しました, コロンビーヌは、折り畳まれた布を開催しました, そして、ル・チアは、より多くの条項を数えました。スポットは有望です。しかし、丘陵地は、食べ物が数分間競争を失ったような素敵な反射をしました。布は折りたたまれています。当初は見解を書いたが、今は反対のものは何もなかった。

> 「**水で場所を置いています。後からテーブルを考えます。**」

橋は最初に来ます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

リジェカ・クリノヘビッチャ・一時停止前の一時停止

ストーンブリッジでは、ピクニックは長い導入の能力を明らかにしました。コロンビーヌは、アーチとその反射によって作られた円に気づいた。メアは頭を傾けて、同じ角度から見ます。ル・チアは、バッグにしっかりと保持しました。「リマインダーは、リンゴが食べない」 二人ともうなずき、もうしばらく眺めていた。幸いなことに、その規定は正確なサービング時間を必要としません。

> 「**このリフレクションは、本当に食べます。**」

給仕のいらないごちそう





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lu Cia

ペラスト・グリーンベンチ

ペルストでは、いよいよ2つの緑のベンチが十分に証明されました。空いている一角に布を広げ、りんごとパン、小さなカップを並べた。メアは、すべてのフィット、コロンビーヌが座り、ル・チアがバッグをリリーフに入れたことを確認しました。最初の口腔内は、コンテンツの沈黙をもたらしました。その後、会話は再開し、友人は旅のさまざまな詳細を思い出させます。料理はシンプルで、少し小布で、まさに正しい会社でした。

> 「**優れた見解。より良い会社でも**」

4つのコーナー、3つの手の組





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea・Colombine・Lucia

ヴェリカ・プラジャ海岸・それを折り、それに沿ってそれを取る

ビーチでは、メアとコロンビーヌが布を折りたむようになりました。最初はそれぞれが自分の道を引っ張った。そして、彼らは調整され、角がついに会った。ル・チアは、バッグを準備し、小さな国内の振付で笑顔にしました。フードとラッピングは、全て詰まっています。砂の上には、足跡だけ残っています。一緒に立って海に耳を傾けながら、別の停止を計画せずに。

> 「**今日はみんながいます。何かを持ち帰る**」

布が折りたたまれました。共有された日は、その思い出にその場所を保ちました。

次のアウトのために、彼らは同じアレンジで合意しました: 3つの友人、少しの食べ物、そしてそれを座って楽しむのに十分な時間。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第41話

かばんに入らなかった色

ハイ・タトラ山地・スロバキア・Mea Zen

山を持ち帰る4つの試み。メアは、ノートブックの中に収まる色を探しています。

鉛筆を山に持って、その線が十分である。初めての音が鳴る前に、谷はすでに光の心を変えていました。そこで、私は自分自身を小さなタスクにしました:私は家に持ち帰ることができる一つの色を見つけます。私はサッチェルの部屋を持っていた、と完全に私のノートブックで不当な信仰。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

雲の海の上





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ハイ・タトラ山地

広い道から、雲は一歩足を踏み入れるほど固く見えました。よく知っていたが、鉛筆はなかった:谷が静かに解散したハード境界をつくり続けた。ラインを柔らかくした時、白の丸みが一新しました。ノートをしばらくシャットします。いつまでも、どこが終わるか決めずに見やすくなりました。

余りに多くの端が付いているリッジ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ハイ・タトラ山地

尾根はより協力的だった。最後に、コーナーで何か。低い岩に沈み、一本の会社ラインを引いた。小さな雲が岩の顔を横断し、使用していた非常に影を外しました。私の印象的な山は、傾斜した三角形になりました。笑い、鉛筆の横を回し、灰色のパッチを聞かせて、私の慎重な輪郭はできない可能性があります。

それでも滞在しない金





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ハイ・タトラ山地

花崗岩のスラブの間、私が望んでいた色を正確に保持した水:それを移動する小さな金で青。声をあげる前に鉛筆を置きます。リフレクションを緩めたリップル。その後、金は再び一緒に参加しました。何も失われていなかった。肖像画に座るのは、単に洗練されていました。

未記録のお部屋





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ハイ・タトラ山地

途中、木柵の横に立ち寄りました。谷は暗いコートを敷き、山の淡い三角形が光を浴びていました。ノートブックでは、汚泥、角切りのリッジと空の半分のページがありました。説明をしながら空間をほぼ満たしました。代わりに、私はカバーを閉じました。既に持ち運びに十分だった。

このページは淡いままです。とにかく色を記憶しました。

自宅で、お茶のカップの横にノートを開いた。思ったよりも小さい画で、青色が少ない。そのまま残った。しばらくの間、石との間に水が動くのが少し聞こえる。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第42話

今日はル・チアが決める

オランダ・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム、ミッドデルブルク、ザンドヴォルト。メアとコロンビーヌは、ル・チアが他の誰かの目を通して見るの喜びを発見する方法を選択し、方法を選びましょう。

ル・チアは、今日、誰も彼女の選択肢に干渉しないという1つのことを尋ねました。コロンビーヌは神妙にうなずいた。けれど、口はもう何か言おうと開きかけていた。メアはそっと彼女と腕を組んだ。「私たちは管理することができます」と彼女は言いました、彼女は彼女が彼女の友人や自分自身を安心していたかどうかを不明です。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

船を通した





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム

アムステルダムでは、ル・チアは運河に沿って指摘しました。地図上のものではなく、より密接に見たかった古いボートの方向を選んだ。コロンビーヌが始まり、「その道...」と笑いをつけて仕上げる。メアは、彼女の腕に優しい絞って与えました。あとは、橋の下の反射を見守っていた。時々、それは何か普通に気づいた3人だった。

> **「今日はガイドがいます。彼女をリードしましょう」**

ショアの緑の船





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム

ル・チアは、水辺で、素晴らしい緑の建物を研究するために停止しました。指先の輪郭をまっすぐにできるのに、手を持ち上げてみる。メアは、彼女の頭を同じように傾いた。コロンビーヌは、海に航行する準備が整った構造全体を考えた。彼らは、そのルーダーが行くべき場所を決定する間に過ごしました。ル・チアはそれらを聞かせてください。この会話は、わずかな調整なしで彼女のプログラムを装着しました。

> 「**浮かぶかどうかわからないまでは乗らないでください**」

リトルハイアーを見る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ

ミデルブルグでは、メアはレンガが最初に気付いたとコロンビーヌは窓に気付いた。ル・チアは壁の上に見かけました。他の人がフォローしただけ。屋根の後ろにタワーがバラ、過去を歩くだけでほとんど逃しているかもしれないもの。すぐに3つの頭が予想外のパフォーマンスで聴衆のように傾けた。メアが笑顔に。自分の外出が早くなっているかもしれない。この1つは素晴らしい別の一時停止を持っていた。

> 「**あ、これ、ずっと私たちの頭の上にあったんだ**」

プログラムのベストアイテム





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ザントフォールト

ル・チアのザンドヴォルトの砂の上には、最終アイテムを発表しました。しばらくの間は何もありません。友達同士で座って、風が髪のスタイルを選ぶようにしましょう。遠くの波の上に小さな子猫の形が移動しました。「何もしないって、どれくらいかかるの？」とコロンビーヌがたずねた。「私たちが好きな限り」とル・チアは答えました。メアは、彼女のラップでより快適に手を落ち着かせました。こうして、まさにその時を辿り着いたのがタイムテーブルでした。

> **「もっと頻繁にプログラムにこれを置くべきです。」**

ル・チアは、最も短い方法を選択しなかった。彼がまだ話したいものを選びました。

次回は、他の誰かを選ぶことができます。今日は、メアは自分自身に最後の考えを1つ続けました。次は何が来たのかわからないのは素敵でした。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第43話

太陽に似合うイヤリング

スペイン・Mea Zen

グラナダ、コルドバ、セビリア、マドリード。太陽の光から夕方の広場まで、小さな華やかな雰囲気のメア。

朝、メアはシンプルな銀製のホップを選びました。祝祭日は予定されていませんでした。散歩に行き、自分の肌で快適に感じたい。外側に、太陽は、彼女の奇妙なイヤリングのかなり異なる意見を持っていたことが判明しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

初めてのグリント





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ

グラナダの上、彼女は1本の耳の後ろに彼女の髪を抱きしめ、彼女の手の上に小さな明るいスポットに気付いた。彼女は頭を回しました。それは消えました。笑いながら、笑いながら、再びやってみた。屋根、丘と暗い檜は、外観の下に広がる、まだ彼女の注意は、少しの銀に属している瞬間のために。貴重品は何もなかった。小さなお祝いになったのは、いかに簡単になるかが好きでした。

> **「今日は、少しでもお見せください」**

赤い壁の横に





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

コルドバ

Córdobaでは、繊細な彫刻が施されたアーチで赤いファサードの横にパワフルしました。ここの光は違う感じです。温かく、静かに、他の場所に行っていないと感じます。メアは自分のペースに落ち着いて、彼女のスカーフがちょうど右に座っているかどうかをチェックし停止しました。イヤリングは再び艶をかけました。今回は、その反射をキャッチしようとする試みはなかった。彼女は単に彼女のチンを持ち上げて、少し日光が彼女の頬に達するようにしましょう。

> 「**止まるたびに自分を調節する必要はありません。**」

ポーズを決めずに





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

セビリア

セビリアの広い広場では、風は彼女のスカーフを巻きました。メアはそれを軽く握り、肩を横切って解決する前に2つのステップを取った。カメラが待っていたら、彼女は準備ができていないと言いました。やっと止まらない。長いアーケードは、彼女の横に続く、彼女の靴は静かにタップし、少しのフープは、すべてのステップで移動しました。かなり良かったです。

> 「**未準備の瞬間も美しくなる**」

イブニングライト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

マドリード マドリード

マドリードでは、太陽が広場を離れていましたが、暖かいランプは残っています。メアは、彼女が照らされた正面に向かって回ったように、新しい輝きを気付いた。朝の保存や繰り返す必要はありませんでした。もう1つは、少し柔らかく到着しました。彼女は彼女のバッグの横に彼女の手を休ませ、静かに立っていた。夕方のこの部分が好きでした。街はまだ目覚めていて、彼女はもはや急いでいませんでした。

> 「見よう?太陽が消えて、今でも気に入っています。」

イヤリングは同じままです。メアは、もう少し親切に自分自身を見ました。

自宅で、手帳の横に置いています。明日は再び身に着けることができる。小さな喜びは特別な機会を必要としません。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第44話

アイスは待ってくれない

クロアチア・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

Hvar、VrboskaおよびStari Grad。3人の友達が3種類のフレーバーを選び、アイスクリームが旅行の議論を待つしないことを発見します。

3つの旅行者は、長さに非常に重要な問題について議論することができます。どの車線が大好きだったか。日陰が最もよく感じたところ。レモンアイスクリームがリフレッシュや意見としてカウントされているかどうか。今回は、その会議は、かなり明確な時間制限を得ました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

太陽の会議





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

フヴァル

Hvar の正方形では、コロンビーヌ は彼女の指の可能性をカウントしました。メアは既に決定したが、議論の重大性を中断したくない。ル・チアはパラソルを指した。「続きのご意見は、日陰でうかがうことにしない？」しばらくの間、徹底した決定は、そう思われます。その後、メアは「ストロベリー」と言ったので、彼女の友人が笑ったことを満足させました。一部の意見は、単にプレゼンテーションや投票を必要としません。

> 「**今日は、私の引数がピンクです。**」

コンテンツの3色





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

バルボスカ

ヴルボスカでは、誰が何を選んだか一目でわかった。メアのアイスはピンク、コロンビーヌのはクリーム色、ル・チアのは黄色だった。とても繊細な貨物を受入れたので、ゆっくり水辺に歩いていました。小さな船は、その反射に残り、家を移しました。「だから、勝てるんですか?」 コロンビーヌさんにお願いしました。メアは自分のコーンを見ました。これまでのところ、彼女は共有勝者を宣言するために、すべての理由を見ないことができました。

> **「私たちは、それぞれが正しいものを持っています。今のところ」**

会議は奨励されています





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

スターイグラッド

Stari Gradの石のアーチの下に、メアは最初のピンクのドリップに気付きました。彼女は緊急事態で他の人に警告した彼女は、通常、出発のフェリーのために予約するかもしれない。次の車線についての長い議論は、文を通して途中で終わった。それぞれが自分の円錐形に出席し、笑いは待つ必要がありました。コロンビーヌは、最終的に、彼らはすぐに従うすべての従順なガイドを発見したと指摘しました。ル・チアは合意しました。アイスクリームは、非常に説得力のある。

> **「まずはアイスクリームを保存します。それから世界中」**

空の手





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

フヴァル

Hvarの水を横に、手は空だった。ル・チアはナプキン、コロンビーヌが快適に落ち着いて、メアは素晴らしい議論を聞かせることができる前に笑い始めました。水の向こうに石の鐘楼が立っています。今、彼らは時間もなく指を下ろすことなくそれを見ることができた。勝った味にはまだ同意していませんでした。とても便利でした。実験をいつか繰り返すのは、優れた理由でした。

> 「**結果は不整形です。さらなる試飲が必要です**」

アイスクリームが消えました。笑い続ける理由。

その後、メアはノートで味のランキングを書きませんでした。3つの小さなコーンと左の部屋を一緒に旅するのを横切った。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第45話

小さな赤いリボン

スロバキア・Mea Zen

Bratislava、Trnava、Banská Štiavnica と Devín。メアは旅に少しリボンをとり、最終的にページの間に場所を見つけます。

小包から残った短い赤いリボンは、長い間開いていた。メアは、ほとんどそれを戻しました。代わりに、彼女はそれを彼女の髪の部分を収集し、鏡を見ました。ちょっと出かけるだけ。髪型まで変えてもらわなくていい。しかし、家を離れる前に、小さなアイデアは彼女の気分を改善しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

回転する理由





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ

ブラチスラヴァレーンでは、メアは足音を鳴らし、リボンブラシを首に感じました。笑顔に。しばらくの間、彼女は忘れていたので、髪にありました。かつてないほど馴染みの通りに、ファサードや舗装、普通の店の窓が現れていましたが、その中にもう少し陽気に動きました。小さな赤い弓を補完する必要は誰もいません。頭の先頭に、その頭からそれを好みました。

> **「小さなことがたくさんあります。そして、自分で気づいたんです」**

道の反射





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

トルナヴァ

Trnavaの黄色の建物の横には、暗い窓が反射を巻きました。彼女のスカーフ、彼女の髪の輪郭と赤い点の一部を見ました。何も修正しないようにしました。彼女は、彼らが一緒に属したどれだけの井戸に気付きました。その後、彼女は続けて、彼女のスカーフの近くで軽く休む片手。こういった簡単な出会いは、自分自身に似ています。評価、準備はなく、写真を取り込む必要はありません。

> 「**今日は、その喜びのために、自分を見つめます。**」

ノットホールド





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

バンスカ・シュティヴェニカ

Banská Štiavnicaでは、風はリボンの端をかき混ぜた。メアは、彼女の腰に彼女のノートを握って屋根の中で淡い教会に向かって見ました。ノットは、今日何も書いていない彼女の朝の決定よりもしっかりと保持しました。すでに自分の心の中で形成された文章。今は、そこを去った。紙の紙にすぐに再梱包が必要なすべての素敵な細部は必要ありません。髪の毛が少し長く残るのは、この1つです。

> 「**ちょっとした文章。まだ見ている**」

ページ間の場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

デビアン

デビアンでは、川の見える景色についに座っています。リボンを切って、髪を肩に倒せて、。オープンノートでは、彼女は短いノートのための部屋を発見し、ページを渡って赤いストリップを置きました。文と日が一緒に待っていた。川の向こうに広がる緑の田園地帯、そしてメアは去る姿を追いかけようと衝動を感じませんでした。今回は、リボンが正しいページを開いたままにしました。

> 「この場所を離れることなく、その場所を離れる」

リボンはもはや彼女の髪を握りませんでした。記憶の場を保ちました。

次回は、ノートブックを開けると、カバーの下に赤い端が広がります。多分彼女はリボンを再び結びます。多分、彼女は単にページを回すでしょう。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第46話

三人でレモンひとつ

コート・ダジュール · Mea Zen · Colombine · Lu Cia

ヴァンス、アンティブ、ニース、モナコ。普通の市場のレモンは、共有の旅に小さな仲間になります。

市場では、彼らはもともと何か実用的なものを買うことを意味しました。コロンビーヌはフルーツを提案し、ル・チアは、彼女の手のひらに収まるような香りのよいものとメアの何かを示唆しました。1つのレモンは3つの要件をすべて満たします。今後は、プログラムのさらなるプログラムにはまだ合意されていませんでした。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

小さい購入





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen · Colombine · Lu Cia

ヴァンス

ヴァンスでは、メアは購入したレモンをヤシに持ち、珍しい旅行賞を獲得しました。フルーツのフル フルーツはそれらを囲み、市場は穏やかに湿らせました。コロンビーヌ は、誰が十分なか尋ねました。ル・チアは、それが確かに賞賛のための十分だろうと答えた。メアはそれを簡単に調べ、それが素敵な形を持っていたことを宣言しました。こんな小さな購入で、意外と儀式歓迎を受けました。

> 「**素晴らしい。私たちは、果物と会話の主題を持っています。**」

屋根の上を上るセント





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アンティーブ

アンティブでは、レモンはコロンビーヌのケアに簡単に動きました。それを鼻先に寄せて、目を閉じた。メアは、彼女が海の景色を欠いていたことを反対した。「しばらくの間、私は別のものを持っている」と彼女は答えた。ル・チアは笑い、黄色の皮が青い水に対して際立っているのを見ている。タイル張りの屋根を下ろします。普通の果実は、一言の言葉を言わなかったにもかかわらず、疑わしい良いガイドになりました。

> **「目を閉じてみると、目が閉じて楽しめる」**

ほぼ同じ黄色





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ニース

ニースの黄色のファサードの前に、ル・チアは壁とレモンを比較し、遠くの親戚を宣言しました。コロンビーヌは、建物がより儀式的なものだったと考えた。メアはレモンを擁護しました:それは刻まれた装飾を欠いていましたが、少なくともそれは袋に入れられます。彼らは非常に不等なコンテストを実施してそこに立っていた。勝者が宣言されていない。一方、黄色の色合いは、他のまだ約束されたリフレッシュメント。

> 「**建築は素敵だが、ガラスに切るのが難しい**」

最後まで実用的





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

モナコ

モナコのパノラマの上に、水が3杯ついにテーブルの上に立って、それぞれをスライスします。残りのレモンは、鍋に残ります。すべての賞賛の後, 匂いと比較, 彼らの購入は、その実用的な目的を見つけました。メアは、彼女のガラスを良い選択に引き上げました。「このレモン、荷物も持たずに旅してきたのね」とコロンビーヌが付け加えた。ル・チアはシップを取ったし、それがすべて後に1つのことを実施したことを決めた:彼らの共有の良い気分。

> 「Cheers. 意外にフルプログラムで小口購入へ」

レモンが分かれました。ストーリーは共有されたままです。

リビエラについて話した時、海と町を思い出しました。しかし、最初の笑顔は、常にその1つのレモンに属しています。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第47話

寄り道するための切符

ポルトガル・Mea Zen

リスボン。メアは、紙の小切符でセットし、彼女の時間を取るための味で返します。

メアは、彼女が彼女のノートブックで見たかったいくつかの場所を持っていた。路面電車のチケットは、リスト全体よりもはるかに小さくなりました。一方、二人の手前を一瞬にとり、ノートを閉じました。リスボンはどこにも行けなかった。しばらくの間、彼女は単に乗り心地を楽しむことができました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

紙の始まり





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

リスボン

メアが舗装から1回以上彼女の小さなチケットを検査しながら、路面電車の立派。豊富なノートや詳しいプランのお部屋はご用意しておりません。こんな感じにしはじめました。髪の毛をつなぎ、バッグを調節し、笑顔に。驚いたのは、今日の乗り心地に近づいてきています。

> 「**このチケットに義務の余地があまりない**」

窓辺の席





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

リスボン

ノートブックがバッグに滞在した窓からとても快適に落ち着かせました。ガラスを越える通りのファサード、バルコニー、そして垣根は、彼女は足を踏み入れなかったかもしれない場所。メアは、彼女の反射をキャッチし、熱心な眉毛を上げました。時間が経つにつれて女性のように見えました。自分を割っては、自分が何に合っているかを尋ねることで、このバージョンを割ってはいけないと決めた。

> 「**すべて、それで、少し長く乗ります。**」

罪のない停止





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

リスボン

白の傘の下には、少しテーブルが見つかりました。閉店したノートの横にチケットを置き、コーヒーを近くで書きました。彼女は、訪れた場所から抜け出したかもしれない。代わりに、彼女は舗装に日差しのストライプを見たし、少し長く座って検討した。請求書の前に到着した回答。座り心地が良く、コーヒーを温める、そして、その表情に至っては至急に何もない。

> 「**もう止まらない**」

喜びのための小さなレシート





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

リスボン

屋上からは、突然見晴らしさが高まりました。メアはノートブックを開いたし、そのページの間にチケットを吸った, 彼女の次の検索から安全にキー。最後に、彼女は場所の彼女のリストに何かを追加しました:コーヒーを長くとどまります。それから彼女は自分のペンを置き、川に向かって見ました。ノートは終了いたしました。見ていない。しばらくは口を挟まず、成り行きに任せた。

> 「**これは取っておくよ**」

2ページの間には、少しの迂回が収まります。

ノートブックに滞在したチケット。後に滑り出したとき、メアはまず路面電車の暖かい窓を記憶しました。そして、すぐにコーヒーを飲みたかった。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第48話

似顔絵、似てるかな

ベルギー・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブルージュ、ゲント、アントワープ、ルーベン。3人の友達が肖像画を描き、好きさは予期しないライバルを手に入れます:非常に良い気分です。

コロンビーヌは、芸術的なビジョンを追求する人の重力で鉛筆を制作しました。メアは最も著名なプロフィールを提供しました。ル・チアは静かに自分のノートブックを読みました。三人がかりで理想の一枚を撮ろうというのだから、その一部始終こそ記録する値打ちがありそうだった。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

流出する、どうぞ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブルージュ

ブルージュファサードの前に、メアはまっすぐにし、彼女のチンを少し上げました。コロンビーヌは1つの目、鉛筆の調製を狭め、動かないように彼女に尋ねました。その部分が考えられる。難しさは、ル・チアでした,誰が、区別された肖像画のために完全に不適切何かを言うために調べました。メアは、約3つの呼吸のために厳粛に保たれていました。4位は、意図した尊厳をかなり複雑にし、笑顔に所属しました。

> 「**見てみると、笑顔が見えるの?**」

髪とオピニオン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ゲント

ゲントの水を横に、コロンビーヌの図面は太字に成長しました。メアはノートブックの上に覗いて、彼女の髪は珍しい量の紙を占めていることを発見しました。アーティストが静かに説明した「ボリューム」。ル・チアはうなずいた。けれど、口元には笑みがのぞいていた。メアは1カールをスムースにしようとしました。それから諦めました。ベルギーのヘアスタイルが独自の建築を手に入れたなら、それも楽しめるかもしれません。

> 「**髪は右に見える。それだけで大きな野望がある**」

ル・チア・ドロース 静かに





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アントワープ

アントワープの像の中でベンチで、ル・チアはノートを回しました。シンプルな笑顔の顔がページを埋めました。コロンビーヌは近くを傾け、メアは比率について心配を止めました。笑顔は、まさに間違った瞬間に真剣なままにしようとしたときに現れた。周りの石の数字は、点滅しないように管理しました。3人の旅行者は、このような懲戒処分を試みることはありません。

> 「**笑い始める前に、俺は笑い始めるのだから。**」

3本のデッサン、3つのコップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ルーヴェン

ルーベンでは、テーブルに図面を置き、誤った水彩の版を防ぐためにカップを脇に動かしました。メアは自分の迅速な試みを追加しました。全くの好奇心に悩まされているが、すべての写真はすぐに一緒に一瞬を想起させる。コロンビーヌが展覧会を企画しました。ル・チアは、最初にドリンクを完成させたいと望んでいました。メアは、角で最初のシートを慎重に持ち上げて、今日のギャラリーが彼女のバッグの中に収まることを決めた。

> 「私は私と一緒に展覧会をしています。入場料は笑顔です」

あらゆる図面に少しずつ異なっている。笑いは共有されました。

メアは、すべての3つの図面を保管しました。ヘアスタイル、鼻の別の説明が必要です。3つ目はいつも笑いをし、何も説明できる前に笑いていた。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第49話

理由のいらない花

イタリア・Mea Zen

ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ガルダ湖。イタリアの瞬間をイメージしたコラージュでメアに同封した3つの小さな花。

4つのポーズと1つの小さな喜びからこのイタリアの旅が組み立てられます。メアは3つの白い花をそれに持ってきました。誕生日や謝罪、達成のためにはなかった。好きでした。服を着たとき、彼女は少し笑顔にしました。話を始めるのに十分でした。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

誰ですか?





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア

ヴェネチア運河のそばに、メアは小さな花束を手に動かしました。紙は錆び、白い花びらが揺れる。誰が花を誰に尋ねたのか、彼女はすぐに答えてくれました。まずは、静かに自分で試してみた。気持ちいい感じでした。壁面の青い船は、かき混ぜた。自分の存在の小さなお祝いは、観客を必要としませんでした。

> 「**わたしは、わたしのために**」

フォー・リトル・サンズ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

フィレンツェ

フロレンティーヌのアーチの下に、彼女は花を光に引き上げました。3つのイエローセンターは、小さな太陽のように見えました。4つ目の大きな1つが照明を提供しました。メアは、石の上に影を投げ、頭を傾けて、花びらを投げました。それは、誰も周りを旅行を計画しないような細部でした。彼が望むすべての時間を与えたのは、まさにその理由でした。路上敷きの成功は、誰もここで測定しません。

> 「**小さな花々が印象的な影を投げることができます**」

瞬間を座る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ローマ

ローマでは、彼女はベンチを発見し、彼女の膝の上に花を休ませました。片手は、耳の後ろにストレイロックを叩いたときに茎を支えました。ブーケはすぐに完璧な花瓶を必要としませんでした。ノルは、メアは、彼女の日のように別の理由を必要としていました。パインの広いおおいの下には、しばらくの間、彼女はいつも同じ休憩を楽しんでいた3つの花をすべて確認しました。

> 「**すべて正しい。私たちは、すべての人が休むことができます。**」

花とテーブル





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ガルダ湖

ガーダ湖のそばに、花が水にガラスを浴びました。メアは、その包装を開いて、それをきちんと折り畳み、それを脇に動かしました。3つの茎だけが加えられたが、テーブルは突然個人的に感じました。マスツは後ろに揺れました。メアは彼女のカップを持ち上げて、彼女の要求の厳しい会社を見ました。花束が必要だったかなんて、もう答えを出そうとも思わなかった。とても喜んでいただけました。

> 「**ここにいるあなた、すてきよ**」

花も咲き誇ります。

コップとメアの脇に水、折り紙の3つの花を、急いでいません。このメモリは、慎重に配置する必要はありませんでした。既に所属していたところがすべてありました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第50話

ドラゴンはお休み

モンテネグロ・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ロヴッチェン、Mrtvica、タラ、コトル湾。ドラゴンの風景を探し出すトリオは、それぞれが異なっているものを見ているが、ドラゴンの風景を検索します。

メアは山の稜線がドラゴンに似ていると宣言した。どの部分を知るためにコロンビーヌは必要でした。ル・チアは、ほとんど美しい山を見ました。そのため、発見、測定、または名前付けされたものは何もありません。非常に非公式調査を開始しました。彼らは一緒に見て、時折不審にのみ必要です。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ヘッドはここにある





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ロヴッチェン

ロヴッチェンでは、メアは灰色の尾に向かって指摘しました。額と鼻がかなりクリアだった。コロンビーヌは彼女の目を陰影し、彼女は膝の多くを見たことを発表しました。ル・チアは、両方の友人を見て、まだ位置を取るために低下しました。山は、山々、穏やかな、そして無関心に彼らの解

剖学に残りました。メアは、彼女のドラゴン理論の賛成で、この尊厳別の説得力のある引数と見なしました。

> 「**膝の様なら、彼は大事である**」

A 疑わしい 小さな バウンド





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ムンビカ

ル・チアのMrtvicaの谷の上に別の候補を見つけました。ハリスタックにポインティングし、ドラゴンは単に非常に音的に眠っているかもしれないと示唆しました。メアは笑った:その素晴らしい山の頭の後、これは驚くほど小さな体です。コロンビーヌは、調査が完全に自分の想像力に頼っていたことを彼女に思い出したので、誰もまだ寸法を承認しなかった。川は、ディスカッションに参加せずに谷を貫く。

> 「**自分をよく折りたたんだから**」

ブリッジはロールを決定





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

タラ川

Taraでは、橋のアーチが調査に入りました。コロンビーヌは、十分なスキャニングで足に似ているかもしれないことを示唆しました。柵で立っていたメアはそれを正直な試みを与えました。一方、ル・チアは橋自体を賞賛しました。もうすぐ彼女に入社しました。自分の役割にかなり十分な魅力を持っていたものもあります。今日は橋が橋に残る可能性があり、その横に3人の女性が一時休止するのを嬉しく思います。

> 「**全ての権利。このことは、元の職業を保ち続ける**」

検索は、ブレイクを取る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コトル湾上を上回る

コトル湾の上を眺めながら、座り下ろし、捜索を止めました。ル・チアはノートブックを閉じ、コロンビーヌは彼女の肩をリラックスさせ、メアは遠くに衰退する山の青い層を見ました。ドラゴンが現れなかった。彼は、休日、眠り、または単にメアの会話のための良い考えであるかもしれません。結果はそれほど重要ではありません。眺望は広々で、もう一つ横に十分な部屋がありました。

> 「日を離れよう。でも、私たちにも適している」

ドラゴンは見つかりませんでした。旅は気をつけなかった。

ノートブックは短いエントリを受け取りました: 明らかに、ドラゴンは一日を止めていました。スペースはそのまま残っています。彼が次の旅に出てきたら、彼はきっと自分の章を必要としているでしょう。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第51話

ひとり席、お願いします

クロアチア・Mea Zen

ポレッチ。メアは、良い座席を選び、コーヒーを注文し、快適な会社が彼女に完全に到着することができることを発見します。

海辺のメアファンシードコーヒー。小さなテーブル、ビュー、時間など、シンプルなアイデアでした。最初の空の椅子をすぐに受け入れることなくテラスを眺めました。今日は、きちんと快適に感じていただける場所を選びたいと思っていました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

まずは、選ぶ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポレチュ

ウォーターフロント沿いをゆっくり歩く。1つのテーブルは、舗装にあまりにも近く座っています。別の顔の日差しは彼女の目にまっすぐに見えます。風情を感じず、メアは続けました。自分の休憩を過ごす場所を選ぶだけでした。次のテラスでは、色合いと水の景色を望む。彼女は彼女のスカーフを調節し、遅くしました。この決定は、3つの旅行者とのミーティング、マップ、または合意を必要としません。

> **「ここは座ってみたいな」**

1人の女性、2つの椅子





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポレチュ

椅子は2枚ありました。メアはもう1つを取った。もう1つはバッグに入れた。店員を見上げ、いつもの調子で、満ち足りた声でコーヒーを頼んだ。ノートブックは、現在閉鎖されています。一人で座っていた理由を説明する必要はありませんでした。ここまで来たいと思っていた。彼女のバッグは自分の座席を獲得し、メアは彼女の周りの小さな出来事を観察するための快適な場所です。

> 「**もうひとつは、私のバッグの椅子です。**」

全小牧場





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポレチュ

小さなペストリーは、彼女のコーヒーに着きました。メアは、試飲交換を確かに提案するコロンビーヌの瞬間と思考のためにそれを考慮しました。ル・チアは、彼女は誰も望んでいた、その後、すべての後に少しの部分を取ると言うだろう。笑顔を叶えてくれた想い。今日は牧場全体が彼女でした。彼女は、水を渡るPorečの家に向かってそれらの間で見ている、未処理の咬みにそれを分割しました。

> 「**今日はビューだけを共有しています。**」

1 より多くの sentence





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ポレチュ

プレートが空いたとき、メアはノートブックを開いた。町の名を書いて、気持ちの良いテーブルを少しメモ。すると、ページ上の鉛筆は、壮大な想いを待っています。到着なし。水の向こうに赤いベーコンが立っていたので、気持ちよく感じました。ということを書いています。さらなる装飾を必要としない彼女の休憩に完全に十分な報告でした。

> 「**ここがいい感じ。その数もカウントします**」

1つのテーブル。そしてちょうど十分な時間。

ついに立ち上がったとき、彼女は彼女の肩の上に彼女のバッグを滑り、もう一度海を見ました。友達を連れてくると、もう一回。今日、彼女はすでに自分の場所を完全に知っているようになりました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第52話

片方だけの青い手袋の謎

オランダ・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダムとザンドヴォルト。メアは2つの手、1つの手袋、そして2人の友人が調査する準備が整いました。

メアは、彼女は両方を詰めたと確信しました。今、彼女は彼女のバッグで他のすべてのものを見つける一方で、彼女はすべてのために見ていないものを含む1つの青い手袋を握った。コロンビーヌは、すぐにケースの充電を取った。ル・チアは、彼らが発見した手袋が異常に快適で、むしろパッドを入れたと気づいただけに気づきました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

一つはキイイイイイイイチはない。





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム

アムステルダム運河のそばに、メアは彼女の袋を開いて、彼女は旅全体を解凍する可能性が高いと感じました。手袋は、ソリティアリのままです。コロンビーヌは、彼女が最後に同僚を見たときを尋ねた。多分、メアは答えました家で。ル・チアは、ブルーニットを眺め、笑顔を抑えました。調査は明らかに始まり、その主な目撃者はすでにやった不確実な記憶を持っていた。

> 「**両手で持って来るのは確かです**」

エキスパート検査





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム

コロンビーヌが座って、光に対してグローブを握った。メアは、運河を渡るすべての家を疑問にほとんど彼女を期待していたので、説得力のある見ました。ル・チアは指の近くの小さなランプに気付きました。コロンビーヌは興味深い手掛かりとしてそれを識別しました。メアは、単にその手がかりを握ることを提案しました。簡単なサイレンスが続いて、非常に儀式的な問題の非常に簡単な説明を優先する種類。

> 「**この手袋は明らかに何かを隠す**」

疑わしい良い隠れ場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

アムステルダム

ル・チアは最初のうちに2番目の手袋を引っ張りました。しばらくの間は、言葉を使わずに横に並べて行いました。メアは彼らを見ました, その後、コロンビーヌで, 犯人は、例外的に控えめな隠れ場所を選択していたと主張しました。博物館の壮大なファサードの前に、チケットを必要としずに小さなドラマが締結しました。メアは、彼らが解決していた問題が正確に防ぐために、自宅で手袋を一緒に梱包することを思い出しました。

> 「**みんな一緒でした。知らなかったんです**」

海辺のチェック





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ザントフォールト

Zandvoortでは、メアは、彼女の機器が完成したことを実証するために両手を上げました。ついに青の手袋がその所に入った。風は髪をかぶせたが、それを調べるのに落ちる。コロンビーヌは、成功した検索に関する短いレポートを提案しました。ル・チアは、写真がやっていると述べた。海の横を歩くと、彼女は手を眺めるたびに、メアが笑顔に。一部の謎は、非常に小さな解決策のために最も喜ばしいです。

> 「2人のうちの2人。今日の優れた結果」

手袋2本、笑顔3本、ケースは閉まりました。

夕方、メアは手袋を別々に詰めた。しばらくお待ちください。それから彼女はもう1つを叩いたので、再び失われたことはありません。今回はコロンビーヌが見ていないと確信しました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第53話

扇子の小さなひと芝居

スペイン・Mea Zen

グラナダ、コルドバ、セビリア、バルセロナ。メアは少しファンを発見し、遊び心のある演劇的であることのための味。

ノートの横にバッグに装着したファン。メアがそれを開いたら、それはかなりより多くの注意を占有しました。腕元の動きが遅くなって、もうひとつの手首の動きが遅くなっていました。このスペインのコラージュでは、実用的な小さなオブジェクトは、演劇的なプロップになります。メアは、完全な真剣でそれを使用するつもり。最初の数秒間は、少なくとも。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

オープニング





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ

グラナダの水辺に、ファンをゆっくりと開け、それぞれが少しずつ折りたたむ。しばらくの間、彼女は彼女が何をしていたかを正確に知っていた女性のように感じました。それから彼女は鼻に近づいすぎて笑っていた。長いプールは、未使用のままです。メアは尊厳を減らし、快適さを高めました。彼女の2番目の試みは、彼女の頬を快適に冷却しました。オープニングレッスンは成功と見なすことができます。

> 「すべての権利。より少ない儀式、より多くの空気」

ファンを眺める





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

コルドバ

Córdobaの赤い壁に足を踏み入れ、笑顔の下のファンを持ち上げて不思議な外観を試みました。あとは、ただちに終わる。気分が良く、全く無神秘的だった。脚本のないリハーサルで受ける女優みたいな感じで、優れたプロップ。聴衆を必要としなかった。自分のポーズを一瞬楽しむのに十分だったし、自分を好きなだけ。

> 「**神秘的なままにできる時間**」

風が名乗りを上げた





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

セビリア

セビリアのタイルの横に、メアが別のエレガントなジェスチャーを試みる前に風が到着しました。髪の毛が髪の毛をつなぎ、ファンが突然見つかりませんでした。彼女は彼女の側にそれを下げ、彼女の自由な手とストライロックをキャッチしました。自然は、その性能に役立てることを明らかにしました。申し立てをしてもらっていません。メアは静かに、何らかの方法でそれを与えました。

> 「**ありがとうございます。しばらくの間、お渡しをすることができます**」

女優はブレイクを取る





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

バルセロナ

バルセロナのモザイクのベンチで、彼女はファンを閉じ、彼女のラップでそれを休む。まわりの色とりどりのかけらは、稽古もなしでひと芝居見せてくれた。メアは、快適に着脱し、先を見つめました。神秘的または儀式を調べる必要はなくなった。気持ちが良かったです。小さなファンは、そのすべての折り目と一日のロールを保ちました。次回の公演は、まだ時間がない。

> 「**しばらくの間、自分を遊ばせる**」

ファンは閉まりました。気分が良く、気分が良くなります。

メアは、その朝よりも慎重に彼女の袋に入れました。彼女は今、彼女と体験を共有したファンでした。腕元の動きも一日中改善できるということを思い出しました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第54話

最後に決めるのはボール

コート・ダジュール · Mea Zen · Colombine · Lu Cia

サンポール・デ・ヴァンス。メア、コロンビーヌとル・チアは、ペタニクを試し、すぐに裁判所に決定的な声を持っている人を発見します。

最初は、それぞれがサウンドプランを持っていた。メアは、精度、コロンビーヌエレガンス、ル・チアを最初に望んでいました。それから彼らはボールを拾いました。サンポール・デ・ヴァンスの小さなゲームは、ターゲットが非常に近いと結果はまだ驚くべきことができることを彼らに教えます。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

手のひらがな





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen · Colombine · Lu Cia

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス

メアは、彼女の手のひらに金属球を秤量し、地面に小さな木製のものに向かって見ました。距離は優しいようです。コロンビーヌは、すべての可能な結果を受け入れるにもかかわらず、方向性を示し、ル・チアは笑顔にしました。メアは彼女のスタンスを調整しました。ボールを握る間、すべて

の可能性は美しく開放されています。とても楽しい発見でした。気持ちが悪いのは、最終的に行くべきだということでした。

> 「**ここまでは、完全に制御下にある**」

エレガントなプラン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス

コロンビーヌは、ゆっくりとした動きと深く濃縮された表現を選びました。安全から片面まで見守られたメアとル・チア。初めて見たの瞬間は抜群です。その後、ボールは独自の決定に従って砂利を横断して継続しました。コロンビーヌは、その結果を調整するかもしれないが、彼女のポーズを長持ちさせました。メアは、ジェスチャーが美しいと述べた。ル・チアは、ボールが終了した場所とは別にジェスチャーを判断することを提案しました。

> 「**今日もポイントを獲得できるのは、そのエレガンスだ**」

クローズアップとは異なる





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス

ル・チアは3つのボールの横にクロッシングし、自分のポジションを研究しました。距離から、それぞれの友人が完全に明確な意見を浴びていました。閉じると、誰もがもっと気をつけていきました。メアは先に耳を傾け、コロンビーヌは彼女の美しいアークを守るのを止め、彼らは単にしばらくの間見ました。正確な評決に至っていませんでした。地面に近づいて、一瞬に投資した尊厳で笑いやすくなりました。

> 「**もっと勉強してみるといいですね。ここは楽しいんです**」

トロフィー、笑顔の恵み





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

サン＝ポール＝ド＝ヴァンス

その後、彼らは空の手で低石のステップに座っています。メアは、投げる直前のコロンビーヌの式を模倣し、すべての3人が笑った。彼らはトロフィーを持っていません。ノルは、次の散歩中に1つを運ぶ場所と考えていました。ル・チアは、しばらくして再生することを提案しました。コロンビーヌは、彼女はエレガントな計画に権利を保持することができ、同意しました。ボールはまだ提案にコメントしていなかった。

> **「再戦を受け付けます。同じ会社で」**

結果は開いています。共有の楽しみは確かでした。

メアは、正確なスコアを覚えていませんでした。コロンビーヌの濃縮式とル・チアが地面に3つのボールを非常に明確に研究したことを覚えました。初めてのゲームで十分だった。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第55話

街灯からの招待状

スロバキア・Mea Zen

ブラチスラヴァでの夕方。メアは家に行く準備が整っていますが、灯台通りはもう少し素敵なステップを提供しています。

コートは半締めで、家に行くのは完全にセンシブルな計画でした。それからランプが角に入った。馴染みのあるファサードが、日中は気づいたことがなかった暖かさを身につけました。メアは遅くなりました。言葉を言うことなく、ブラチスラヴァは、彼女は少し長く滞在することを示唆していた。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

コーナーでのプラン変更



ブラチスラヴァ



アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

メアは、彼女が知っていた通りを歩いていました。その通り、なぜ彼女はとても見栄えにしていたんです。壁に暖かい光は、任意の兆候よりも効果的に彼女を止めました。顔を向くと、コートを調節しました。どこからでも入る必要はなく、何かを注文したり、時間をチェックしたりする必要がありました。遅くなってもらった。ちなみに、馴染みの方法は、別の楽しいバージョンがあるように見える。

> 「**このコーナーは、すべて右から**」

軽度は有利である





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ

古いランプの下には、光が予想以上に柔らかくなっていた。耳をかき、彼女のスカーフの端と、ほとんどそれ自体が現れた笑顔をキャッチしました。メアは彼女の首で生地を調節しました。たまたまに着いたのはちょっとした感じでした。しかし、彼女は誰にも通っていたんです。昔の石の細部は、彼女に説明を必要としません。ネザーは彼女をやった。そこで、彼女は彼女にふさわしい場所から滞在し、そこに良い感じをしました。

> 「**この様な光を招待せずに借りてもらえる**」

ストリートはスローアー・リズムを持っています





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ

彼女が続けたように、彼女は自分の足跡をもっと明確に聞くことができました。建物の間にはタワーが現れ、青空が深まる。メアは、彼女のコートで快適に手を休ませます。日中は、次の項目について、この通りを横断しているかもしれません。今、彼女は舗装上の個々の窓と明るいパッチに気付きました。これは、異なるペースと時間で見られるブラチスラヴァに精通しました。

> **「夕方に少し柔らかさを感じながら、ここを歩く」**

1 最後のルックアップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブラチスラヴァ

照らされた建物の横に、彼女はもっと一気に注ぎました。窓は正面にしっかりとしたリズムを作り、メアは数えずにそれに従いました。その後、彼女は彼女のコートを近づいて描きました。ここまで行くのは嬉しいです。夕方を価値のあるものにするために、さらにはデタートルが必要でした。少し歩くと十分でした。左から、彼女の控えめな笑顔は、自分自身と街の間で共有された小さな冗談を提案した。

> **「招待状をありがとう。もう止まるよ」**

家は、いくつかの素敵なステップを長く待つことができます。

夕方には、壮大なプログラムや儀式終了がなかった。メアは暖かいチーク、静かなペース、そして彼女が再び次の時間に気づくことを望んでいた1つの完全に普通の通りを離れました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第56話

猫が私たちを選んだ

ポルトガル・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オビドス。ジンジャーの訪問者は、簡単にトライオに参加し、旅行計画の独自の意見をもたらします。

オビドスを舞台にした創作のこの一話では、メアの靴のそばに小さな茶トラの猫が現れる。地図、ノートブック、または自分で紹介する必要はありません。コロンビーヌはすぐに彼女が現地ガイドであることを結論づけます。ル・チアは最初に猫が同意するかどうかを知りたいです。現時点では、猫は全く異なる問題に出席しています。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

第4回旅行者





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オビドス

メアは最初に白い足に気付いた。それからジンジャーテール、そして最終的に彼女の靴の横に立っている小さな訪問者全体。大切な人達が到着したのに、友達は静かに落ちました。猫は、儀式の中で最もわずかな関心なしでそれらを見ました。メアは、彼女のバッグに手を置き、笑顔で過ごしました。質問も勧誘も、ひとこともないのに足を止められる。そんなのもよかった。

> **「地域社会にただ認めているのではないか」**

座席はテイクンです





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オビドス

青と白のファサードの横に、猫はそれらの間に場所を見つけました。魅力的でフォトジェニックなものではないかという思いを込めました。彼女は、彼女が喜ばせるように正確に座っています。コロンビーヌは、すべての旅にこのような自信を詰めたいと述べました。メアは彼女の膝の上に彼女のノートを休ませ、そしてル・チアはベンチの上に部屋を作った。訪問者は何も確認しなかった。落ち着き払ってそこにとどまる姿を、賛成のしるしと受け取ってもよさそうだった。

> 「**この女性は彼女の席を非常によく選びます。**」

プログラムの観点から





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オビドス

石門の横に、メアはノートブックを下ろしました。猫は、コロンビーヌが重要な発見を調べるかもしれないので、その角を徹底的に嗅ぐようになりました。「Sheはプログラムをチェックしています」ル・チアは誇らしげに。メアは喜んで結果を待っていた。ノートブックは、閉塞し、足をきれいにし、評決は無傷のままである。最終的には、訪問者は撤退しました。明らかに、彼女は計画に重大な異議を抱えていたか、寛大にそれを完全に無視していた。

> **「コメントがあれば、聞いています」**

ガイドは義務を離れて行きます





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オビドス

四角に、彼女は彼女の尾を上げ、自分の方向を選びました。メア、コロンビーヌ、ル・チアは、どこにいたか滞在しました。背中や主張を呼ぶ必要はありませんでした。彼らはまだ一緒にやりたいことを持っていました。自分の日をはっきりと過ごしました。コロンビーヌは、彼らのガイドが異常に柔軟なプログラムを保たれたことを考案しました。メアはノートブックを閉じました。ル・チアが笑顔になった: おそらくそれは正確には、彼らが家で計画されていないレッスンでした。

> **「あなたの旅を満喫し、マダムガイド」**

訪問は短いです。記憶は、それらの間で快適に解決しました。

あとは写真を見ると、メアはベンチの空の場所を指しました。「私たちの案内役、ここに座ったよ」 コロンビーヌはうなずいた。ル・チアは、休憩をするときに優れた感覚を持っていたことを追加しました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第57話

仮面と、私自身の笑顔

イタリア・Mea Zen

ヴェネツィア。メアは少しマスクをしようとし、ゲームの最高の部分が見えることを発見します。.

窓のマスクは、メアが笑顔にならなければならなかった、そんなに悲しみを見ました。小さなバーガンディーを薄手のエッジで選びました。複雑な説明をすることなく、少しミステリーを約束し、短いハンドルを持っていた。しばらくの間、彼女は決めました、彼女は神秘的な女性になることができます。ヴェネツィアは、このような小さなゲームのためにかなり準備が整いました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ミステリーを選ぶ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア

青色の窓枠は、非有形表現の小さな集会を開催しました。一部のマスクは偽りなく、他の人は、メアがまだ発見していた何かを知っているように見えました。彼女の手で快適に装着。ドレスに反して頭を傾けた。グラスでは、自分だけの笑顔が、みんなのソレムの顔に現れました。窓に一番のトラブルメーカーが現れたようです。今は不適切と判断しました。

> 「**小さな謎を1つ、ふるさとの表現がなければいけません**」

ライオンの目の下にある女性





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア

テラコッタファサードの脇に、彼女は彼女の目にマスクを上げました。門上にある石のライオンは、非常に神秘的な訪問者を要求しているにもかかわらず、完全に構成されています。メアは彼女の頭のスローターンを試みた、別の、もう少し区別されたもの。口の角がマスクの下に上がることが始まらないと、説得力があります。ライオンは動かなかった。メアは、最も深刻な表現のためのコンテストを考案し、静かに笑った。

> 「**ライオンは、かなり説得力があります。**」

顔が最初に返された





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ヴェネツィア

橋の上には、マスクを下げました。狭い運河は、住宅間の光と穏やかに覆われた反射の長いリボンを提供しました。一瞬で生き残せるのは、真剣な顔が無事に生き残る。メアは、石の寄生虫の上に彼女の敵を休ませ、水を見ました。ゲームを楽しんだり、もっと手軽に離れることができました。マスクの後ろに待たせられた女性は違いません。笑顔に新しい理由で、まだ彼女でした。

> 「**謎を守って、顔を守ろう**」

神秘的な女性のための休憩





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ヴェネツィア

ゴンドラの横に、彼女は座って、彼女のラップの上にマスクを置きました。青い船のカバーはほとんど動かなかったけれど、その下で水はおしゃべりを続けていた。メアはもはや式を再解釈する必要がありません。座って、呼吸して幸せを感じました。ハンバーガンディーマスクは素敵なお土産でしたが、いつも何かを思い出していました。しばらくの間は喜んでもらえます。コンテンツを自分に送り返すことで、より一層効果を発揮します。

> **「もはや神秘的ではない。内容がなくなる」**

マスクはヴェネツィアに属しています。笑顔は、全てが笑顔でした。

マスクを袋に入れ、外に笑顔を残します。次の橋で折りたたっていなかったり、また再び道の不確実になったりしてもらった。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第58話

ワッフルひとつ、笑顔が三つ

ベルギー・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブリュッセル。1人のワッフル、3人の友人と、長く続くことのない完全にフェアな共有のための計画。

ワッフルをオーダーすると感性が見える。結局、彼らは何か小さなものだった、と思った。それからプレートが到着し、すべての3は同じ重篤さでそれを研究しました。コロンビーヌが公正な分裂を提案しました。メアは合意しました。ル・チアはカップを片手に動かし、フェアネスが練習でどのように見えるかを確認するために準備しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

小さな注文





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブリュッセル

赤い日除けの下のあらゆる方向から漂流された会話。しかし、そのテーブルでは、独特の濃度が簡単に引き継がれていました。黄金のワッフルは、通常の小さなポケット、砂糖のほこり、他のすべての計画を延期する力を持っていた。メアは、それがほとんど恥ずかしいと言った。コロンビーヌはプレートの横にフォークを設定しました。ル・チアは、賞賛が試飲と非

常にうまく組み合わせる可能性があることを観察しました。会議の気持ちの良い部分が始まりました。

> 「**小さかった。これは大事だ**」

3つの株式の理論





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブリュッセル

グラン・プラスの華やかな建物の前で、コロンビーヌが説明した。やり方は、理屈の上ではごく簡単なのだ、と。メアは、プレートの長方形を調べ、3つのフォーク。ル・チアが眉毛を上げました。提案は素敵に聞こえましたが、ワッフルが相談されていないようです。目で割ってみました。それぞれの試みは、異なる友人を支持しました。結局、彼らは飢えた仲間が善意を必要とし、委員会よりも1ビット以上必要と認めた。

> 「**紙の上には、今では分かち合っていきます**」

実践的なテスト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブリュッセル

プレートの上に3枚のピースが敷き詰められ、誰も同等だったと主張できませんでした。最も小さいものは魅力的な角を持っていた。最も大きいは説得力のある次元を持っていた。ル・チアは、専門家のように結果を検査しました。メアは、最初の部門が常に実験的だったことを説明し始めました。コロンビーヌは、彼女自身の防衛を提供することができる前に笑った。ブリュッセルは窓を越えて、その壮大な一日を続けました。自分のテーブルでは、とても小さな共有笑いが勝ちました。

> 「**今日はフェアネスが少し不規則な形をしています。**」

決勝結果





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブリュッセル

プレートに残っているパンは数個残っています。一番大きな部分を食べてもらった人、誰も尋ねなかった人、正確には覚えていません。メアは、彼女のカップの近くに彼女の手を温め、かなり大きな機会のために十分なファサードを見ました。コロンビーヌは、結果を記録することを提案しました。ル・チアはそれを簡単にまとめました。みんな楽しかったです。3つすべては、そのレポートに署名することができます。フォークは、よく耳を傾けた休息を受け取りました。

> **「幸せの人たち。それはかなり正確な分裂です」**

部分が不等であった。幸せは分裂を必要としません。

その後、メアは、彼らが別のものを持っているかどうかを疑問に思っていました。今度は計算抜きで、ただ楽しむために。コロンビーヌは、非常にセンシブルな提案と呼びました。ル・チアはもううなずいていた。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第59話

靴にもひと休み

クロアチア・Mea Zen

マカルスカ、ブレラ、バシュカ・ボダ、オレビッチ。メアは自分自身と2つの非常に勤勉な靴を休ませます。

靴は、自分の休日に値する十分な通りを歩いていました。海の向こうに、メアは下を見て、今日は何も証明する必要はないと決めた。この海岸のコラージュは、普通の散歩から始まります。旅行計画が過小評価される傾向にあるイベントが続きます。快適に座ってください。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

勤勉のペア





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

マカルスカ

マカルスカを上回る山々が広がり、水辺には余裕のある部屋が数多くありました。メアは、彼女が捕まえたものを持っていたので、彼女はまだ歩いていたことに気づいた。靴を見ました。不満を許さないと、突然、むしろ不公平に思える。彼女は遅く、自分自身がより長くハーバーを見渡せることを許しました。誰も彼女の数分を数えていなかった。ここでは、単に滞在し、ビューが代わりにいくつかの仕事をすることを可能にすることができます。

> 「**今日は、どこからでも到着する必要はありません**」

ベンチは休日を承認しました





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ブレラ

ブレラの緑色のベンチは説明が不要です。メアは、彼女の靴を置き、それらをきちんと一緒に座って、座って、取り除かれます。彼女は滑らかな表面に彼女の裸足を休ませ、彼女のスカーフを調整し、放散しました。2人のブラウンコンパニオンは、ベンチの横に非常に満足していると突然見ました。指示をしないようにしました。彼らが話すことができるハド、彼らはちょうど少し遠くの人々が追加の散歩全体を意味していたことを思い出しているかもしれません。

> 「**あなたは、あなたが義務を負います。私はあなたに参加しなければなりません**。」

何も聞かされない陰影





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

バシュカ・ヴォーダ

バシュカ・ヴォーダ付近、松は、淡い海岸を渡る暗い形状を描きました。メアは、快適なスポットを発見し、小さなタオルを広げ、水に耳を傾けました。靴はバッグの横にとどまり、世界は簡単に空気の色合い、海と穏やかな動きに狭くなりました。遺石を収集したり、メモを取ったりする必要はなかった。見てみると十分でした。こういう簡単な予定がすっかり気に入ったので、悪びれることなく、そっと数分だけ延長した。

> 「**本イベントでは、かなり合理的にカウントされる可能性があります。**」

デューティー、もっとゆっくり戻ります





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

オレビッチ

Orebićでは、彼女は彼女の靴を背中に置きます。空はピンクや金の色合いを試し、水は何も言わずにその色を受け取っていた。メアは海岸沿いに立ち向かうが、この時期、彼女は自分の一日を先取りしませんでした。彼女は彼女のスカーフの下に収まるように、彼女のと休息を運びました。靴は静かに続けました。彼らは合意したようです: 休憩後であっても、すぐに次の1を必要としないほど静かに歩くことができます。

> 「**海を眺めながら、海を眺めてみよう。**」

海は急いでいました。必要はなくなりました。

夕方、靴は再び準備ができました。そこで、別の目的地を発明しなくなったのに、メアはいた。しばらくの間移動を止めることができるため、旅が成功することもあります。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第60話

景色を眺めて、ひそひそ話

モンテネグロ・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

モンテネグロ。3人の友人との間に短い文が渡って、全く別の物語に着きます。

メアが静かなゲームを発明するような感じがしたので、湖はとても心地よく静かでした。1つの文章、二つ折り、結果のチェック。コロンビーヌは一度に合意しました。ル・チアは、メアが何かを意味することができることを知った信頼できる見ました。モンテネグロリン駅のこのコラージュでは、小さな迂回のための十分な部屋があります。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

湖からのメッセージ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

バイオグラデスコ湖

メアはコロンビーヌとウィスパードに向かって傾いた:光を待ちましょう。短くて優しい文章で、彼女は考え、完全に安全でした。枝の下にある緑色の水は監督を必要としません。コロンビーヌは、もう決めたという顔でうなずいた。ル・チアは少し離れて立ち、湖にしか興味がないふりをした。メアはしばらくの間、彼女を信じなかったが、誰もルールを壊さなかった。そこで、メッセージが正常にディスパッチされたと見なしました。

> **「光を待とうよ」**

トランスファーポイント





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

バイオグラディスカ・ゴラ

森の流れの横に、コロンビーヌが配達を追い越しました。ル・チアに耳を傾け、その文を繰り返すと、メアは水と葉だけを聞いた。ル・チアはうなずき、ほんの一瞬、片眉を上げた。特に安心の兆候はなかった。コロンビーヌは、非常に精密な指示を配信していたが、満足していると見つからなかった。メアは彼女のバッグストラップに手を休ませ、待っていた。救助の質問は今すべての楽しみを台無しにします。

> 「**わかった。たぶんね**」

予想外のデツアー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

リジェカ・クリノヘビッチャ

ル・チアは、川の大きな曲がる前に、ル・チアは発表しました:少し見ていきましょう。メアは、問題全体を説明する準備をしているが、息を吐き出し、笑い声を破る。コロンビーヌは、光を顕著に発音したと主張しました。ル・チアは、そのバージョンが自分の利点を持っていたと言いました。背後にある川は、緑の丘の向こうにカーブした。同じ曲を撮って、どこか全く違うところに辿り着きました。

> 「**少なくとも私のバージョンは実用的です**。」

旅行を必要としない存在





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

リジェカ・クリノヘビッチャ

柳の下には、もうルールを使わずに、ついに座っていました。銀行の近くには小さな船が立ち並び、水は十分な小さな音がそれ自体にありました。メアは何も誇大さじませんでした。ル・チアが水を見渡しながら、遠くに笑顔で笑顔になったコロンビーヌは、彼女の不正確の成功に喜んでくれます。誰もが一緒に幸せだったと言う必要はなかった。そのメッセージは、単一の目隠しなしで完全に渡され、チェックをする必要はありません。

> 「**私たちは、このことをまったく同じように理解しました。**」

メッセージが変更されました。グッドカンパニーが残っています。

帰り道には、光が消えた場所や、噛みがどこから来たのかは、誰も尋ねていません。メアは、いくつかの誤解が起こったように正確に保たれなければならないと感じました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第61話

自転車と、のんびりした朝

オランダ・Mea Zen

アムステルダム。メアは自転車を持っていますが、速度で街の発見を測定しないことを決定します。

バスケットのブラックバイクは、かなりの達成のために準備ができました。メアはより控えめな計画を持っていた:朝が彼女を連れて行く場所を見るために。ハンドルバーに手を入れ、オフ設定の前に、運河を渡る家を見ました。自転車が待っていた。とはいえ、今日は数回スキルを発揮します。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ゆっくり行く準備





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム

自転車は2つの車輪、快適な形とバスケットを数少ない良いアイデアで十分に持っていました。メアはまだ方向に落ち着かなかった。暗い角の建物の横に、彼女はきちんと始めた前に止まった。その後、塔に向かって水を見渡せる。一度に面白いように見えました。すぐにマウントするつもりだった。代わりに、彼女は地面に両足を飼って、これが始めるのに完全に尊敬できる方法だったことを決めた。

> 「**まず、わたしたちは周りを見つめ、見つめなければならない**。」

ザ ハウス カム ファースト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム

運河の狭いファサードは、一目で読み取れない。各ウィンドウは異なる詳細を提供しました。各gableは、それが停止に値すると確信したようです。メアは、単に自転車をプッシュしました。ハンドルバーは手元に快適に座り、ホイールは歩くペースで回りました。動きやすい道で、彼女は思った、それを使うために彼女を義務づけなかった。どこに行っても家は行かない。彼等にそれらに向かって礼儀正しくなる可能性があります。

> 「**これらの窓に速度が上回る**」

展望駐車場





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム

橋のそばに自転車をスタンドに置く。しばらくの間、彼女は自分自身を約束しました。しかし、水辺の角の家は、予想以上に詳細を持たせました。まず、窓に気づき、その上の曲線が現れ、屋根に沿って光ります。そのひとときは、ごく自然に長くなった。メアが笑顔に。輸送手段は、今日の驚くべき忍耐を示しており、より良い使用に置くことに値する兆候を与えませんでした。

> 「**この家を待ってから、本当に動く**」

朝は、そのペースを見つけました





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

アムステルダム

木下に渡る青屋根のボート。自転車の横に立ち向かうと、メアはそれを見回しました。彼女はもはや彼女が短時間でスピードアップすることを約束しませんでした。バスケットは軽く、彼女のバッグは快適に落ち着いて、彼女が必要とする限り朝は正確に持続しました。あとは、乗り直しのほうがいい。別の橋を渡って歩いていくのは、多分。ストリートカウントを必要とせずに、彼女は楽にペースを見つけました。

> 「**今日は誰も私の前にはいない、私たちはそれぞれ自分のペースを持っている**」

ホイールが2本入る。速度は任意でした。

その後、彼女のアムステルダムの朝を思い出させ、彼女は彼女が亡くなったどのくらいの時間を言うことができませんでした。橋のカーブ、水辺の窓、非常に忍耐強い自転車を思い出しました。旅の疲れを癒すのは、とても十分でした。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第62話

私たち三人への絵はがき

ポルトガル・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ポルト。3人の友達が1枚のポストカードを書いて、自分が誰であるかを決めるのにしばらく時間がかかる。

メアは、川と屋上を見せるポストカードを選びました。コロンビーヌは鉛筆を持っていました。ル・チアは、優れたアイデアを持っていると主張しましたが、今、自分自身にそれを維持していた。共有挨拶の途中に立ち向かうようなことは何もなかった。そのような小さな紙がどれだけ保持できるかについて、住所と合意が必要でした。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

私達に映像があります





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ポルト

青いタイルの横に、メアは3つすべてがそれを見ることができるポストカードを握りました。その川は、その屋根がきれいに配置され、その空が隅に刻まれた、実際のものよりも小さくなりました。コロンビーヌ は誰に書いてもよいか尋ねました。メアはこれを検討しました。ル・チアは、最初に言うことを決定することを提案しました。ポルトはそれぞれ違うものを

書いてみたいというものを作っていたんですが、十分にセンシブル。今のところ、紙は寛大に見えました。

> 「**この街は、今の三つにあふれています。**」

初めての空間を占拠





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ポルト

コロンビーヌはテーブルの上にポストカードを置き、彼女が優れたリズムと考えたことの文章を開始しました。メアはメモリを追加しました。ル・チアは、笑いが省略されていないことを指摘しました。鉛筆が止まった。スペースが小さくなると予想以上に残ります。その上、各古いバルコニーと窓は簡単に別の段落を供給することができます。「今日くらい、この街のことを全部書かなくてもいいんじゃない？」とコロンビーヌが言った。

> 「**この料金で、川の向こう側が必要になります。**」

1つの小さな星の客室





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ポルト

ル・チアは、彼女のポストカードを描き、端に小さな星を追加しました。彼らがもはや適合しなくなるすべてのために立っていた、彼女は言いました。メアはすぐに紙を保存するための効率的な方法を認識しました。コロンビーヌは、星がアドレスに彼らの決定を含めることができるかどうかを尋ねました。ル・チアはうなずいて、ようやく考えを明かした。そのはがきは三人のものにできる。ほんのちょっと先の三人の。しばらくの間、より多くの単語を検索しないようにします。

> 「**未来のセルフに書いていきましょう。理解してもらえる**」

共有アドレス





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ポルト

ドウロの横に、メアは完成したカードを握り、水を渡る都市を見ました。ポストボックスは不要で、3つのページから3つすべてを返す安全な場所のみが不要です。コロンビーヌは配達が幾分遅れるかもしれないことを観察しました。ル・チアは正確にその点だったと述べた。メアはカードを横切る。いつか思い出してもらえる人には、意外に素敵な感じでした。

> 「**私たちの3人のために。ポルトを逃したときに開いた**」

ごあいさつは、私たちと共に泊まります。旅行のどこかにありました。

ノートブックのページには、ポストカードがついに滑り込まれています。1日は予想外に落ちる可能性があり、3つの将来の読者は、再びポルトに座って自分自身を見つけるでしょう。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第63話

数えずにのぼる階段

スペイン・Mea Zen

グラナダとサンティアゴ・デ・コンポステーラ。メアはステップをカウントし始めますが、ビューは中断します。

最初のステップで、メアは簡単な考えを持っていた:彼女はそれらをカウントします。それから彼女は彼女の足がどれだけ働いたかを知っているだろう。このスペインのコラージュはすぐに正確な数字が集中を必要とすることを明らかにします, 古い車線, タワーや中庭は、他の場所でダイバートする非常に喜んでいます。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

正確な始まり





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ

グラナダの車線では、物事が非常によく始まりました。最初のステップ、第2ステップ、3番目のステップ。メアはシステムを持っていたし、システムは良い精神でありました。それから彼女はバルコニー、それの下の戸当たり、そしてもう一方の狭い回ることに気づきました。次のステップでは、彼女はもはやそうではありませんでした。再び始めて、彼女の見栄え

を止めることを意味するだろう。彼女は、ほぼ正しく聞こえた数字で続けた。近似は、その瞬間に妥協を許さないと思われた。

> 「**最後の一匹でしたか?その素敵なバルコニーの前のもの**」

タワーは計算を中断しました





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

サンティアゴ・デ・コンポステーラ

サンティアゴでは、彼女はより方法論的であることに決めました。石壁は、上方に目を覚ますと、階段は敬意のある新しい始まりを提供しました。その後、屋根の中に塔が現れます。メアは見上げて止まった。その瞬間に、そこに仕事がなかったのに、その数字は平和に彼女の記憶を残しました。再送はなかった。何かが道を与えなければ、見ないと嬉しいです。

> 「**計算は一瞬で上向きに見えます**。」

低いステップでの会議





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

サンティアゴ・デ・コンポステーラ

壮大な階段の脇に、彼女は片側に座って、みんなの道から。精密な性能報告を受けていないにもかかわらず、脚はブレイクを歓迎しました。メアは、最後の特定の数字をリコールしようとしました。代わりに、ドアハンドル、舗装石、窓の形状を記憶しました。笑い声で笑いました。記憶はどうやら独自の帳簿をつけていた。自分より上手につけているのかもしれない。登ってよかったと思えた瞬間を、ちゃんと残してくれていた。

> 「**俺の足は、ここにあることを知っています。彼らはもはや数を必要としません**。」

最長階級グラウンド





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

グラナダ

グラナダの円形の中庭は、さまざまな種類の注文を提供しました。列が繰り返され、地面はレベルだったし、中央は彼女を単に停止するように招待しました。メアは、彼女は今、列を数えることができると考えた時に笑顔。その案には、採決もせず賛成することにした。数歩後、彼女は見上げる。今回は何も失わなかった。守るべき番号がなければ、中庭全体が通常の好奇心のために利用できなくなりました。

> 「**今日は列をカウントしてはならない。私は休日にいる**」

番号を忘れてしまいました。旅ではありません。

ノートブックに合計を記録した。たくさんのステップや一時停止の理由があったと言うのは十分でした。確かな情報の一部が異常に頼りに見えました。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第64話

セルフタイマーの一枚

スロバキア・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

トルナバ、デビエン、ブラチスラヴァ。完璧なポーズのアイデアで3人の友達、カメラ1人、数秒。

メアは、その3つすべてで写真を撮りたかったのです。三脚はしっかりと立っていた、カメラは喜んで見て、彼女の友人は優れた精神にありました。ボタンを押しながら、ボタンを押下して、時間内に結合するだけ必要がありました。 Slovak停止のこのコラージュでは、簡単なタスクは予期しない結果で小さな共有スポーツになります。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

すべてが準備が整っている





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

トルナヴァ

トルナヴァの塔の下で、メアは構図を確かめ、仲間にうなずいて合図した。コロンビーヌ 調整 彼女の カーディガン。ル・チアは、ある、実はかなり目立たない、控えめな笑顔をしようとしました。メアはシャッターを押下し、彼女はまだ三脚の周りを歩く必要があったことを思い出しました。スデンリーは、彼女のバッグ、彼女のスカーフ、それらの間で彼女の

場所を考慮するためにあまりにも多くの詳細がありました。カメラは、サポートを行わずにカウントダウンを続けました。その仕事は、自分のものよりも明確に単純でした。

> 「**笑顔で笑顔になれる。そこには、そこにはいるだけ。**」

もう一つのステップ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

トルナヴァ

中庭では、メアは、この時期にそれを作ると感じた。ブリスクの一歩を踏み出しました。彼女のスカーフを巻き、友人を見ました。すでに笑いていた。カメラはまだシャッターを待っているのか、それとも、かしこまりすぎた記念写真から三人を救ってくれたばかりなのか。誰にもわからなかった。メアは入社しました。次回は近づいていきたい。コロンビーヌはカウントダウン中に人生全体を後進させないように提案しました。ル・チアは、両方の計画の有望と見なしました。

> 「**私は準備が整っています。私はただ、まだ配置されていない**」

フラワーズ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

デビアン

Devín では、彼らは一緒に時間通りに立っていた。メアとコロンビーヌは、レンズの外見に、エクスパンダリのコンパウザーをつけました。しかし、最後の瞬間に、ル・チアは彼女の青い花が少し刻まれたと感じました。手をあげました。カメラは、その作業を正確に行なった。メアは2秒間悲しげに深刻な滞在した式で彼女に向かって回りました。川と古代の壁は、当時トリオの交渉に無関心に残っています。

> 「**今回、すべてを管理しました。花を除く**」

この1つの滞在





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ブラチスラヴァ

ブラチスラヴァ城下では、一緒に写真をレビューしました。一方、メアはまだ動いていました。別のところ、コロンビーヌは意図よりも早く笑いました。ル・チアは、彼女の髪とマイナーな合併症を発見する人の表情で手を持っていました。すると、そのどれも問題がなかった写真が見つかりました。3つすべては、単にそれ自体でした。メアは再びそれを示しました。宿泊する。別のカウントダウンを要求することなく、彼女の友人は同意しました。

> **「私たちを思い出したいと感じてほしい」**

ポーズの間に撮影した最高の写真。

その夕方、彼らは最も深刻な写真を選ぶことができませんでした。笑い声をあげた3人全員が説明することができました。カメラは、タイミングでその意見を保ちたいと願っていました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第65話

名前のない歌

コート・ダジュール · Mea Zen

アンティーブ、キャップフェラート、ニース、サントロペス。メアは、彼女が決してすべての方法から聞いたことがないチューンを湿らせます。

メアの横に一歩足を踏み入れたノートが数多く始まりました。彼らは、彼女が名前を付けることができなかった曲に所属しました, おそらく朝の光と彼女の良い気分に。このリビエラコラージュでは、車線、緑、海の景色を眺めながら運んでいます。チューンが続くか、それについて厳格にならず発見しようとします。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

フットステップ間のメモ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

アンティーブ

アンティーブでは、車線が快適に斜め、ハウスはライトを閉じました。メアは静かに抱きしめ始めた。最初の2つのノートは、特定の音を鳴らしました。3番目のノートは、独自の方向を見つけました。誰も彼女を修正したので、彼女は続けました。店先の籠のそばで、旋律はふっと向きを変

え、石の角にさしかかるとゆっくりになった。ウォーキングは楽に感じました。言葉も聴衆も必要でした。今までは、自分の小さな音が十分だったんです。

> 「**誰がこのことを記録したかは、誰も考えていません。でも、私ではありません**」

ベンチのリズム





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

フェラ岬

キャップフェラートの緑の中で、彼女は座って、彼女が去った場所を続行しようとしました。膝の上に指を優しく叩いた。リズムはすぐに着きます。メロディーは時間を必要としていました。自分の道を移し、控えめな伴奏者として受け入れました。時々彼女はフレーズを繰り返し、時には完全に変更しました。自分の曲で、彼女は実現しました、彼女はどのバージョンが正しいかを証明する必要はありません。彼女が彼女を喜ばしながら見続けることができる。

> 「**ベンチは患者様を聴く。良い聴衆**」

風がくれたひと休み





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ニース

ニースの湾の上に、風は彼女のスカーフを持ち上げて、彼女は別のノートを試してみました。メアはそれをキャッチし、笑い。歌は、それをかなりよく合わせた未要求のポーズを取った。海岸の街と長い曲線を下ろします。多分彼女はすぐにメロディーを終える必要はない。自分の声を添えずに、しばらくその場所だけに耳を傾けたいこともあった。残りのリフレインは、あとで口ずさむことにした。

> **「すべて右、風。あなたのソロは今」**

拍手のないお辞儀





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

サントロペ

サントロペの水を横に、彼女は静かに何度もお気に入りのフレーズを繰り返しました。朝のバージョンにマッチしたのは確かではありませんでした。もはや問題ありません。伴奏のお礼でもするように、海に向かってそっと頭を下げた。海は、別のさざ波だけ、拍手を提供しませんでした。メアは、好ましいレビューとして、彼女がどこにも保存した曲を続けたことを認めたが、すでに彼女の旅の寛大な部分を明るくしました。

> 「**感謝の気持ちで、後から休息を吹きます。**」

歌は名前がなかった。朝は認めた。

夕方、彼女はもはや正確に曲を繰り返すことができませんでした。困ったことはなかった。歩いていた途中に残っているものや、笑顔で戻ってきた。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第66話

傘と、気の合う仲間たち

イタリア・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ガーダ湖。通過シャワー検査で1つの傘の下にどれだけのユーモアが収まるかを調べます。

コロンビーヌは傘を持っていましたが、他の人はそれを不必要なと思いながら、傘を持っていました。メアは湖に進み、ル・チアは空よりも近い景色を調べながら。すぐに、海軍のアクセサリーを思い起こさせると、主要な役割を担います。今回のエピソードでは、プログラムの簡単な変化が生まれ、友達が一緒に立ち向かう理由が分かち合います。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

必要のないもの





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ガルダ湖

船の横には、コロンビーヌの側に広がる傘。メアはアミューズメントで指摘した: 写真では、最初から疑ったもののようである。コロンビーヌは、それが助けに来ると答えました, 撮影されていない。ル・チアは見上げました。グレーヤクラウドはマストの間でゆっくりと移動し、まだ面白い風景だけに見えます。傘が後からその防衛を予約したまま、彼らは空っぽに沿って続けました。

> **「装飾にはここじゃない。仕事がある」**

1つの屋根の下に3つの場所





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ガルダ湖

メアが彼女の文章を終わらせる前に到着した最初のドロップ。コロンビーヌは傘を開けて中へ渡しました。計画よりも近い3つの立方すべてを突然解決します。ル・チアは、彼女の花が風呂を望んでいないことを指摘しました。メアはハンドルを調節しました;コロンビーヌはニアを動かしました。ネイビー屋根の下には協力が必要でしたが、笑いの余地もありました。湖は、穏やかな雨の背後にある美しいままで、もう誰も傘を不必要ないと呼びませんでした。

> **「少し近づいていきたい。ビューを共有しています」**

文句も言わず、ぽたぽたと





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ガルダ湖

ル・チアは車線で日除けているので、傘を閉じて、他の車からチップを下げました。最後の降下は舗装に落ちました。メアは彼女のスカーフを滑らかにしました, コロンビーヌは、かなりあまりにも目立たないと喜んでいる間。誰も彼女を非難しません。カーブしたハンドルで、町を通る証拠を運んだ。彩り豊かな家の中で、光が再び明るくなりました。シャワーは、長時間の訪問を意図したことがありません。

> 「**大丈夫です。次回は笑わない**」

パーティーの新メンバー





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ガルダ湖

ビューポイントパスに沿ってライトが返されます。山々はより清らかで、湖の落ち着き、友達が快適なウォーキングペースに広がりました。ル・チアの手元に傘が閉じられます。現在は、パーティーの信頼できるメンバーとして説明しました。メアはそれ自体の肖像画を与えることを提案しました。コロンビーヌは、夕方に乾かすことを記憶していたと、そのパフォーマンスを後押しする控えめな要求が満たされると述べた。3つの合意を結んだ。

> 「今日は4人でした。もう1人がハンドルを持っていました」

シャワーが通過しました。あらゆる空の下にある会社が残っています。

その後、ル・チアは予期しない敬意をもって傘を運びました。メアは、その日が彼らのために正しい瞬間を見つけるまで、いくつかの物事だけ不必要な見ていないことを述べた。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第67話

私のかかとを追う影

ベルギー・Mea Zen

Ghent では、メア は予期しない仲間を獲得しました。彼女の影です。長い脚、優れたスタミナ、風光明媚なルートを取るための異議はありません。

水の横に、家は表面の下に第二の命を生きるように見えました。メアは、彼女は舗装の上に彼女の細長い自己に気付いたとき、彼らの上屋の屋上を賞賛しました。どこへ行くかは既に知っていたが、。疑わしい。メアは、コーヒーについて決めてもなかった。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

片靴の頭





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ゲント

メアが一歩足を踏み入れる前に、シャドウが舗装を渡りました。小さなドラマチックなスレンダーさん、彼女はいたるよりも多くのスペースを占いするつもりだった。メアは遅くなりました。そこで、それをしました。次のステップで、地面に小さな踊りを演じる彼女のスカーフに気付いた。四面は、ハンサムな家よりも提供していた:彼女が彼女の携帯電話を楽しませる必要はありませんプライベートな小さなパフォーマンス。

> 「**もちろん、すべてのレッグルームを手に入れよう**。」

小さいテスト





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ゲント

次の運河で彼女は止まり、手を上げました。彼女の影は同じことをしました, 躊躇せず、または、成長した女性が舗装で再生していた理由を尋ねる。メアは満足した笑顔を与えました。水を渡って、屋根が赤く染まり、近くには昼食が調理されていました。指の小さな動きを試しました。優秀。最後に、最初の試みで最も複雑な振付さえ理解した人。

> 「**採用しておらず、職業不要**」

Bigger Shadow の内部





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

ゲント

城壁の下には、彼女の仲間が広帯域の陰に消えました。メアは彼女の靴を見ました, その後、石のタレットで。それから、壊れます。ドラマチックなよなら、見えないままの義務はありません。そこでもパワッと。石は石の沈黙を守っていた。通りからは、彼女には意味のわからない話し声が漂ってきた。昼過ぎから初めて、自分を追い越す必要はなかった。

> **「すべて右。5分は監視されていない」**

再び一緒に





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

ゲント

小さな橋の向こうに、その道に戻って日光が戻り、よく知られた輪郭をとらえる。今回、メアは何もテストしませんでした。歩いて、笑顔にならず、そのあとは怖いのが空気を追いかけます。静かな仲間は、目的地を必要としません。それぞれのステップで部屋ができました。角の周りのどこかに、コーヒーがやっと待っていた。

> 「**さ、行こう。これは私のおごり**」

ウォーキング

その夕方、彼女は彼女のノートの通りのリストをスキップしました。後ろに長い線で小図を描きました。数時間、Ghentは説明不要の会社を貸しました。ついにコーヒーを注文すると、注文した。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第68話

ライオンは笑わない

クロアチア・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コルチュラでは、石の獅子の前で神々を祀っていようとしています。ライオンは数世紀の頭の始まりを持っています。

コルチュラは、壁に抱かれた顔や紋章、物語を少しずつ保持しました。ル・チアは小さな羽根のライオンを目撃しました。コロンビーヌは、このような著名な会社が、認識された応答に値すると宣言しました。メアは、ルールが次のコーナーを生き残らないと疑った。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

グループ会社





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コルチュラ

コロンビーヌは彼女のチンを持ち上げて、石の救済彼女の素晴らしい外観を与えました。メア ビット 彼女の lip. ル・チアは、この外交会議の両側を評価し、ライオンがより多くの滞在力を持っていたことを決めた。壁にいくつかの葉を除いて、それらを上に移動しませんでした。昔の石を無接触に残し、尊厳の実験全体が自分の顔に置かれました。

> **ル・チアは、「彼はたくさんの練習をしてきました」と観察しました。**

儀式的な行列





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コルチュラ

コロンビーヌは石の通路を最初に入れました。荷物だけを運んでいたが、大切さのメッセージで委任したのに、彼女は歩いていた。メアは逃げる前に彼女の背後にあるいくつかのステップを去りました。ル・チアは、儀式的な行列が静かに刻印されたかどうかを尋ねました。コロンビーヌは周りを回しませんでしたが、彼女の肩は公式プロトコルで別の亀裂を明らかにしました。

> **「そうですね。尊厳を調べるんです」**

最終的な交渉





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コルチュラ

葉の中庭のテーブルで、真剣な表情を披露するメアが提案しました。彼女の手は、彼女とフレッドの正面に置かれました。コロンビーヌは投票が始まる前に笑い声を破る。ル・チアは頭を下げました。これは2秒で自分の笑いを遅らせました。テーブルのメガネは、触れずに残っています。遠くによく知っていた二人の友人が、この休憩がすべて必要だった。

> 「**石の委員会に入らなくてもいい**」

グッドスピリッツの町





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

コルチュラ

ウォーターフロントからは、屋上が平和に見え、タワーは少しのゲームをはるかに超えていました。コロンビーヌはついに肩をリラックスさせました。メアは目を引くと、二人も笑い始めた。ル・チアはもはや説明を待っていた。町は水を渡って全く変わりませんでした。とはいえ、個人的にも歓迎していたと感じました。

> 「ライオンの勝ちだね」「私たちもね」

壁に滞在したディグニティ

ライオンは、彼らが去った後、おそらく笑顔ではなかった。気をつけてはなかった。何世紀にもわたって街を守っている人は、時折冗談をスキップする権利があります。三人は自分たちの笑いを、そのまま海まで連れていった。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第69話

こだまも仲間に加わった

モンテネグロ・Mea Zen

メアはバーの古いゲートウェイを挨拶します。答えは、少し明確で、少しゲームを始めるのに十分です。

Stari Barは、アーチ、ステップ、淡い石、そして緑の斜面と山の1つであるメアにそれ自体を開いた。一度にすべてを見る必要はありませんでした。ゲートウェイでは、挨拶が礼儀正しくなると彼女に起こりました。そこで、この日の午後に、ほとんどの言葉を自分で供給した会話が始まりました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

グッドアフタヌーン、ゲートウェイ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

スターバー

メアはアーチの前に立ち止まり、静かなハローと言いました。地獄のように少し音を響いた石が返ってきた。誰が聞いていたのか、笑いをしたのか、彼女に耳を傾けた。長年に渡って異様な挨拶に答えた。バッグストラップを調整し、非常に予約されたホステスを満たしているにもかかわらず、彼女は自分自身を導入しました。

> 「**メア、あなたはゲートウェアに留まることができる**」

自らの答え





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

スターバー

小さな石のチャペルの横にある中庭では、彼女の声は異なる聞こえました。メアは、開いた壁に囲まれているように耳を傾けました。今回も、その名の通り、名前をつけてみました。説明したり、飾ったりしなくてはならず。風に揺れる緑と足の踏みが近くでシャッフル。要求のない聴衆;プログラムは、単一の単語の後に快適に終わることができます。

> **"そうです。それは私の名前です。"**

タワーが飾られた





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

スターバー

タワーの横に、会話を続けて待つ。確かに、彼女は彼女の耳の後ろに手を差し込み、全体の状況をさらに楽しくします。何もない。タワーは山々を眺めながら、小さな話が不要でした。メアは、黙って残る権利を認めた。バッグからボトルを取り出し、飲み物を飲んでから空気だけに耳を傾けました。とても良い会社でした。

> 「**今日のインタビューはありません**。」

笑い旅行より良い





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

スターバー

ストーン・パラペットの背後にある外観で、彼女は正式にゲートウェイに自分自身を導入したことを覚えていました。それだけでした。肩から抜ける傷がつまみに、笑い声をあげました。今回は、音の音がどれだけ戻ってきたかをカウントしなかった。壁や木々、丘々が広がる前に、たくさんの部屋で、。メアは彼女のスカーフを調整し、少し長く滞在しました。誰が今日最後の単語を必要としません。

> 「**明日は約束しません**。」

声が聞こえる

すべての回答が完全な文章である必要はありません。たまに返った音と笑顔が十分です。メアは、より明るいステップで左。町は言葉を聞かれなかったが、彼女は彼らに提供したことを喜んでいた。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第70話

今日の予報は笑顔三つ

オランダ・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

オランダでは、メア、コロンビーヌ、ル・チアは独自の予測を行います。可変的な雲、確率的風、相互合意による良い精神。

ミッドデルブルグでは、空は心がけません。メアは共感しました。コロンビーヌは、より明確に述べたと認められています。ル・チアはすでに結論を下しました。 Windy Zandvoortは、共有された旅行ノートブックに後で参加しました。彼らの予測は、両方のアウトイング間で驚くほどうまく開催しました。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

空はまだそれを解釈している





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ

暗いシャッターを持つ家外では、メアは雲の明るいエッジを調べました。コロンビーヌは、かなりのグレーダーエッジを研究しました。ル・チアは、同様に有望なことを宣言し、解決された問題を検討しました。頭を上げて3頭の全てが立っていた瞬間のために。パスター・バイは、専門家の委員会のためにそれらを間違いを犯しているかもしれません。実際、彼らは単にどの通りを取るべきかについての決定を遅らせていました。

> **「私の予報は素敵な銀のライニングを持っています」メアは言いました。**

ローカルエキスパート





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ミデルブルフ

ここ数年働いた人の空気で舗装に立っていたグールの立方。コロンビーヌは、オープンパームスで話せるよう招待しました。グールは去りました。メアは、注意深い声明としてこれを解釈しました。ル・チアは、歩くことを継続するための明確な勧告と考えました。鳥は、パン粉や役割を一切受け止めません。創業の3人の女性たちを、まさにこの予報で伝えていきましょう。

> **"コメントはありません。非常に専門的です。"**

風は約束を守った





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ザントフォールト

ザンドヴォルトのビーチに出て、風は励ましを必要としませんでした。メアは彼女のスカーフの端をキャッチ, コロンビーヌは、彼女の首輪とル・チアは彼女が彼女の髪が所属する方向に動作するようにしようとしたとして笑った。それぞれが異なる技術を持っており、一部成功しました。どんなに運ばれる海。彼らの小さな気象チームは、そのプログラムに影響を与えませんでした。

> 「**予想の少なくとも1つが正確です!**」

3つのサニースポット





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen・Colombine・Lu Cia

ザントフォールト

雲に隙間を開けた。昼過ぎまでは日光が約束しませんでしたが、一日中3回は一緒に回りました。メアは彼女のスカーフを解放しました。コロンビーヌは、雲とル・チアの半分を閉じた彼女の目を監視を停止しました。砂と海辺の建物は、その背後にある; 先は、最終的に決定を必要としない空気だった。彼らの予測は、1つの共有結果と締結することができます。

> 「**笑顔で、警告は不要**」

非常に好ましい

ノートは、温度を一切含まない状態に仕上げました。3つの名前と小さなマークをつけて、気持ちの良い瞬間を演出しました。結果にコメントはありません。これからの旅行に、そのプロフェッショナルな意見をもう一度相談する計画をしました。

Mea Zen・Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む

第71話

もう一ページ

ポルトガル・Mea Zen

シントラでは、メアは彼女のノートブックの最後のページを終える予定です。宮殿、刻まれた顔と庭は、すべて自分の追加を持っています。

最後のページは、いくつかの文、日付、完了したシンプルなものでなければなりません。メアは、満足のいくフルストップのためのスペースを残しました。その後、彼女は宮殿を見上げて、シントラは彼女の編集計画の何も知らなかったことを発見しました。カラフルなタワーは、非常に説得力のあるオブジェのように見えます。

オリジナルのTravel2Cityの写真に触発されたイラスト。1日の旅程ではなく、別の旅程から来る場所。キャラクター、対話、プロップ、構成や照明は、芸術的な解釈です。

ワン・ラスト・センテンスの部屋





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

シントラ

宝石のアーチの下に、メアは彼女のノートブックを開き、彼女の鉛筆を読みました。彼女は頭の中で最後の文の始まりを構成し、彼女の視線は塔にエスケープしました。赤、黄、白、それらの間に空の一部。それぞれの色は、そのラインを望むように見えます。鉛筆が待っていた。メアは、非常

に患者の同僚との会議のために遅れていたので、それを気まぐれな外観を与えました。

> 「**これで、本当にそう。**」

石のノート





アーカイブの写真

イラストでたどる旅 · Mea Zen

シントラ

重ねて彫られたポータルで、再び止まった。上記の石面は、原稿に重大なメモがあったので見えました。メアは、彼女の胸に閉じたノートを握って笑顔にしました。余計なチャプターは、黙って約束した。小さな追加だけ。刻まれた目はミリメートルを産みませんでした。非常によく:追加は、自分のページを持っている可能性があります。それについて議論する必要はありません。

> 「**あなたは厳密なエディタを作る**」

横線を超えたライン





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

シントラ

城壁には、鉛筆を休ませてもらいます。緑を上回る石道の創始者、それぞれが別の可能な文章のように見えます。何もノートに収まることはありません。それははるかに明確でした。メアはそれをしようと停止しました。パラペットの後ろに滞在し、息をとり、すぐに録画せずにビューが存在するようにしました。場合によっては、最高の段落が家を出した後にのみ到着します。

> **「マージン同士でフィッティングすることなく、これを記憶できる」**

もう一ページ





アーカイブの写真

イラストでたどる旅・Mea Zen

シントラ

庭では、オレンジの花が彼女を遅らせた。当然のことながら、。メアはノートブックを再開しなかった。内側に鉛筆を刺し、腕の下に持ちました。未完成の文章でパスに沿って続行できます。突然、気持ちよく見える。最後のページは何も閉じる必要はありませんでした。笑顔、ターンして別の一歩を踏み出す場所になるかもしれません。

> 「**もう一つ**」

フルストップは待つことができます

ノートブックはほぼいっぱいでしたが、そのページ数を順守する必要がなかった。その夜、メアはテーブルの上に置き、その上に鉛筆を残します。必要に応じて、別のノートブックを起動します。素敵な物語は、自分の継続を時々見つけます。

Mea Zen · Colombine MichelangeLove

Travel2Cityでこの物語を読む